

SSS

社会科学部

School of
Social Sciences

**2016 年度
科目登録の手引き
(2009 年度以降入学者用)**

2016 年度 社会科学部 授業日程表

春学期 (前半: 4/6 (水) ~6/7 (火)、後半: 6/8 (水) ~8/2 (火))											
月		火		水		木		金		土	
4月4日	休業期間	4月5日	休業期間	4月6日	授業開始	4月7日		4月8日		4月9日	
4月11日		4月12日		4月13日		4月14日		4月15日		4月16日	
4月18日		4月19日		4月20日		4月21日		4月22日		4月23日	
4月25日		4月26日		4月27日		4月28日		4月29日	祝日	4月30日	臨時休業日
5月2日	臨時休業日	5月3日	祝日	5月4日	祝日	5月5日	祝日	5月6日		5月7日	
5月9日		5月10日		5月11日		5月12日		5月13日		5月14日	
5月16日		5月17日		5月18日		5月19日		5月20日		5月21日	
5月23日		5月24日		5月25日		5月26日		5月27日		5月28日	
5月30日		5月31日		6月1日		6月2日		6月3日		6月4日	
6月6日		6月7日		6月8日		6月9日		6月10日		6月11日	
6月13日		6月14日		6月15日		6月16日		6月17日		6月18日	
6月20日		6月21日		6月22日		6月23日		6月24日		6月25日	
6月27日		6月28日		6月29日		6月30日		7月1日		7月2日	
7月4日		7月5日		7月6日		7月7日		7月8日		7月9日	
7月11日		7月12日		7月13日		7月14日		7月15日		7月16日	
7月18日	祝日 授業実施日	7月19日		7月20日	教場試験	7月21日	教場試験	7月22日	教場試験	7月23日	教場試験
7月25日	教場試験	7月26日	教場試験	7月27日	定期試験	7月28日	定期試験	7月29日	定期試験	7月30日	定期試験
8月1日	定期試験	8月2日	試験予備日	8月3日	休業期間	8月4日	休業期間	8月5日	休業期間	8月6日	休業期間
秋学期 (前半: 9/28 (水) ~11/26 (土)、後半: 11/27 (日) ~2/6 (月))											
月		火		水		木		金		土	
9月26日	休業期間	9月27日	休業期間	9月28日	授業開始	9月29日		9月30日		10月1日	
10月3日		10月4日		10月5日		10月6日		10月7日		10月8日	
10月10日	祝日 授業実施日	10月11日		10月12日		10月13日		10月14日		10月15日	
10月17日		10月18日		10月19日		10月20日		10月21日	授業実施日 (創立記念日)	10月22日	
10月24日		10月25日		10月26日		10月27日		10月28日		10月29日	
10月31日		11月1日		11月2日	体育祭 (休講)	11月3日	祝日	11月4日	臨時休業日	11月5日	早稲田祭 (休講)
11月7日	学部デー※	11月8日	学部デー※	11月9日		11月10日		11月11日		11月12日	
11月14日		11月15日		11月16日		11月17日		11月18日		11月19日	
11月21日		11月22日		11月23日	祝日 授業実施日	11月24日		11月25日		11月26日	
11月28日		11月29日		11月30日		12月1日		12月2日		12月3日	
12月5日		12月6日		12月7日		12月8日		12月9日		12月10日	
12月12日		12月13日		12月14日		12月15日		12月16日		12月17日	
12月19日		12月20日		12月21日		12月22日		12月23日	休業期間	12月24日	休業期間
12月26日	休業期間	12月27日	休業期間	12月28日	休業期間	12月29日	休業期間	12月30日	休業期間	12月31日	休業期間
1月2日	休業期間	1月3日	休業期間	1月4日	休業期間	1月5日	休業期間	1月6日		1月7日	
1月9日	祝日	1月10日		1月11日		1月12日		1月13日		1月14日	
1月16日		1月17日		1月18日		1月19日		1月20日		1月21日	
1月23日		1月24日	教場試験	1月25日	教場試験	1月26日	教場試験	1月27日	教場試験	1月28日	教場試験
1月30日	教場試験	1月31日	定期試験	2月1日	定期試験	2月2日	定期試験	2月3日	定期試験	2月4日	定期試験
2月6日	試験予備日	2月7日	休業期間	2月8日	休業期間	2月9日	休業期間	2月10日	休業期間	2月11日	休業期間

※「学部デー」は、社会科学部設置科目のみ授業が実施されません。他学部・GEC等の設置科目は授業があります。注意してください。

2016年度 社会科学部 学部歴

行事		日程	
4 月 入 学 式 (全 学 部)			4月 1日(金)
春 学 期	春学期授業開始 ※前半 4/6(水)~6/7(火)・後半 6/8(水)~8/2(火)		4月 6日(水)
	臨時休業日		4月 30日(土)
	春学期中間試験期間 ※週2回講義を行う特定の科目に限る	自	5月 2日(月)
		至	6月 1日(水)
	祝日授業日		6月 7日(火)
	春学期教場試験期間	自	7月 18日(月)
		至	7月 20日(水)
	春学期定期試験期間	自	7月 26日(火)
	試験予備日	自	7月 27日(水)
	至	8月 1日(月)	
春学期授業終了		8月 2日(火)	
夏季休業期間	自	8月 3日(水)	
	至	9月 20日(火)	
9 月 卒 業 式 ・ 学 位 授 与 式		※予定	9月 17日(土)
9 月 入 学 式 (全 学 部)			9月 24日(土)
秋 学 期	秋学期授業開始 ※前半 9/28(水)~11/26(土)・後半 11/27(日)~2/6(月)		9月 28日(水)
	祝日授業日		10月 10日(月)
	創立記念日(授業実施)		10月 21日(金)
	体育祭(全学授業休講)		11月 2日(水)
	臨時休業日		11月 4日(金)
	早稲田祭(全学授業休講)	自	11月 5日(土)
		至	11月 6日(日)
	学部デー	自	11月 7日(月)
		至	11月 8日(火)
	秋学期中間試験期間 ※週2回講義を行う特定の科目に限る	自	11月 21日(月)
		至	11月 26日(土)
	祝日授業日		11月 23日(水)
	冬季休業期間	自	12月 23日(金)
		至	2017年 1月 5日(木)
	秋学期教場試験期間	自	1月 24日(火)
		至	1月 30日(月)
	秋学期定期試験期間	自	1月 31日(火)
		至	2月 4日(土)
試験予備日		2月 6日(月)	
秋学期授業終了		2月 6日(月)	
春季休業期間	自	2月 7日(火)	
	至	3月 31日(金)	
3 月 卒 業 式 ・ 学 位 授 与 式		※予定	3月 25日(土)

事務取扱時間 月～金曜日 9:00～19:00(17時以降は大学院社会科学研究科の事務取扱いを中心とします)
 土曜日 9:00～17:00
 ※日曜日、祝日(祝日授業日をのぞく)、臨時休業日、一斉休業日、年末年始の事務取扱いはいたしません。
 また、夏季・冬季・春季休業期間は事務取扱時間が異なります。

2016 年度 社会科学部 科目登録・成績日程

学期	項目	日時 ※0	申請方法 ・場所	結果発表 (Waseda-net メール)	備考
春学期	学生証裏面シール・科目登録の手引き 配布	3/7(月) 10:00 ~ 3/8(火) 17:00 ※3/9(水)以降は事務所に配布	14号館4階 学生読書室	-	
	英語2-1 クラス変更	3/7(月) 10:00 ~ 3/8(火) 17:00	社会学事務所	-	※1
	教養外国語 変更				※2
	新2年生 英語2-2 (春・秋) 登録	3/9(水) 10:00 ~ 3/10(木) 17:00	MyWaseda	~ 3/15(火) 8:00	※3
	再履修者 英語・教養外国語 登録				※4
	1次登録 (在学学生)	3/17(木) 10:00 ~ 3/19(土) 17:00	MyWaseda	~ 4/6(水) 8:00	
	1次登録 (新入生)	3/29(火) 10:00 ~ 3/31(木) 17:00	MyWaseda		
	2次登録	4/6(水) 10:00 ~ 4/7(木) 17:00	MyWaseda	~ 4/11(月) 8:00	
	3次登録	4/13(水) 10:00 ~ 4/14(木) 17:00	MyWaseda	~ 4/18(月) 8:00	
	聴講料納入	4/19(火) ~ 4/25(月) ※生協の営業時間内	生協	-	
成績発表	9/1(木) 9:00	-	-		
秋学期	英語2-2 (秋) クラス変更	9/12(月) 10:00 ~ 9/13(火) 17:00	社会学事務所	-	※5
	再履修者 英語・教養外国語 (秋) 登録	9/14(水) 10:00 ~ 9/15(木) 17:00	MyWaseda	~ 9/20(火) 8:00	※6
	1次登録	9/21(水) 10:00 ~ 9/23(金) 17:00	MyWaseda	~ 9/28(水) 8:00	
	2次登録	9/28(水) 10:00 ~ 9/29(木) 17:00	MyWaseda	~ 10/3(月) 8:00	
	3次登録	10/5(水) 10:00 ~ 10/6(木) 17:00	MyWaseda	~ 10/10(月) 8:00	
	聴講料納入	10/11(火) ~ 10/17(月) ※生協の営業時間内	生協	-	
	成績発表	2017. 3/1(水) 9:00	-	-	

※0 上記期間に Web 申請、社会学事務所での手続きが行えない場合、代理人による登録・手続きを行ってください。詳細は事務所に相談ください。

※1 【英語2-1 クラス変更について】

新2年生は、英語1-1と同じクラスが2年次に自動登録されますが、英語1-1の成績が春学期・秋学期ともに「A+」であった学生のみ、1つ上のクラスに変更できます。詳細は、社会科学部 HP または掲示板「必修外国語の事務所窓口による申請手続きについて」を参照ください。

※2 【教養外国語変更について】

入学時に選択した教養外国語は、在学中一度に限り、変更が可能です。変更した場合、それまでに修得した教養外国語の単位は無効となります。詳細は、社会科学部 HP または掲示板「必修外国語の事務所窓口による申請手続きについて」を参照ください。

※3 【新2年生 英語2-2 登録について】

新2年生は各自必ず、Web 科目登録申請にて英語2-2 (春・秋) を登録してください。なお、英語2-1は自動登録となります。

※4 【再履修者 英語・教養外国語 再履修登録について】

英語・教養外国語ともに、春学期科目が不合格の学生は、各自 Web 申請してください。秋学期科目のみ不合格の場合は、秋学期の科目登録時に申請してください。なお、英語1-2 (General Tutorial English) が不合格の場合、社会学設置の「英語1-2 (春・秋)」の2単位を履修する必要があります。

注意

教養外国語“イタリア語”・“朝鮮語” (GEC 設置科目) の再履修者は、Web 申請できません。社会科学部事務所に手続きしてください。

※5 【英語2-2 (秋学期) クラス変更について】

前学期に履修した英語2-2 (春学期) が不合格であった場合のみ、英語2-2 (秋学期) のクラス変更を認めます。定員に余裕のあるクラスのみに変更が可能です。クラス候補については、申請時に事務所に開示されます。

※6 【再履修者 英語・教養外国語 (秋学期) 再履修登録について】

必修英語・教養外国語の秋学期分単位が未修得の学生は、各自 Web 申請してください。

CLOSE-UP 2016

▶ アカデミックカテゴリー（旧コンセントレーション）が拡充されました。

2015 年度に設置されたコンセントレーション（特定テーマ研究）は、“アカデミックカテゴリー（特定テーマ研究）” に名称が変更されました。

また、2016 年度より新しいカテゴリーが 2 つ増設されました。履修計画の指標としてください。

⇒ 詳細は P.5~をご確認ください。

▶ 積み上げ式科目（「○○ I」と「○○ II」）はセット登録されます。

積み上げ式科目（科目名が「○○ I」と「○○ II」となる科目）は I と II の両方を履修することが推奨されています。

2016 年度より、春学期に「○○ I」を履修し合格した学生には、秋学期 1 次登録前に「○○ II」が自動的に登録されることとなりました。自動的に登録された「○○ II」は、秋学期 1 次、3 次登録期間にて取り消しができますが、2 次登録期間中、また登録期間が終了した後は一切変更できません。ご注意ください。

▶ 教養外国語の再履修者は各自 Web 申請となりました。

2015 年度までは、教養外国語（※日本語選択者を除く）再履修者は自動的に教養外国語不足科目が登録されていましたが、2016 年度より、ご自身で時間割を選択し、Web 登録することとなりました。

各自必ず、卒業までに履修・合格するように登録を行ってください。

⇒ 詳細は P.26~をご確認ください。

2016年度 科目登録の手引き

－目次－

I. カリキュラム

1. 卒業要件 P. 1
2. 分野紹介 P. 3
3. 履修計画の指針 P. 5
4. 社会科学部以外で履修できる科目 P.25

II. 科目登録

1. 科目登録手続きのながれ P.26
2. 主なルール・注意点 P.32
3. WEB 科目登録利用マニュアル P.42

III. 資格

1. 教員免許状 P.53
2. その他の資格 P.58

IV. 学科目配当表 P.59

付録

1. オフィスアワー P.71
2. 教員連絡先 P.73

I. カリキュラム

1. 卒業要件

社会科学部では「社会科学基礎教育課程（主として1・2年次）」と「学際・複合教育課程（主として3・4年次）」の「2階建て構造」の下に、各部門・分野が設置されており、下表のとおり卒業までに所定の124単位を修得する必要があります。

課程	科目部門※1		科目分野	所定単位数			
				【一般入学、3年次編入学】		【学士入学】	
社会科学基礎教育課程	①必修英語		英語 1	4 単位	8 単位	—	
			英語 2	4 単位			
	②教養外国語		ドイツ語	4 単位			
			フランス語				
			中国語				
			スペイン語				
			朝鮮語				
			イタリア語				
		日本語					
	③選択外国語※2			0~8 単位			0~8 単位
④コア科目	共通入門群※3		16~20 単位※4		0~12 単位		
	専門入門群						
⑤基盤専門科目	社会科学総合分野		38~52 単位 (2012 年度以前入学者)		10~32 単位	32 単位	
	人文科学分野						
	自然科学分野						
	政治学分野		36~52 単位 (2013 年度以降入学者)				
	商学分野						
	情報科学分野						
	法学分野						
	経済学分野						
	社会科学特殊講義						
専門英語							
⑥ゼミナール※5	ゼミナール I		0~2(2012 年度以前入学者) 0~4(2013 年度以降入学者)		0~2 単位		
	ゼミナール II・III		0~8 単位		0~8 単位		
⑦先進専門科目	社会科学総合分野		36~44 単位		44 単位	36~44 単位	44 単位
	人文科学分野						
	自然科学分野						
	政治学分野						
	法学分野						
	経済学分野						
	商学分野						
	情報科学分野						
	先進社会科学特殊講義						
外国書研究							
⑧社会科学総合研究							
卒業必要単位数の合計				124 単位		76 単位	

- ※1. 卒業必要単位数は、科目部門毎に定められた所定の単位数に達するように科目を履修し、単位を修得することで満たされます。
- ※2. 「選択外国語科目」の履修は、卒業のための必要条件ではありません。希望者が履修し修得した単位は「社会科学部基礎教育課程」の卒業必要単位として「8 単位」まで算入することができます。
- ※3. 2013 年度までは、共通入門群は卒業までに「2 科目 4 単位以上」取得する必要がありましたが、2014 年度よりこの条件は廃止となりました。
- ※4. コア科目は、卒業までに 16 単位以上の取得が必須となり、「20 単位まで」社会科学基礎教育課程の卒業単位数に算入することができます。
- ※5. ゼミナールの履修は卒業のための必要条件ではありません。希望者が選考に合格し修得した単位は、卒業単位数に算入されます。ゼミナール I は社会科学基礎教育課程として、2012 年度以前入学者は「2 単位」、2013 年度以降入学者は「4 単位」算入されます。また、ゼミナール II・III は学際・複合教育課程として、「8 単位」算入されます。したがって、ゼミナールは卒業単位数として、2012 年度以前入学者は「合計 10 単位まで」、2013 年度以降入学者は「合計 12 単位まで」まで算入されます。
- ※ 「学士入学者」は、2 年以上在学し、所定の科目を「76 単位以上」修得しなければなりません。
- ※ 「3 年次編入学者」（転部者、3 年編入学者、外国学生編入学者）は、2 年以上在学し、1 年入学者と同様の所定単位数から、出身教育機関における修得単位のうち、本学部編入学時に認定を受けた各科目部門の単位数を減じた、残り単位数を修得することで卒業要件を満たします。

社会科学基礎教育課程（卒業必要単位数：80単位）

① 必修英語

英語は入学時の WeTEC 受験結果により、習熟度別クラスに分かれて履修します。

1 年次に英語 1-1（春学期／秋学期）各 1 単位、英語 1-2（General Tutorial English）2 単位、2 年次に英語 2-1（春学期／秋学期）各 1 単位、英語 2-2（春学期／秋学期）各 1 単位、在学中合計 8 単位の修得が必要です。

※2016 年度以降入学者で、入学時の WeTEC が高得点だった者は、英語 1-1 ではなく、代替科目を履修します。（P.28 参照）対象者は個別に連絡します。

※1・2 年次に修得できなかった科目があった場合、卒業までに修得する必要があります。

② 教養外国語

教養外国語は、ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・イタリア語・朝鮮語・日本語（外国学生※のみ選択可）より 1 言語選択し、1 年次の春学期に“〇〇語 1・2 基礎”各 1 単位、秋学期に“〇〇語 1・2 初級”各 1 単位、合計 4 単位の修得が必要です。

※外国学生とは、外国学生特別入試および海外指定校推薦制度入試より入学した学生です。

※イタリア語・朝鮮語・日本語は社会科学部の科目ではないため、“基礎・初級”ではありません。必要単位数は同じ合計 4 単位です。

※1 年次に修得できなかった科目があった場合、卒業までに修得する必要があります。

③ 選択外国語

教養外国語科目として選択しなかった言語及び教養外国語として選択した言語の準中級・中級クラスを選択外国語として履修することが可能です。

卒業のための要件ではありませんが、年間 4 単位・卒業まで 8 単位を上限として卒業算入単位とすることができます。

④ コア科目

コア科目は、社会科学部カリキュラムの基礎にあたる科目で、1・2 年次に履修が望めます。どの学問領域にも共通する基本的知識を身につけるとともに、それぞれの学問領域における基本的概念や専門用語についての知識を習得します。

分析の技法や手法を中心に据えた「共通入門群」と、専門用語の解説や必須の概念・理論を中心に組み立てた「専門入門群」があり、あわせて最低 16 単位、最大 20 単位の履修が必要です。

⑤ 基盤専門科目

基盤専門科目は、1・2 年生が主に履修します。専門科目の中でも基礎性が高く、他の学部で学ぶ専門的内容のエッセンスを 1・2 年のうちに学び終えることを理想とする、社会科学基礎教育課程の中心科目です。社会科学総合・人文科学・自然科学・政治学・法学・経済学・商学・情報科学・社会科学特殊講義・専門英語の 10 分野があります。

⑥ ゼミナール

ゼミナールは、社会科学部の基本理念のひとつである「問題発見・解決のできる学生の育成」をより具体的に推し進めるため、小人数教育の充実を目指した演習授業です。卒業のための要件ではありませんが、修得した単位は、ゼミナール I は社会科学基礎教育課程、ゼミナール II/III は学際・複合教育課程の単位として算入されます。ゼミナールの各クラスは、3 年間（2012 年以前の入学者は 2 年半）にわたって一貫したテーマにより実施されます。ゼミナール登録は、ゼミナール担当教員による選考で決定し、合格したゼミナールは自動登録されます。

※2012 年度以前入学者はゼミナール I（春学期）を卒業単位として算入できません。

※ゼミナール II および III は、II・III の履修者が合同で科目を受講します。

学際・複合教育課程（卒業必要単位数：44単位）

⑦ 先進専門科目

先進専門科目は、学際・複合教育課程に算入される科目で、3・4 年生が主に履修します。新しい領域、学際性、専門性の高い科目、他の学部がない科目が設置されている、学際・複合教育の中心科目です。社会科学総合・人文科学・自然科学・政治学・法学・経済学・商学・情報科学・外国書研究・先進社会科学特殊講義の 10 分野があります。

⑧ 社会科学総合研究

社会科学総合研究は、「学際」の概念を推進し、最新の社会動向とそれらの抱える諸問題を総合的に分析、解決の糸口を探り出そうとする科目です。現代社会が直面しているテーマについて、専門分野を異にする教員が交替で担当し、多角的な切り口から問題を分析し講義する科目であり、社会科学の総合化・学際化を標榜する本学部の具現化する科目となっています。必修科目ではありませんが、修得した単位は学際・複合教育課程の単位として算入されます。

2. 分野紹介

社会科学部は、社会で起こる諸現象を、社会科学の専門諸分野の壁を越えた学際的・総合的視点から、分析、解明して、解決策を考えることを創設以来目指してきた学部です。もちろん、自然科学、人文科学の専門知識も動員します。以下のような科目群や分野があります。将来の目的に沿って上手に組み合わせて選択、履修してください。

社会科学総合分野

社会学は、創設以来、社会・人文・自然科学の「総合」を教育理念としている学部です。現実社会が直面する複雑で錯綜した諸課題が、益々、総合的なもの見方とソリューションを要請しているからです。

社会科学総合分野は、社会学の中で「総合・学際的な科目」を設置して、福祉、ジェンダー、環境、労働、小集団、地域市民社会、世界商業史、思想史、公共哲学、公共政策などをテーマとして講義をしています。無論、はじめから「総合」できる訳ではありませんが、まず、「入門」や「基礎」の科目から履修をし、自分が格闘すべき社会問題を見つけて、どんな科目が問題の解明と解決に役立つかを考えます。ゼミでの学びが大いに役立つ筈です。

在学中に「総合」を志向・思考せずして、社会学を語るなかれ、です。そうでなければ、他学部の設置科目の寄せ集めで事足りるのだから。

政治学分野

政治現象は、地方・国家・国家間・地域・地球規模などさまざまなレベルで展開されます。これを比較・モデル・統計・法政策・歴史・哲学などの手法と視野から分析するのが政治学です。

コア科目の「政治学入門Ⅰ・Ⅱ」や「政治分析の基礎」はその概要と思考様式の基礎を紹介し、基盤専門科目の「政治学原論」はそれらをより専門的に扱います。また、コア科目の「国際関係論入門」は、理論とフィールドの両面から、紛争・暴力や共同・統合の問題について学ぶための基礎を提供し、「平和学Ⅰ・Ⅱ」や「平和構築論」、「国際関係論」などの基盤・先進専門諸科目では、それらの諸問題についてより深く発展的に扱います。

さらに、政治的意思決定の形成を分析する「政治過程論」や「立法過程論」、法政策の運用に注目する「行政学Ⅰ・Ⅱ」、各国統治制度を比較の視点も交えて講ずる「現代政治制度論」、地域ごとの研究を反映した「比較政治学」「現代政治分析」、政治理論や理念の歴史を扱う「政治学史」、情報と政治行動のダイナミクスを見る「情報政治論」「政治行動論Ⅰ・Ⅱ」などの基盤・先進専門諸科目があります。

法学分野

法学は、法律や判例等を通じて制度化されている社会規範である法について学ぶ学問分野です。社会科学部の学生として社会科学を学ぶにあたって、制度の何たるかについての理解は不可欠です。市民間の紛争の解決の基準となる民事法の本質を学ぶ科目として「私法入門(市民と法)」がコア科目として用意されています。国家と市民との関係の基礎については、コア科目「公法入門(国家と法)」で学びます。民事法の中でも基本的な法律である民法と会社法にかかわる科目、政府のあり方と国民の人権保障について定める憲法にかかわる科目、犯罪とその処罰についてさだめる刑法にかかわる科目を受講すれば、法学を専門的に学ぶための基盤を築くことができます。行政法や労働法を学ぶと世の中の仕組みがよく理解できるようになります。環境法、医事法、国際経済法のように、法学以外の分野との関連性が強い科目では、学際的な研究に触れることもできるでしょう。

法学分野の学習に関しては、アカデミックカテゴリー「リーガルマインド―法的なものの考え方と議論の技法」の履修ガイドも参考になりますので、参照することをおすすめします。

経済学分野

近代経済学の碩学・ケンブリッジ学派のA・マーシャルは、経済学を「暖かい心」と「冷静な頭脳」をもって勉強するように教えました。スラム街や開発途上国の貧困問題をはじめ、資源利用の不効率性、失業、物価の不安定などの深刻な経済問題に対しては、単にそれらの解決を「願望的」に思考するばかりでなく、「冷静な頭脳」による分析を通じて具体的に解決策を提示していくことが必要です。自由市場経済では、これらの問題は市場メカニズムを利用して解決されます。そこでミクロ経済学の基礎を学び、市場の働きについて理解します。しかし、市場メカニズムだけではすべての問題を解決できない場合もあります。そのときには政府が公共財の供給、所得の再分配、景気の安定化などの経済政策を行うことで、重要な役割を果たします。

このような経済政策を理解するために、マクロ経済学の基礎を学びます。経済学入門で学ぶミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的知識は、経済成長、国際貿易、金融、労働、環境、福祉、農業、科学技術など様々な分野の分析に応用されます。経済学の知識を活用して、社会の様々な現象を分析的に理解し、問題解決のための方策を考える力を養って下さい。

商学分野

企業の経営資源に「人」「物」「サービス」「資金」「情報」があります。商学系列の科目を履修することで、これら経営資源を有効に活用し、高い生産性と企業価値の向上を達成するためのマネジメントについて理論的・実証的に学んでいくことができます。商学系列では「経営学入門」と「マーケティング入門」をコア科目として設置しています。「経営学入門」では、企業の活動や、経営の仕組みについて基礎概念を取得することを目的としています。「マーケティング入門」では、商品やサービスなどの消費者との接点の諸相について、事例を踏まえて学んでゆきます。

経営について、より専門的には「経営学」や「国際経営論」で学ぶことができます。また、現代企業に必須とされる科学的方法論のスキルは「経営科学」によって得られます。上述の経営資源に対応する固有領域は「経営組織論」「流通論」「国際貿易論」「管理会計」「外部報告会計論」「企業財務論」「情報科学論」に対応していますので、各分野における専門知識を習得することができます。いずれも経営のプロフェッショナルとして必須の内容です。

商学は金融・証券・保険・貿易など、様々な場面における取引がその対象領域とされていますが、本学部では経営に係わる広範な学問領域を学ぶことができます。

情報科学分野

情報科学分野の科目は、主として1、2年生を対象とした社会科学基礎教育課程と高学年を対象とした学際・複合教育課程の科目があります。前者は社会科学諸分野に共通するコンピュータアプリケーションソフトウェアの扱い方やインターネットの活用法を学びながら、社会科学に関わるデータの収集、処理、加工、蓄積、表現の基本的方法を、実習を通して学んでゆく科目です。その中で、簡単なプログラムを作成することも含まれています。後者は、社会科学それぞれの分野固有の問題を情報科学的立場からシステムとして複合的に解析すること、問題解決を目指した情報システムのデザイン、テキスト・画像・音声を総合的に融合し、表現するマルチメディアデータの処理を学んでゆく科目があります。

これらの科目を社会科学科目と併行して履修することにより、学んだことがらをより広く、深く理解し、更にもその内容を多様な方法で表現することを体得することが出来ます。

人文科学分野・自然科学分野

学問は大きく人文・社会・自然科学に分けられます。社会科学の多くが、近代とともに発展したのとは対照的に、人文科学や自然科学の歴史は古く、中には文明の始まりにまでさかのぼる分野もあります。また、社会科学が主に人間を集団として考察するのに対して、哲学、文学、心理学のように個人の内面へと向かう視点もあります。人文・自然科学は、社会科学の礎となった学問領域であり、社会科学とは少し違った視点から社会や人間を研究します。

哲学、文学、歴史学のほかに、漢字文化圏の研究、文化論、コミュニケーション論、メディアに関する研究、音楽を中心とした「芸術論」、遺伝子レベルから人間をみる「生命科学」、科学の歴史、生物の世界と環境のかかわりを分析する「生態学」、都市計画やまちづくりなど、皆さんの知的好奇心をかき立てる講義が、多数用意されています。これらは、大学生としての幅広い教養を涵養し、新しいアイデアやユニークな着眼点を生む知識の源になります。

3. 履修計画の指針

計画的な科目履修に資するため、社会科学部での、学科目履修のガイドとして次の2つの指針を利用することが効率的です。

学部が設置するアカデミックカテゴリーは、社会科学の様々な問題に理論的および実証的に取り組むため、伝統的な学問分野について学ぶ Academic Approaches と、今日の社会で生起している様々な問題から社会科学方法論を学ぶ Themes & Subjects のふたつを用意しています。これらは、さらにいくつかのカテゴリーに分かれていますので、自分の興味に合わせて学科目履修の指針としてください。

いまひとつは、2年生から履修するゼミナールです。ゼミナールでは少人数でディスカッションを中心とした形式で行われます。3年間同一のゼミナールを履修するのが原則ですので、自らの興味に合致したゼミナールの関連科目を履修することもひとつの手段です。

3-1. アカデミックカテゴリー（特定テーマ研究）

① 「アカデミックカテゴリー（特定テーマ研究）」とは

各自の履修計画をサポートするために、本学部では2つの視点から構成される、科目グループ（カテゴリー）を用意しています。これらの科目群は3年生までに履修することが望ましく、可能な限り複数の領域に挑戦することを強く推奨します。

各カテゴリーには入門レベルと応用レベルに対応した科目が設定されています。少なくともひとつのカテゴリーは応用レベルの科目まで履修することを強く推奨します。

Academic Approaches

社会科学部の特色のひとつは「学際」です。逆説的のように見えますが、「学際」的なアプローチを行うには、伝統的な学問領域をしっかり学ぶことが重要です。伝統的な学問領域を体系的に学ぶことで、はじめて「学際」を理解することが可能になるからです。この分野群では、このような目的のために科目群を提供しています。

- 政治学・政治理論研究 P. 6
- 経済学 P. 7
- リーガルマインド P. 9
- ビジネス・アドミニストレーション P.11
- グローバル社会と文化理解 P.13

Themes & Subjects

今日の社会が抱える問題や、グローバル社会のなかでの日本のアイデンティティについて、サブジェクトベースでのアプローチを行う科目群。伝統的な学問分野の枠を超えてアプローチすることが求められる問題に多面的にアプローチします。

- 法と経済学 P. 14
- サステナビリティ学 P. 15
- 社会デザイン P. 16
- 日本の社会と公共政策 P. 18
- 平和研究 P. 20
- 日本の歴史と文化 P. 22
- アメリカ研究 P. 23

② 修了に必要な単位等

各アカデミックカテゴリーでは、修了に必要な単位数（10～20 単位程度）が定められています。また、修了するためには必ず修得しなければならない「アカデミックカテゴリー必須科目」とそれ以外の「アカデミックカテゴリー選択科目」が設置されています。次ページ以降の各アカデミックカテゴリーの設置概要に沿って履修計画を立ててください。

※修了必要単位は、卒業単位への「算入」・「非算入」との関係はありません。単位が修得できれば修了必要単位として認定されます。

※各アカデミックカテゴリーにおける修了要件を満たすことにより、「修了証明書」を発行することができます。

なお、2015年度までのコンセントレーション（旧制度）と2016年度からのアカデミックカテゴリーでは修了要件が一部異なりますが、2015年度までに旧制度の要件を満たしていた場合は、旧制度要件での修了証明書を発行いたします。

Academic Approaches

政治学・政治理論研究 / Political Science

1. 概要

「政治」などという、ダサくて鬱陶しいものとは関わり合いになりたくないという諸君も多いであろう。しかし、政府の政策に何の影響も受けずにいられるかと言えば、そうではない。民主国家に生きる国民として、必要な政治現象に関する知識と判断力を得ることが、このアカデミックカテゴリーの目標である。政治現象を学ぶための政治学科は、必ずしも多くの大学に設置されてはいない。学科組織を取らないために見逃しやすいことは、本学部設置されている政治学関連科目がカバーする範囲と内容は、多くの他大学の政治学科のそれに遜色がないことである。この条件を生かしてほしい。

2. 修了必要単位：14単位（必須科目から4単位、選択科目10単位）

▼アカデミックカテゴリー必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
政治分析の基礎	コア科目	1年～	2
政治学入門	コア科目	1年～	2
政治学原論Ⅰ	基盤専門	2年～	2
政治学原論Ⅱ	基盤専門	2年～	2
政治学史Ⅰ	基盤専門	2年～	2
政治学史Ⅱ	基盤専門	2年～	2

※必須科目のうち、4単位を超えて修得した単位は、選択科目の単位として取り扱う。

▼アカデミックカテゴリー選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
日本政治史Ⅰ	基盤専門	1年～	2
日本政治史Ⅱ	基盤専門	1年～	2
外国政治史Ⅰ	基盤専門	1年～	2
外国政治史Ⅱ	基盤専門	1年～	2
政治分析	基盤専門	1年～	2
現代政治制度論	基盤専門	2年～	2
現代政治分析	先進専門	3年～	2
政治過程論Ⅰ	先進専門	3年～	2
政治過程論Ⅱ	先進専門	3年～	2
比較政治制度論Ⅰ	基盤専門	2年～	2
比較政治制度論Ⅱ	基盤専門	2年～	2
行政学Ⅰ	基盤専門	2年～	2
行政学Ⅱ	先進専門	2年～	2
政治行動論Ⅰ	先進専門	3年～	2
政治行動論Ⅱ	先進専門	3年～	2
選挙制度論	基盤専門	1年～	2

Academic Approaches

経済学 / Economics

1. 概要

ポイント：経済学関連の科目の履修に際しては、ミクロ経済学ならびにマクロ経済学の基礎知識が必要不可欠である。経済学アカデミックカテゴリーでは、経済学入門1・2（ミクロ経済学・マクロ経済学）の履修を必須とすることで、それらを応用した科目の履修がスムーズに行われるよう配慮されている。

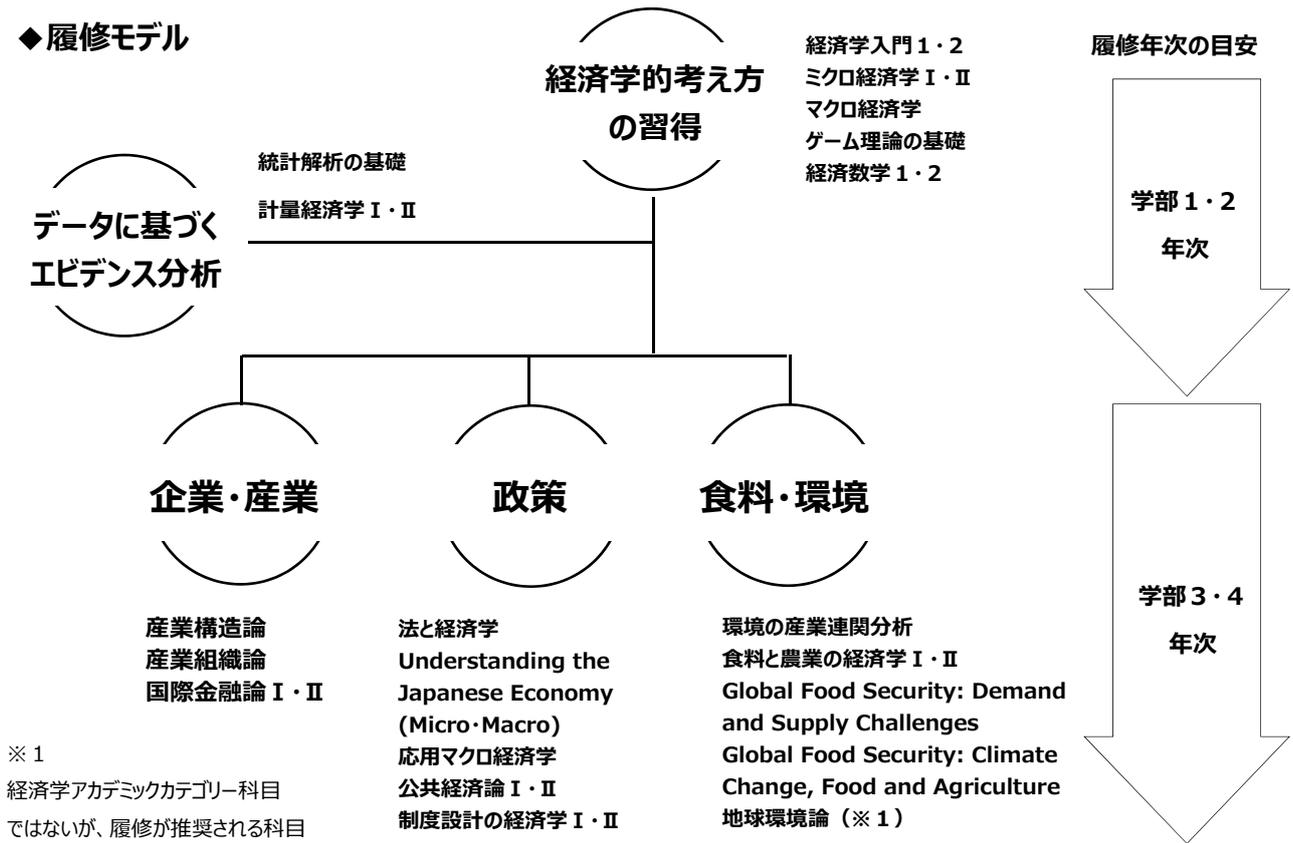
私たちの生活にとって経済活動は欠かせないものである。しかし、その背後にある経済の仕組みを理解し、それをより良いものにするための方策を明瞭に語れる人は少ないだろう。特に現代の経済は、急速なグローバル化の影響もあり、非常に複雑化している。このように身近な存在であるにも関わらず、難解とも思える経済に対して、**経済学**は「経済モデル」と呼ばれる現実を簡略化した理論モデルを用いることによって、その実体（性質や構造など）を明らかにしようと試みる学問である。従って経済学では、この経済モデルを丹念に学習していくことが中心となる。

ところで経済を学ぶ上で、どのようなことを知りたいと思うだろうか。「物の値段がどのように決まるのかを知りたい」、「自由な市場取引の利点と限界を知りたい」、「そもそも人は、どのように財の購入を決定しているかを知りたい」という人もいるかもしれない。このような、個々の市場や主体の行動に関するテーマを扱う分野は、**ミクロ経済学**と呼ばれる。一方で、「日本の国内総生産（GDP）がどのように決まるのかを知りたい」、「国によって経済成長率、インフレ率、失業率などが異なるのはなぜかを知りたい」、「政府の財政政策や金融政策が、どのように経済に影響するのかを知りたい」と思う人もいるだろう。これらは一国全体の経済の動きに関するものであり、**マクロ経済学**と呼ばれる分野で扱うテーマである。そして経済学は大きく分けて、これらの2つの分野から構成される。これらに加えて、**現実のデータ**を用いて経済モデルを検証したり、経済の動きを分析したりするアプローチも存在する。実際、経済学は理論モデルと現実のデータを、上手に融合する形で発展を遂げてきている。

経済学アカデミックカテゴリーでは、上述のミクロ経済学とマクロ経済学を理解する上で前提となる知識を得るために、「**入門経済学1・2**」の履修を**必須**としている。これらの科目は最初に履修することが望ましく、その上で**学部2年次までに「ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「マクロ経済学」、「ゲーム理論の基礎」、「経済数学1・2」**を履修することが**強く推奨**される。ゲーム理論は、戦略的な状況下における人々や企業などの行動を分析する分野であり、伝統的な経済学に対して新しい視点を与える分析ツールの一つとして知られている。経済数学は、経済モデルを正確に理解し、自在に使いこなせるようになるための基礎を与える科目である。また、現実のデータを通じて経済を理解するために、「**統計解析の基礎**」や「**計量経済学Ⅰ・Ⅱ**」を同時並行的に履修することも**推奨**する。

これらの基礎的な学習の後、学部3・4年次では、より専門的なテーマを学習する。ここでは、企業の行動や産業の規制方法などを分析する『**企業・産業**』、経済的な問題に対する政策のあり方などを学ぶ『**政策**』、食料・環境問題といった現代の経済を取り巻く諸問題などを扱う『**食料・環境**』の3つのテーマが用意されている。これらの中から1つを選んで深く学習することで、そのテーマに関するスペシャリストを目指しても良いし、いくつかのテーマを横断的に選択することで、総合力を身につけても良い。いずれにおいても、1・2年次でしっかりと経済モデルやデータの扱い方の基礎を身につけ、3・4年次でそれを土台として応用力を磨くことで、経済学の全貌が見えてくる。

◆履修モデル



2. 修了必要単位：14単位（必須科目4単位、選択科目10単位）

▼アカデミックカテゴリー必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数	科目名	科目区分	配当年次	単位数
経済学入門 1 (マクロ経済学)	コア科目	1年～	2	経済学入門 2 (ミクロ経済学)	コア科目	1年～	2

▼アカデミックカテゴリー選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数	科目名	科目区分	配当年次	単位数
マクロ経済学 ※推奨科目	基盤専門	2年～	4	Understanding the Japanese Economy: Microeconomic Perspectives ※	基盤専門	1年～	2
ミクロ経済学 I ※推奨科目	基盤専門	2年～	2				
ミクロ経済学 II ※推奨科目	基盤専門	2年～	2	Understanding the Japanese Economy: Macroeconomic Perspectives ※	基盤専門	1年～	2
ゲーム理論の基礎 ※推奨科目	コア科目	1年～	2				
経済数学 1 ※推奨科目	基盤専門	1年～	2	応用マクロ経済学	先進専門	3年～	4
経済数学 2 ※推奨科目	基盤専門	1年～	2	制度設計の経済学 I	先進専門	3年～	2
環境の産業連関分析	先進専門	3年～	2	制度設計の経済学 II	先進専門	3年～	2
産業構造論	基盤専門	2年～	2	公共経済論 I	基盤専門	2年～	2
産業組織論	先進専門	3年～	4	公共経済論 II	基盤専門	2年～	2
法と経済学	先進専門	3年～	2	国際金融論 I	先進専門	3年～	2
食料と農業の経済学 I	先進専門	2年～	2	国際金融論 II	先進専門	3年～	2
食料と農業の経済学 II	先進専門	2年～	2	統計解析の基礎	コア科目	1年～	2
Global Food Security: Demand and Supply Challenges ※	先進専門	2年～	2	計量経済学 I	基盤専門	2年～	2
Global Food Security: Climate Change, Food and Agriculture ※	先進専門	2年～	2	計量経済学 II	基盤専門	2年～	2

▼アカデミックカテゴリー科目ではないが、履修が推奨される科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
地球環境論	先進専門	3年～	4

※英語で行われる科目（現代日本学プログラム提供科目）

Academic Approaches

リーガルマインド—法的なものの考え方と議論の技法 / Legal Mind

1. 概要

「リーガルマインド」という言葉は、「法的思考」、「法律の実際の適用に必要とされる、柔軟、的確な判断」などと定義されることがありますが、もう少し広い意味でも使われます。このアカデミックカテゴリーは、法学分野のうち特に基本となる法律科目の総合的学習を通じて、法解釈の基本の習得、法的思考や議論の技法の獲得を目指すものです。

社会科学部には、基本的科目から、他大学・学部にはほとんど例を見ない学際・複合的な科目まで、多くの法律系科目が設置されています。「六法」に載っている法律の条文をあまり使わない科目もあります。科目によっては、このアカデミックカテゴリーに含まれるような基本的科目をある程度履修した上での履修が望まれます。

法律の中には、正確に覚えておいた方がよい条文があります。ただ、「六法全書」に載っている膨大な数の条文をやみくもに暗記・記憶しようとしても、すぐに挫折するでしょうし、暗記できたとしてもそれだけでは正しく使いこなすことはできません。条文の読み方や解釈については、長い歴史を経てある程度明確に固まった手法もあれば、暗黙のルールや運用のようなものもあります。

法律問題について、解釈の結果、全員一致で一つの結論に落ち着くとは限りません。特定の条文や論点の解釈について、明治時代からずっと多くの学説や判例の対立が続いていることも少なくありません。なぜ学説や判例が矛盾・対立しているのか、その理由を探求することで、法的な論理構造や発想法に触れることができます。

法律は専門家だけのものではありません。だれしも、生活していく上で必要な法律知識や法的発想法を身に付けておく必要があります。法律に直接関係なく暮らしていると考えている人々にとっても、現代社会を生きていく上で知っておくべき法的情報や知識があります。情報や知識だけでなく、法的な思考方法、論理展開に慣れておくことも重要でしょう。

法律の専門家を志す学生、法律に強い興味を持ち専門的学習を目指す学生にとって、法律学の基本となる憲法、民法、刑法について総合的な知識を身に付けることは、その後の学習・研究にとって極めて重要であることはいうまでもありません。ある条文・論点について、なぜ学説が対立しているのか、なぜ複数の判例は矛盾したかのような結論に至っているのか、それらの理由、背景、沿革などを理解し、さらにいくつかの法律を学ぶ過程で、「解釈」の種類や方法についての理解が深まるはずで

また、一見すると法律とは直接関係がないように見える他の専門分野の専門的学習を志す学生にとっても、基本的な法律知識はもちろん、条文解釈の技法や法的議論の様式を学ぶことは、それぞれの専門分野で必要となる法的知識の修得を容易にし、その後の学習・研究をさらに深めるのに資するものとなるでしょう。

◆履修モデル：

Step	私法系	公法系	学際／複合系	科目部門との対応
Step 4	<ul style="list-style-type: none"> 会社法 3〔組織再編・M&A〕 金融商品取引法 1・2 金融担保法 	<ul style="list-style-type: none"> 刑法各論 2 学校教育と憲法 刑事政策 犯罪学 国際経済法 2 	<ul style="list-style-type: none"> 集団的労働法 都市法 生命倫理と法 1・2 法情報学 1〔インターネットと法〕 法情報学 2〔メディアと法〕 不動産法 	おもに 先進専門科目
Step 3	<ul style="list-style-type: none"> 会社法 2〔会社のファイナンス〕 損害賠償法 	<ul style="list-style-type: none"> 刑法各論 1 国際法 2 税法 社会保障法 I・II 	<ul style="list-style-type: none"> 個別的労働法 II 法社会学 I・II 環境法 1・2 知的財産権法（著作権法） 知的財産権法（特許法, 商標法, 不正競争防止法） 	
Step 2	<ul style="list-style-type: none"> 民法 2〔物権〕 民法 3〔債権総論〕 民法 4〔債権各論〕 民法 5〔親族〕 民法 6〔相続〕 会社法 1〔会社のガバナンス〕 	<ul style="list-style-type: none"> 国際経済法 1 行政法総論 I・II 行政救済法 1〔行政訴訟〕 行政救済法 2〔国家補償〕 国際法 1 刑法総論 戦後重大犯罪と刑事法 	<ul style="list-style-type: none"> 医事法 個別的労働法 I 労働市場法 	おもに コア科目／ 基盤専門科目
Step 1	<ul style="list-style-type: none"> 私法入門 民法概論 民法 1〔総則〕 	<ul style="list-style-type: none"> 公法入門 憲法 I・II 		

2. 修了必要単位：10単位（必須科目から2単位、選択科目8単位）

▼アカデミックカテゴリー必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
憲法 I	基盤専門	1年～	2
公法入門（国家と法）	コア科目	1年～	2
私法入門（市民と法）	コア科目	1年～	2

※必須科目のうち、2単位を超えて修得した単位は、選択科目の単位として取り扱う。

▼アカデミックカテゴリー選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
憲法 II	基盤専門	2年～	2
民法概論	基盤専門	1年～	2
刑法総論	基盤専門	1年～	4

Academic Approaches

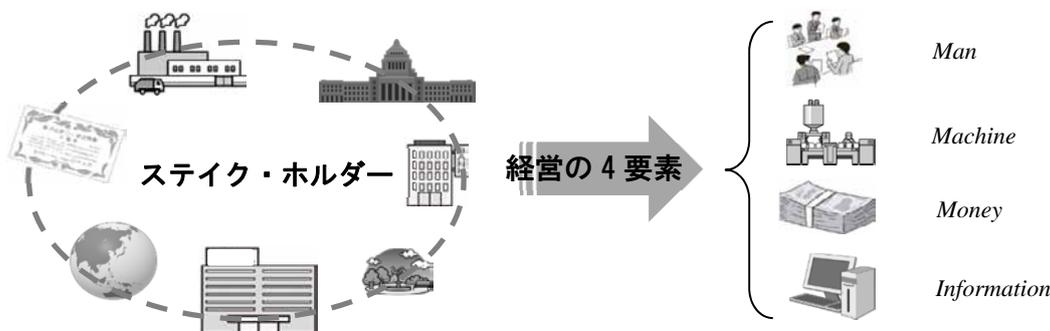
ビジネス・アドミニストレーション/ Business Administration

1. 概要

学生の皆さんはすでに企業・会社と、さまざまな形で接点を持っていることと思います。最も身近な企業との関わり合い方は、顧客(消費者)としての立場であろうと思います。企業が我々に提供するものは製品ばかりでは無いことは、指摘するまでもありません。企業が提供する財には、人が直接サービスという価値を提供する形態(例えば学習塾やコンサルティング業務)、企業の運営する資産が人を介さずにサービスを提供するケース(例えば、インターネット接続サービスや、インターネットバンキング)など様々な形態が取られています。そしてこれらに何らかの形で人(従業員)が介在していることは指摘するまでもありません。

企業が提供する製品やサービスは今後も多様化してゆくことが予想されますが、経営の3要素あるいは4要素とよばれるヒト・モノ・カネそして情報を適切に管理運営しなければ、安定的な生産やサービスの提供は継続できませんし、利益を確保することもできません。利益を確保することが出来なければ企業の存続さえ危険にさらされるのです。

このカテゴリーでは、ベーシック・コースとして、経営の4要素に関わる基本的な知識を学ぶことで、会社を中心として将来社会人として社会で活躍するために必要な能力の基礎となるカリキュラムを提供しています。



さらにアドバンス・コースでは、企業経営者に必要な知識を提供しています。また、ここではより広範なステイク・ホルダー(利害関係者)を対象に様々な分析が行われます。顧客や従業員のほかに、企業には様々なステイク・ホルダーが存在します。資金を提供する投資家(株主・債権者)、銀行、協力企業(サプライヤ)、地域社会・国家など多彩な利害が介在しています。アドバンス・コースでは、より広い視点から企業を分析してゆきます。

企業を取り囲む経営環境は日々変化し、様々な環境要因が複雑に絡み合っています。従って、他の社会科学の領域と同様に、全く同じ環境で“実験”を行うことや、一度生じた事象を“再現”することは不可能です。しかし、企業の経営成績は偶然の産物として得られるわけではありません。取り扱う製品やビジネスモデルが秀逸だからといって、必ずしも好業績が得られるとは限らないのです。企業には経営の巧拙があります。名経営者と呼ばれる人たちは、複雑に絡み合った糸を丁寧にほぐして、その本質を突き詰めて意思決定を行っていると考えられます。優秀な経営者は、極めて抽象化された世界で、経営の本質を見抜くからこそ、複雑な要因が介在しても、経営環境が変化しても好業績を残せるのだと考えられています。トップ・マネジメントにとってこのような思考は極めて重要ですから、将来に向けて企業に対する高い視点を手に入れたい方は、より普遍的なアプローチを指向するアドバンス・コースにチャレンジしてみてください。

人に関わる領域	モノ・情報に関わる領域	カネに関わる領域	経営全般	
経営組織論	流通論 経営科学 2 情報科学論 II	企業財務論 管理会計	経営戦略論 1・2	ビジネスのための 専門知識
	経営科学 1 情報科学論 I 国際貿易論 1・2	証券論 簿記 会計学	国際経営論 1・2	
経営学				ビジネスのための 基礎知識
経営学入門	マーケティング入門	会計学入門	経営学入門	

◆ビジネスのための基本知識

学部2年生までの履修を前提とした科目群です。概要でのべたように、会社を運営して行くためには、ヒト・モノ・カネ・情報を効率的に管理運営しなければなりません。これらの個別要素がどのように関わって会社が運営されているのかを理解することは、会社を知る第一歩です。会社で働く、あるいは、会社と取引(商売)を行うために、ビジネスの仕組みに関する基本的な知識を提供すると言い換えることもできるでしょう。この科目群では、そのための基本を提供するとともに、さらにビジネス関係の科目を深く学習したい学生のための基礎的知識を提供します。

◆ビジネスのための専門知識～経営者の必須知識～

各部3年生以上の履修を前提とした科目群です。ビジネス関連のゼミナールを履修してより専門的に学習する学生はもちろん、ビジネスの固有領域における専門性を身につけたい学生のための科目群です。これらの科目は、自らが経営者あるいは起業家として、会社と主体的に関わるための必須の知識であると同時に、シンクタンクを含む研究機関で企業の様々な行動を分析・研究するための基盤を提供することを目的としています。

2. 修了必要単位：14単位（必須科目から4単位、選択科目10単位）

▼アカデミックカテゴリー必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
経営学入門	コア科目	1年～	2
マーケティング入門	コア科目	1年～	2
会計学入門	コア科目	1年～	2

※必須科目のうち、4単位を超えて修得した単位は、選択科目の単位として取り扱う。

▼アカデミックカテゴリー選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
経営学	基盤専門	2年～	4
経営組織論	先進専門	3年～	4
経営戦略1	先進専門	3年～	2
経営戦略2	先進専門	3年～	2
国際経営論1	先進専門	2年～	2
国際経営論2	先進専門	2年～	2
会計学	基盤専門	2年～	4
簿記	基盤専門	1年～	4
国際貿易論1	基盤専門	2年～	2
国際貿易論2	基盤専門	2年～	2
証券論	基盤専門	2年～	4
企業財務論	先進専門	3年～	4
経営科学1	基盤専門	2年～	4
経営科学2	先進専門	3年～	4
情報科学論I	基盤専門	1年～	2
情報科学論II	先進専門	3年～	2
人的資源管理論I	先進専門	3年～	2
人的資源管理論II	先進専門	3年～	2
管理会計	先進専門	3年～	4

Academic Approaches

グローバル社会と文化理解 / *Cultures in Global Society*

1. 概要

私たちは、かつてないほどのグローバル化の時代を生きています。早稲田大学でも100を超える国や地域出身の4000人以上の留学生がともに学び、日本で教育を受けてきた学生たちも世界各地に学びの場を広げています。また卒業後のみなさんは海外あるいは地域社会で、日常的にアイデンティティや他者認識を問われていくことになるでしょう。このような変化のなかで、私たちに自文化、異文化を理解し、異なった文化的背景をもつ人びととコミュニケーションする能力が求められています。それは国籍だけでなく、エスニシティ、宗教、ジェンダーなどにも関わります。多層的に交錯する多様性のなかで、どのように差異を認識し、受け止め、「異なっていること」を前提としながら共生を指向していくのかを、私たちは考えていかねばなりません。そのためには、文化に関わる現状およびその分析手法について、理解する必要があります。

このアカデミックカテゴリーでは、文化表出のさまざまな形、文化の社会的機能、そこから派生している現実の諸問題等を理解するための知識を修得し、自文化、異文化に対する自らの向き合い方を考えることを目的としています。ここでは文化を特定の集団内で共有される思考様式、行動様式、価値観など、広い概念として捉え、伝統的なもの・新たに創出されるもの、結束・連帯の強化あるいは対立・紛争の要因としての文化、様々な目的のために利用される資源としての文化など、さまざまな視角から文化をとらえています。

1 年生から履修できる科目がほとんどです。いくつかの科目を履修し、関心が強まれば2年以上配当のより専門性の高い科目や、関連するゼミの履修につなげてください。

1. (1年以上配当) 多様な視点からの文化理解のための科目

芸術論 1, 2 比較基層文化論 日本文化論 漢字文化圏論 1, 2
比較文化論 1, 2 異文化コミュニケーション論 文化人類学 1, 2

2. (2年以上配当)

2-1. 思想、歴史、政策的視点からの文化理解のための科目

公共文化論 1, 2 日本文化研究 中国研究 1, 2

2-2. 外国語文献の講読による文化理解のための科目

中国書研究 1, 2 (2年以上) 西書研究 1, 2 (3年以上)

2. 修了必要単位：12単位（選択科目のみ）

▼アカデミックカテゴリー選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数	科目名	科目区分	配当年次	単位数
芸術論 1	基盤専門	1年～	2	文化人類学 2	基盤専門	1年～	2
芸術論 2	基盤専門	1年～	2	公共文化論 1	先進専門	2年～	2
比較基層文化論	基盤専門	1年～	2	公共文化論 2	先進専門	2年～	2
日本文化論	基盤専門	1年～	2	日本文化研究	先進専門	2年～	2
漢字文化圏論 1	基盤専門	1年～	2	西書研究 1	先進専門	3年～	2
漢字文化圏論 2	基盤専門	1年～	2	西書研究 2	先進専門	3年～	2
比較文化論 1	基盤専門	1年～	2	中国研究 1	先進専門	3年～	2
比較文化論 2	基盤専門	1年～	2	中国研究 2	先進専門	3年～	2
異文化コミュニケーション論	基盤専門	1年～	2	中国書研究 1	先進専門	2年～	2
文化人類学 1	基盤専門	1年～	2	中国書研究 2	先進専門	2年～	2

Themes & Subjects

法と経済学/ Law and Economics

1. 概要

現代の社会現象の多くは法律的な側面と経済学的な側面を兼ね備えている。たとえば国際貿易は経済活動という意味では経済学の範疇ではあるが通関手続を始めとして国内あるいは国際的な法律や条約に基づくという意味では広く法律学の範疇でもある。また企業行動も経済学と法律学の双方から理解する必要がある。さらには民法や刑法の対象となるような純粋に法学の範疇にあると思われる人間行動も経済学的な動機付けによる理解がその分析を豊かにすることが知られている。そこで、本アカデミックカテゴリー（特定テーマ研究）「法と経済学」は、法律と経済の両方の知識を備えた総合的な視点を養うことを目的として設置する。

2. 修了必要単位：14単位（必須科目6単位、選択科目8単位）

▼アカデミックカテゴリー必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
法と経済学	先進専門	3年～	2
民法概論	基盤専門	1年～	2
ゲーム理論の基礎	コア科目	1年～	2

▼アカデミックカテゴリー選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
会社法1〔会社のガバナンス〕	基盤専門	1年～	2
会社法2〔会社のファイナンス〕	基盤専門	1年～	2
会社法3〔組織再編・M&A〕	先進専門	3年～	2
刑法各論1	基盤専門	2年～	2
刑法各論2	先進専門	3年～	2
国際経済法1	基盤専門	1年～	2
国際経済法2	先進専門	3年～	2

Themes & Subjects

サステナビリティ学/Sustainability Study

1. 概要

持続可能な発展・開発(sustainable development)という言葉聞いたことがあると思います。宇宙船地球号という認識を受けて、地球の環境・資源の利用に関する現在世代と将来世代との間の世代間衡平を求める原理を表現する言葉です。もっと具体的に言えば、現在世代は将来世代が幸せに生きていけないような形で、地球の資源を使ったり、環境を破壊したりして、発展・開発をしてはいけないという原理です。1992年にブラジルのリオデジャネイロで開催された地球サミット(国連環境開発会議)で指導原理として用いられて以来、環境と開発について議論するときのキーワードとなっています。ただし、本来は、世代間の公平に関する基本原理であったのですが、国際会議の場では、開発によって貧困からの脱出を目指す発展途上国と、開発による環境破壊を防ぎたい先進国との利害対立を調整する原理として機能してきました。発展途上国には開発の権利があるけれども、その開発は持続可能なものでなければならないという形で、利害の調整がなされてきました。持続可能な発展・開発という言葉には、開発の促進のニュアンスが残って議論も多いので、近年では、サステナビリティ(持続可能性)という言葉が好んで使われるようになってきています。

「サステナビリティ学」では、持続可能な社会の実現の理解に必要な知識を学ぶことを目標とします。環境、経済そして社会の各側面からの理解が必要になってきます。たとえば、森林の持続可能な管理を素材にして考えるとよくわかります。森林の生態系そのものについての理解がなければ、どのように森林を管理していけば良いか方針すら持てません。今日の森林のほとんどは、天然の原生林ではなく、林業・農業など人々の産業的な働きかけとの関係で形成されてきたものです。これらが経済的に成り立たなくなると、バランスが崩れてしまいます。食糧生産のために森林を開墾して農地を増やすことも、森林生態系の保全、および地球温暖化緩和の観点からは、必ずしも良いことと評価できません。まして、貧困が原因で、やむなく森林を伐採して農地に変えることは許容しがたいことです。

このようなサステナビリティにかかわる問題は、生態学などの科学的知見を基礎にして、経済学的な分析を的確に行い、環境にかかわる政治過程を通じて政策を形成し、法律によって制度化することによって対応されることが必要です。すなわち、生態学、環境経済学、環境政治学、環境法学を学び、学際的なアプローチで問題に挑むことが必要です。「サステナビリティ学」では、表に示すこれらの学問領域の科目をパッケージとして習得することを推奨しています。また、学際領域にある諸課題の理解には、各専門領域の基礎を習得していることも重要なので、1・2年次にはいろいろな分野の「コア科目」を積極的に履修することを推奨します。

2. 修了必要単位：14単位（必須科目6単位、選択科目8単位）

▼アカデミックカテゴリー必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
地球環境論	先進専門	3年～	4
環境の産業連関分析	先進専門	3年～	2
環境法1	先進専門	3年～	2

▼アカデミックカテゴリー選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
Global Food Security : Climate Change, Food, and Agriculture ※	先進専門	2年～	2
Global Food Security: Demand and Supply Challenges ※	先進専門	2年～	2
生態学1	基盤専門	1年～	2
生態学2	基盤専門	1年～	2
食料と農業の経済学Ⅰ	先進専門	2年～	2
食料と農業の経済学Ⅱ	先進専門	2年～	2
環境法2	先進専門	3年～	2
環境社会論1	基盤専門	1年～	2
環境社会論2	基盤専門	1年～	2

※英語で行われる科目（現代日本学プログラム提供科目）

Themes & Subjects

社会デザイン / Social Design

1. 概要

〔社会デザインとは?〕

地球規模の危機がますます深刻になっている中で、新しい社会を創るための理論と実践が必要です。現状の社会の課題は何か、どういう未来の社会像を描き、市民がどう向き合うか、どう変化をもたらすか、市民が情報を共有・活用し、そのビジョンとプログラムを考えるのが「社会デザイン」(social design)という新しい学問分野です。

〔社会デザインを学ぶポイント〕

社会科学部では、2009年に「社会デザイン論入門」を開講、2015年には体系的に社会デザインを学ぶプログラムを日本で最初に設置しました。社会が直面する課題を乗り越え、望ましい社会を創造するための「理論」と「実践」の枠組みを学びます。

私たちをとりまく社会は、安定と変動を繰り返しています。科学技術の進歩・発展により、新たな欲求の高まり、余剰エネルギー（余暇、お金、人材など）の蓄積、社会的な意識の高まり、の3つの条件が相互作用することで新しい時代が準備されてゆきます。一方、そこはフロンティアの領域であり、既得権益の流動化、それにとまなう政治・経済・社会的な新たな機会への期待とリスクの不安の両方が伴い、阻害要因（旧態依然とした体制や思考習慣、時代遅れの法や習慣など）が壁になり、多様なコンフリクトが発生します。西欧の一元的世界の限界から、非欧州世界で蓄積されてきた多様な暗黙知との対話への期待が高まっています。それらを乗り越える新たな社会のイノベーターが求められています。

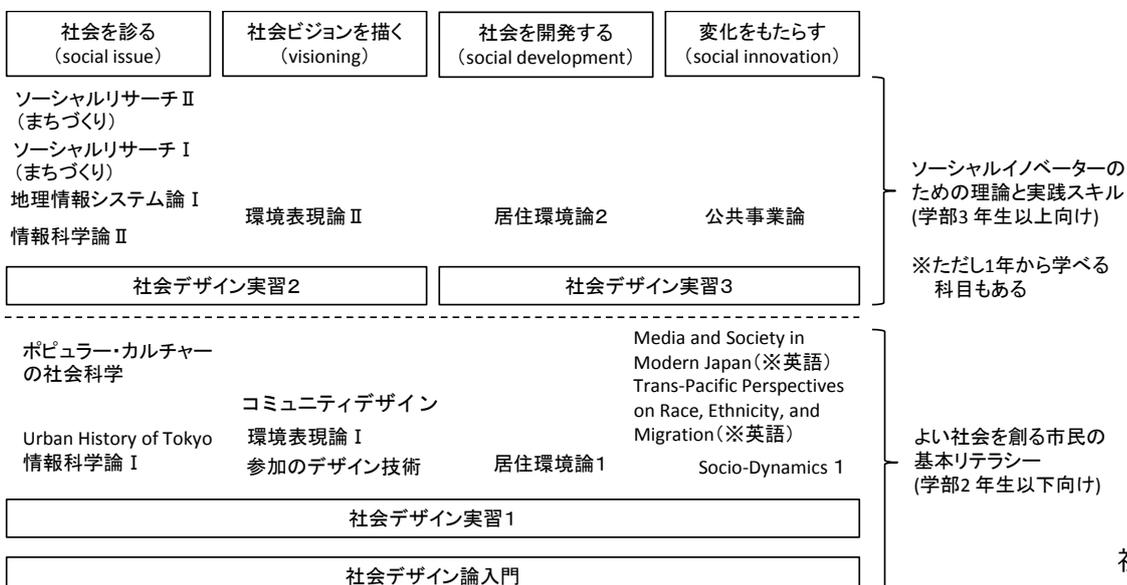
〔4つのイシュー〕

以下の①～④のアカデミックな理論と実践スキルを学びます。

- ① 社会を診る (social information and research)
- ② 社会ビジョンを描く (visioning)
- ③ 社会を開発する (social development)
- ④ 変化をもたらす (social innovation)

〔身につけたい資質とスキル〕

豊かな感性と主体的な問題意識をもとに、社会情報を共有・活用する探索力、現代的ニーズへの気づきや他者への共感力、ビジョンを明らかにする計画と社会構想力、新しい社会システムの設計をおこなう創造性や思考力、コミュニティ開発とキャパシティの形成力、自らの考えを伝える表現力、多様な主体とのコミュニケーション力や協働性、市民の立場から政策を熟議、合意形成する判断力、プログラムの導入、資源動員、やり遂げる行動力など、新たな社会の変化を導入し、安定化させるプロセスに必要な知を学びます。



◆よい社会を創る市民の基本リテラシー(学部2年生以下向け)

社会デザインを市民として共通に心得るべき現代社会の社会的教養と考え、アクターとしていかに社会デザインに関与することが可能か、多様なアプローチを理解し、自分なりの道筋で思考、機会をとらえて行動できるようになることをベースラインとして目指します。

自分らしい思考をベースにして表現の基本を身につけながら、他者と出会い対話すること、社会や地域の抱える課題を発見し、それに対する提案が行なえることが目標です。

◆ソーシャルイノベーターのための理論と実践スキル(学部3年生以上向け)

公共団体、企業・組合、地域社会、NGO・NPO等において、新しい変化をもたらすソーシャルイノベーターに求められる素養、研究機関やシンクタンクの専門家、研究者の分析スキルの基礎を学びます。豊かな問題意識とアカデミックなスキルをもとに調査、分析、考察をまとめ、社会への提言、働きかけ、熟議、合意形成、社会的アクションを起こすためのスキルを身につけることが目標です。3年生以上向けですが、ただし1年から学べる科目もあります。

2. 修了必要単位：14単位(必須科目6単位、選択科目8単位)

▼アカデミックカテゴリー必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
社会デザイン論入門	コア科目	1年～	2
社会デザイン実習1	基盤専門	1年～	2
社会デザイン実習2 または 社会デザイン実習3	基盤専門	1年～	2

▼アカデミックカテゴリー選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
コミュニティデザイン	基盤専門	1年～	2
参加のデザイン技術	基盤専門	1年～	4
ソーシャル・リサーチ(まちづくり) I	先進専門	2年～	2
ソーシャル・リサーチ(まちづくり) II	先進専門	2年～	2
情報科学論 I	基盤専門	1年～	2
情報科学論 II	先進専門	3年～	2
居住環境論 1	先進専門	3年～	2
居住環境論 2	先進専門	3年～	2
環境表現論 I	基盤専門	1年～	2
環境表現論 II	先進専門	2年～	2
Socio-Dynamics 1	基盤専門	1年～	2
公共事業論	先進専門	2年～	2
地理情報システム論 I	基盤専門	1年～	2
ポピュラー・カルチャーの社会科学	基盤専門	1年～	2
Urban History of Tokyo ※	先進専門	3年～	2
Media and Society in Modern Japan ※	基盤専門	1年～	2
Trans-Pacific Perspectives on Race, Ethnicity, and Migration ※	基盤専門	1年～	2

※英語で行われる科目(現代日本学プログラム提供科目)

Themes & Subjects

日本の社会と公共政策/ Japanese Society and Public Policies

1. 概要

2つの視点から構成されている科目グループ(「アカデミックカテゴリー(特定テーマ研究)」)のなかで、「日本の社会と公共政策(Japanese Society and Public Policies)」は Theme & Subjects に該当するものです。Theme & Subjects は、今日の社会が抱える問題や、グローバル社会のなかでの日本のアイデンティティについて、サブジェクトベースでのアプローチを行う科目グループで構成され、伝統的な学問分野の枠を超えてアプローチすることが求められる「問題」に多面的にアプローチすることとなっています。もちろん、現代の日本社会をどのようなものとして捉えるかについては様々な手法があります。そのこととの関係で、「日本の社会と公共政策(Japanese Society and Public Policies)」について厳密に述べることに無理があります。「日本の社会と公共政策」について、例えば、経済的側面から光を当てて描くこともできますし、法的側面から光を当てて描くことも出来ます。それぞれは、どちらが「日本の社会と公共政策」の本質に近いものを表現できるかということではなく、対象としての「日本の社会と公共政策」を捉えて描くための枠組みの相違にすぎません。その意味で、捉えるための枠組み次第で、「日本の社会と公共政策」は異なる「意味合い」を持って現れることとなります。では、「日本の社会と公共政策(Japanese Society and Public Policies)」というアカデミックカテゴリーは、どのような意図のもとで「特定テーマ研究」を構成しているのでしょうか。アカデミックカテゴリーの中で Theme & Subjects が置かれている位置からすれば、「日本の社会と公共政策」については以下のように説明できるでしょう。

「日本の社会と公共政策(Japanese Society and Public Policies)」は、現代の日本社会が直面する諸問題(例えば、経済、家族、福祉、環境、働き方など)とその解決に向けた民間の活動や公的政策について、多面的な視点から理解を深めるものです。諸問題に対応すべきは公的なセクターであると当初よりきめられてはいません。それは時代や状況によって異なってきます。「日本の社会」のありようが「公共政策」のありように影響を及ぼし、さらに、その結果として日本の社会の姿が形作られることとなります。その意味では、「日本の社会と公共政策」について、より深く理解しようとするならば、構成している科目群の履修だけでは十分とはいえないでしょう。その不十分性は、「日本の社会と公共政策」について学びたいと思った受講生が、関連科目を積極的に履修することで補ってください。もう一つ、「日本の社会と公共政策」が目指しているものがあります。それは、「日本の社会と公共政策」が、日本語および英語で行われる科目を合わせて履修することにより、一般プログラムの学生は英語で、現代日本学プログラム(CJSP)の学生は日本語で、現代の日本社会について説明できる能力の修得を目指すというものです。「日本語による表現だけでは深まらなかったこと」や「英語による表現だけでは深まらなかったこと」を総合させることによって、「問題」とされるものを捉え、表現する能力を高めてください。このような「日本の社会と公共政策(Japanese Society and Public Policies)」の有する特殊性から、早い段階で履修することを推奨しますが、3年次以上の段階で履修し、「日本語による表現だけでは深まらなかったこと」や「英語による表現だけでは深まらなかったこと」を総合させることによって、学んできたことをまとめるという意味合いで活用していただくことも可能です。

修了する為には必ず修得しなければならない「アカデミックカテゴリー必須科目」とそれ以外の「アカデミックカテゴリー選択科目」が設置されておりますが、この「日本の社会と公共政策」/Japanese Society and Public Policies は、修了必要単位：12単位(選択科目のみ)としています。

社会科学部が提供している科目群は多種多様に存在しています。見ようによっては系統立てられているように感じるかもしれませんが、ばらばらのように感じるかもしれません。履修についての自由度が高いことから、科目登録に際してアルバイトを念頭に選択してしまうと、結果として、「何を勉強したかのかわからない」というようになってしまう可能性もあります。ただし、「自分はこのようにすることについて勉強する」というような意図で、履修科目を組み立てていけば、「専門性を深めること」も可能ですし、「自分なりのテーマを設定し多角的にアプローチすること」が可能となります。

2. 修了必要単位：12単位（選択科目のみ）

※ただし日本語・英語の科目群からそれぞれ2単位以上を修得すること

▼アカデミックカテゴリー選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
日常生活の社会学	基盤専門	1年～	2
社会問題の社会学 1	基盤専門	1年～	2
社会問題の社会学 2	基盤専門	1年～	2
現代家族論 1	基盤専門	1年～	2
現代家族論 2	基盤専門	1年～	2
比較福祉論 1	基盤専門	1年～	2
比較福祉論 2	基盤専門	1年～	2
社会科学総合研究（市民活動と自治体—市民社会の可能性） 1	社総研	3年～	2
社会科学総合研究（市民活動と自治体—市民社会の可能性） 2	社総研	3年～	2
Socio-Dynamics 1	基盤専門	1年～	2
Socio-Dynamics 2	基盤専門	1年～	2
Law in Japanese Society (Fall) ※	基盤専門	1年～	2
Japan in the Age of Globalization ※	基盤専門	1年～	2
Politics in Modern Japan ※	基盤専門	1年～	2
Understanding the Japanese Economy: Macroeconomic Perspectives ※	基盤専門	1年～	2
Understanding the Japanese Economy: Microeconomic Perspectives ※	基盤専門	1年～	2
The Japanese of the 20th Century: The Immigrant Experience ※	基盤専門	1年～	2
The Japanese of the 20th Century: Work, Culture, and Society ※	基盤専門	1年～	2
Trans-Pacific Perspectives on Race, Ethnicity, and Migration ※	基盤専門	1年～	2
Trans-Pacific Perspectives on Work, Culture, and Society ※	基盤専門	1年～	2
Environmental Law in Japan ※	基盤専門	1年～	2
Women in Modern Japan: Contemporary Japanese Women ※	基盤専門	1年～	2
Social Issues in Modern Japan ※	基盤専門	1年～	2

※英語で行われる科目（現代日本学プログラム提供科目）

Themes & Subjects

平和研究/ *Peace Studies*

1. 概要

平和研究の射程は広い。平和の反対は戦争ではなく、「平和ならざる状態」(Peacelessness)であると言ったのは、インドのスガタ・ダスグプタであった。また、平和研究者として著名なヨハン・ガルトゥングは構造的暴力という概念を提起した。つまり、現代社会には物理的暴力のみならず、貧困、格差、人権抑圧、環境破壊など様々な脅威が存在し、人びとの日常性を脅かしている現実を指摘する。そこで、戦争や紛争などの物理的暴力が不在な状態は消極的平和と呼び、構造的暴力がなくなって初めて積極的平和と呼ぶことができると述べている。したがって、本平和研究は、ガルトゥングの積極的平和に基づき関連科目が設置されている。平和学Ⅰ、平和学Ⅱ-1、平和学Ⅱ-2は、本平和研究の基本的枠組みを理解する必須の科目である。

しかし他方で、社会科学としての平和研究である以上、広く国際関係論、国際政治学などの理論的枠組みの理解は必要になる。また、応用科目としての平和構築論は、平和研究の諸理論を基礎としながらも実践的な科目として、紛争の再発の芽を摘むことに主眼がある。現代の紛争原因は言うまでもなく多様である。植民地独立戦争から、東西冷戦時代は米国・ソ連の代理戦争を背景とした国家間紛争、冷戦後は宗教、言語などエスニシティなどを理由する国内紛争、さらにはテロリストとの紛争と、非対称的紛争が増大している。

紛争の原因となる様々な理由を理解すると同時に、紛争後の社会を平和な社会に転換するうえで必要な国際協力の在り方を平和研究の視点から学ぶことが求められる。平和構築論は上記したように実践的応用科目である。その点で、現場の視点を学ぶうえで、フィールド経験を積む必要がある。紛争解決論実習1と紛争解決論実習2は、紛争後、あるいは紛争を抱える社会を訪問することで、平和構築の現実を理解する絶好の機会になる。

また、平和構築に取り組むアクターは、政府や非政府組織(NGO)、主権国家の集合体である国際機関、援助機関、地方自治体など多様である。政府に関わる援助体制を理解するうえで国際開発制度論は重要であり、国際NGO協力論はNGOの視点からみた国際協力を知るうえで必要になる。なお、現代日本学プログラム(CJSP)科目として、日本を視点にして上記科目を理解する科目群が設置されている。一般プログラムの学生は英語で、CJSPの学生は日本語で平和研究の理解を互いの議論を通じて深めることを目指している。

(1) 平和研究のための基本的科目群(学部2年生以下向け)

平和研究の基本的な枠組みを平和学Ⅰで学ぶ。平和研究がなぜ学問として生まれたのか。国際社会に「平和ならざる状態」がいかに存在しているのかを理解する。また、同状態が多くみられる途上国を概観するうえで第三世界論が有益である。なおCJSP科目では、Japan in East Asia: Basic Studies、War and Japan、Japan and Peacebuilding: UN Policies、Japan in East Asia: Contemporary Social Issuesなどで平和研究の理解を深めることが可能である。

(2) 平和研究を深める応用的科目群(学部3年以上向け)

平和研究の基本的な知識や概念の理解を前提に、次に具体的なイシューで平和研究の理解を深める必要がある。平和学Ⅱ-1(平和と戦争)、平和学Ⅱ-2(貧困・格差・人権・環境と平和)は構造的暴力とは何かを考えるうえで必須である。また、応用科目として平和構築論、国際NGO協力論、国際開発制度論、日本との関連からはCJSP科目群から、Japan and Peacebuilding: Asian Policies、Development Assistance by Japan: ODA and NGOs、Contemporary Japanese Foreign Policyが該当する。最後に、平和研究をいっそう理解するうえでフィールド・スタディーズが求められる。本学部が提供する紛争解決論実習1と2に参加することを勧める。

2. 修了必要単位：12単位（必須科目 2単位、選択科目10単位）

※ただし日本語・英語の科目群からそれぞれ2単位以上を修得すること

▼アカデミックカテゴリー必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
平和学 I	基盤専門	1年～	2

▼アカデミックカテゴリー選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
平和学 II - 1（平和と戦争）	先進専門	2年～	2
平和学 II - 2（貧困・格差・人権・環境と平和）	先進専門	2年～	2
平和構築論	先進専門	3年～	2
紛争解決論実習 1	先進専門	3年～	2
紛争解決論実習 2	先進専門	3年～	2
国際NGO協力論	先進専門	3年～	2
第三世界論	先進専門	3年～	2
国際開発制度論	先進専門	3年～	2
Japan and Peacebuilding: UN Policies ※	先進専門	3年～	2
Japan and Peacebuilding: Asian Policies ※	先進専門	3年～	2
Japan in East Asia: Basic Studies ※	基盤専門	1年～	2
Japan in East Asia: Contemporary Social Issues ※	基盤専門	1年～	2
Development Assistance by Japan: ODA and NGOs ※	基盤専門	1年～	2
Contemporary Japanese Foreign Policy ※	基盤専門	1年～	2
War and Japan ※	基盤専門	1年～	2

※英語で行われる科目（現代日本学プログラム提供科目）

Themes & Subjects

日本の歴史と文化/ Japanese History and Culture

1. 概要

歴史の束縛から解放されていない東アジアにおいて、地域研究としての「日本研究」は各国のコンテキストの中で展開されている。例えば、中国と韓国の研究者がもっている近代の日本像と、日本人研究者がもっているそれとの距離は、この 30 年間で拡大の一途を辿った。日本研究の停滞は、この地域の国際関係に大きな影響を及ぼしている。

いままでの「日本研究」は「アジア研究」から独立し、「日本的空間」のなかに存在してきた。その結果、日本の「独自性」が特に強調されてきた。しかし、19 世紀以来のアジアの歩みには、戦争と革命はいままでもなく、社会・経済の近代化や文化の伝達と発展など、どの分野からみても、日本が深く関わってきたことは一目瞭然である。日本研究の範囲を広げ、アジア研究のなかに踏み込み、さらに世界のなかの日本という問題意識を確立させることは、グローバルな日本理解と、世界が共有する「日本研究」にとって不可欠な視角である。

大学教育の国際化が進むなかで、早稲田大学の学生には世界に向けて、「日本」を伝える能力が求められている。一方、外国からの留学生は、異文化としての「日本」とともに、アジアのなかの「日本」、世界のなかの「日本」についての幅広い知識と情報を求めている。

このアカデミックカテゴリーは、アジア諸国の歴史と文化との関係を意識しながら、日本の歴史と文化に対する理解を深めることを目的とする。日本の歴史と伝統文化は本アカデミックカテゴリーの重要な柱であるが、近代以降、日本が経験した成功と失敗の歴史と、このような歴史のなかで形成された新たな文化への探求も重要な内容となる。とりわけ、戦後の日本はアジアのどの国よりも、環境問題、高齢化問題、エネルギー問題、自然災害などの問題をたくさん経験し、多くの経験を蓄積してきた。教員と学生とのコミュニケーションを深めながら、「日本経験」をアジアの公共財に育て上げていきたい。

2. 修了必要単位：12 単位（選択科目のみ）

▼アカデミックカテゴリー選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
歴史学（日本史）1	基盤専門	1年～	2
歴史学（日本史）2	基盤専門	1年～	2
歴史学（日中関係史）1	基盤専門	1年～	2
歴史学（日中関係史）2	基盤専門	1年～	2
日本文学1〔古典と近代〕	基盤専門	1年～	2
日本文学2〔近代と現代〕	基盤専門	1年～	2
日本文化論	基盤専門	1年～	2
日本文化研究	先進専門	2年～	2
漢字文化圏論1	基盤専門	1年～	2
漢字文化圏論2	基盤専門	1年～	2
社会科学総合研究（近代化の比較研究）1	社総研	3年～	2
社会科学総合研究（近代化の比較研究）2	社総研	3年～	2
21世紀世界における戦争と平和（入門・歴史）※※	基盤専門	1年～	2
Western Images of Japan: Mid 16th Century to Late 19th Century ※	基盤専門	1年～	2
Western Images of Japan: Early 20th Century to the Present ※	基盤専門	1年～	2
Japanese Literature: Classical ※	基盤専門	1年～	2
Japanese Literature: Modern ※	基盤専門	1年～	2
Japanese Cultural History: Ancient Times to 1600 ※	基盤専門	1年～	2
Japanese Cultural History: 1600 to the Present ※	基盤専門	1年～	2
A Cultural History of Tea ※	基盤専門	1年～	2
Urban History of Tokyo ※	先進専門	3年～	2
Women in Modern Japan: Outside Encounters and Early Changes ※	基盤専門	1年～	2
Japan and World War II: Historical Controversies ※	基盤専門	1年～	2

※英語で行われる科目（現代日本学プログラム提供科目） ※※グローバルエデュケーションセンター設置科目

Themes & Subjects

アメリカ研究 / American Studies

1. 概要

アメリカ研究は国内外の主要な大学に講座が設置されている確立された研究分野です。アメリカ合衆国は軍事、政治、経済、社会、文化、メディアにおいて世界に大きな影響を与えています。

対米戦争で日本が敗北し、占領を受けたこともあり、戦後の日本の諸制度を理解するうえでも、アメリカ合衆国について知ることは必要です。今後も日本とのかかわりは深くなり、重要性も大きくなると考えられます。

しかしながら、この国はさまざまな文化と価値観を持った移民たちによって建国され、地域的多様性の大きい州の連合体である「合衆国」なので、それを理解するには多角的、学際的アプローチが必要になります。

このアカデミックカテゴリーでは、政治、社会、文化、メディアの各分野の多角的、学際的視点からアメリカ合衆国を総合的に深く理解することを目指します。

政治にかかわる領域

現代政治制度論(アメリカ)、現代政治分析(アメリカ)

社会にかかわる領域

ポピュラー・カルチャーの社会科学

文化にかかわる領域

公共文化論 1

メディアにかかわる領域

メディア論 4、メディア論 1 (隔年開講)

履修可能学年は以下の通り

「現代政治制度論」および「公共文化論」2年以上、「現代政治分析」3年以上、その他科目は1年以上

2. 修了必要単位：8単位（必須科目 6単位、選択科目 2単位）

▼アカデミックカテゴリー必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
現代政治制度論（アメリカ合衆国）	基盤専門	2年～	2
ポピュラー・カルチャーの社会科学	基盤専門	1年～	2
メディア論 4	基盤専門	1年～	2

▼アカデミックカテゴリー選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
現代政治分析（アメリカ合衆国）	先進専門	3年～	2
公共文化論 1	先進専門	2年～	2
メディア論 1（隔年開講）	基盤専門	1年～	2

3-2. 各ゼミナールにおいて履修が望まれる科目

本学部では、2年次以降に「ゼミナール」を履修できます。ゼミナールの一部クラスでは、担当教員がゼミ生向けに「履修が望まれる科目」を指定していることがあります。これは必修や前提科目ではなく、既得か同時履修または今後履修することが望まれる科目のことです。ゼミナール履修に向け、科目選択の指針のひとつとしてください。なお、各クラスの詳細についてはシラバスシステムを参照してください。

なお、ゼミナールの履修は卒業要件ではありませんが、例年およそ9割の学生が履修しています。

テーマ(担当教員)	ゼミナールⅠ関連科目	ゼミナールⅡ・Ⅲ関連科目
社会保障・社会福祉をめぐる諸問題(久塚 純一)	比較福祉論 1・2	比較福祉論 1・2、社会保障法Ⅰ・Ⅱ
男女の働き方を考える(大森 真紀)	ジェンダー論Ⅰ、労働問題 1・2	ジェンダー論Ⅰ、労働問題 1・2
環境政策+ヨーロッパ連合地域研究(坪郷 貴)		環境社会論Ⅰ・Ⅱ、EU地域研究Ⅰ・Ⅱ
現代社会学研究(周藤 真也)	社会学入門A・B、社会学原論、社会学の思想と理論	社会学原論、社会学の思想と理論、社会調査法Ⅱ
ラテンアメリカ研究(畑 恵子)		ラテンアメリカ研究Ⅱ
比較経済史研究(君塚 弘恭)	歴史学(アジア史) 1・2、歴史学(ヨーロッパ史) 1・2	歴史学(アジア史) 1・2、歴史学(ヨーロッパ史) 1・2、比較経済史 1・2
社会科学の哲学(吉田 敬)	社会科学の基礎A・B	社会科学方法論A・B
中国研究(劉 傑)	歴史学(日中関係史) 1・2	歴史学(日中関係史) 1・2
マスメディア研究(有馬 哲夫/木村 智哉)	メディア論 3・4	メディア論 3・4
地球・地域学研究(池田 雅之)		比較文学、比較基層文化論
日本文化研究(内藤 明)	日本文化論	日本文化論、日本文化研究
環境及び資源経済学研究(赤尾 健一)	統計解析の基礎A・B	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、計量経済学Ⅰ・Ⅱ
都市・コミュニティデザイン(卯月 盛夫)	参加のデザイン技術A・B、社会デザイン実習Ⅰ A・B、社会デザイン実習Ⅲ	参加のデザイン技術A・B、社会デザイン実習Ⅰ A・B、社会デザイン実習Ⅲ
空間映像研究(佐藤 洋一)	環境表現論Ⅰ・Ⅱ、社会言語としての映像	環境表現論Ⅰ・Ⅱ、社会言語としての映像
生命システム研究(輪湖 博)	生命科学 1・2	生命科学 1・2
異文化コミュニケーション研究(花光 里香)	異文化コミュニケーション論	異文化コミュニケーション論
メディアと言語の研究(笹原 宏之)	漢字文化圏論 1・2、言語表現論 1・2	漢字文化圏論 1・2、言語表現論 1・2
公共文化研究(小長谷 英代)	比較文化論 1・2	比較文化論 1・2
哲学・倫理学(千葉 清史)	哲学総論A・B、西洋哲学A・B、社会科学の基礎A・B	哲学総論A・B、西洋哲学A・B、社会科学の基礎A・B
政治思想研究(厚見 恵一郎)	政治学史Ⅰ・Ⅱ	政治学史Ⅰ・Ⅱ
平和学研究(多賀 秀敏)	第三世界論、国際関係論	第三世界論、国際関係論
国際関係研究(奥迫 元)	国際関係論入門A・B・D、国際関係論	国際関係論入門A・B・D、国際関係論
国際協力と平和構築(山田 満)	第三世界論、国際関係論	第三世界論、国際関係論
行政・地域自治研究(稲生 信男)	地域自治論 1・2	行政学Ⅰ・Ⅱ
現代社会における基本的人権(西原 博史)	憲法ⅠA・ⅠB・ⅡA	憲法ⅠA・ⅠB・ⅡA
労働法の研究(清水 敏)	個別的労働法Ⅰ・Ⅱ	個別的労働法Ⅰ・Ⅱ、集団的労働法、労働市場法
不動産法の研究(大西 泰博)	民法概論A・B、民法1〔総則〕、民法2〔物権〕	
契約法研究(吉田 和夫)	私法入門(市民と法)A・B・C、民法概論A・B	
会社法の研究(川島 いづみ)	会社法 1〔会社のガバナンス〕、会社法 2〔会社のファイナンス〕	会社法 1〔会社のガバナンス〕、会社法 2〔会社のファイナンス〕
国際経済法研究(福永 有夏)	国際法 1、国際経済法 1	国際法 2、国際経済法 2
医療と法(横野 恵)	医事法、生命倫理と法 1・2	医事法、生命倫理と法 1・2
刑法研究(仲道 祐樹/杉本 一敏)	刑法各論 1、刑法総論	刑法各論 1・2、刑法総論
世界経済の研究(弦間 正彦)	経済学入門1〔マクロ経済学〕A・B、経済学入門2〔ミクロ経済学〕A・B、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	経済学入門1〔マクロ経済学〕A・B、経済学入門2〔ミクロ経済学〕A・B
経済と環境の実証分析(鷲津 明由)	産業構造論、環境の産業連関分析	産業構造論、環境の産業連関分析
情報産業の経済分析(土門 晃二)	産業組織論、経営のための経済学	産業組織論、経営のための経済学
ゲーム理論とその応用(戸田 学)	ゲーム理論の基礎A・B、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	ゲーム理論の基礎A・B、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ
国際経済と金融システム(北村 能寛/得田 雅章)	経済学入門1〔マクロ経済学〕A・B、経済学入門2〔ミクロ経済学〕A・B	経済学入門1〔マクロ経済学〕A・B、経済学入門2〔ミクロ経済学〕A・B
応用マクロ経済学研究(及川 浩希)	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ
マーケティング管理研究(野口 智雄)	マーケティング入門A・B、流通論Ⅰ・Ⅱ	マーケティング入門A・B、流通論Ⅰ・Ⅱ
制度設計の経済学(笠島 洋一)	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ
企業活動の研究(井上 正)	経営学、経営学入門A・B	経営学、経営学入門A・B
情報科学研究(土方正夫)		情報科学論Ⅱ
多国籍企業の研究(長谷川 信次)	国際経営論 1・2	国際経営論 1・2、経営戦略 1・2
企業財務論研究(葛山 康典)	証券論、社会科学のための数学	企業財務論、金融データ解析Ⅰ
アジア経済と日本(トラン ヴァン トゥ)	移行経済論Ⅰ・Ⅱ、国際貿易論Ⅰ	
財務会計研究(菅野 浩勢)	会計学A、簿記A・B	会計学A、簿記A・B、外部報告会計論

4. 社会科学部以外で履修できる科目

社会科学部では、学生の学習の自由度を高めるため、社会科学部の科目以外にも、本学他箇所や協定他大学が提供する「全学オープン科目※」を卒業算入単位に含めることができます（年間 12 単位、在学中 36 単位まで）。また、社会科学部のカリキュラムとしては卒業単位には算入できない科目も、ご自身の進路、研究や興味に合わせて履修が可能です（教職科目等）。単位の算入区分については、P.35 をご確認ください。

※全学オープン科目とは、学生の所属学部を問わず全学に提供されている科目で、他学部・グローバルエデュケーションセンター（以下 GEC）・留学センター・協定他大学より提供されています。

グローバルエデュケーションセンター（GEC）提供 全学オープン科目 (<http://www.waseda.jp/gec/>)

GEC では、全学部・全研究科の学生が、専門分野に限らず全く異なる分野も学習できる多種多様な科目を展開しています。

すべての学問の基礎となる大学生の必須スキルとして、アカデミック・ライティング科目、数学科目、統計科目、情報科目、英語科目、国際教育科目、日本語教育科目を提供します。また、早稲田大学以外では学ぶ機会の少ない言語科目や、多数の特色あるスポーツ実習等も設置しています。ユニバーシティ・スタディーズと呼ばれる科目群には、国内・海外での実習や企業等と協同で実施するワークショップといった問題解決型・体験型の実践的な学びを多く取り入れています。

※GEC 提供科目のうち、インターンシップ科目は在学中最大 2 単位まで、保健体育科目は 4 単位まで卒業算入単位として扱うことができます。また、GEC 提供の言語科目のうち、1 年次に「英語 1 - 2」として履修する「General Tutorial English」、および「教養外国語」として履修する「イタリア語」「朝鮮語」の各科目については他箇所提供科目の卒業算入上限（36 単位）には含まれません。

他学部提供 全学オープン・聴講科目

他学部が自箇所学生以外にも履修を認める科目については、社会科学部生も履修することができます。他学部が提供する科目には、全学オープン科目と他学部聴講科目があります。

【全学オープン科目】 GEC が提供する全学オープン科目と同じく、学生所属学部に関係なく履修を認める科目です。他学部が公開している科目を、1 次登録から登録することができ、修得した単位は卒業算入単位に含めることができます。

【他学部聴講科目】 他学部が自箇所学生以外の履修を認め、自箇所学生の登録を優先したのち、定員に余裕があれば開放される科目です。3 次登録から登録することができますが、修得した単位は卒業算入単位には含まれません。

※他学部聴講科目のうち、政治経済学部、法学部、商学部の提供する一部科目は、基盤専門科目として卒業単位に算入できます。（P.35 参照）これらの学部は、社会科学部とは異なった特徴を持っていますので、強い専門性を志向する学生の皆さんの履修を推奨しています。但し、科目登録は 3 次登録に限られていますので、科目提供学部の学生で定員に達している場合には履修ができません。

協定他大学 提供科目 (http://www.waseda.jp/gec/u_graduate/other_univ/)

早稲田大学は協定を結んでいる他大学と互いに科目を提供しあっています。早稲田大学には設置されていない各大学特有の科目も多くラインナップされており、登録の選択肢も広がります。他大学からの提供科目も所属学部のルールに従い卒業単位に算入することが可能です。履修は 2 年生以上が対象ですが、一部科目については、1 年生も履修可能です（詳細は「全学オープン科目履修ガイド」で確認できます）。

留学センター 提供科目 (<http://www.waseda.jp/inst/cie/>)

留学センターは、海外からの留学生受入れや早大生の海外留学支援はもちろん、国際教育プログラムの実施拠点として、留学プログラムと連動し、留学先で履修できる科目、外国語学習・テーマ研究・異文化体験を中心とした短期留学科目のほか、海外の学生とともに授業を本学で履修するサマーセッション科目、海外大学からの教員を招へいして実施する「International Japanese Studies」の科目など、独自の科目を学部生に提供しています。

教育学部提供 資格関連科目（教職課程、図書館司書など）

社会科学部生も教育学部提供の資格関連科目を履修することで、教員免許・図書館司書・博物館学芸員などの資格取得が可能です。教育学部提供の資格関連科目はすべて、卒業算入単位として扱われません（自由科目）。

資格取得に必要な科目詳細については、教育学部発行の「教職課程履修の手引き」および本冊子「Ⅲ. 資格」を確認してください。

社会科学研究科提供科目

社会科学部所属の 4 年生以上の学生は、担当教員の承認があれば、年間 8 単位まで社会科学研究科提供の講義科目履修が可能です（先取り履修制度）。社会科学部の卒業算入単位としては扱われませんが、社会科学研究科入学後、最大 10 単位まで修了単位として認定可能です。登録申請時期は春学期のみですのでご注意ください。

※ 4 年生以上の学士入学者は年間 4 単位まで「先進専門科目」として履修可能

II. 科目登録の手続き

◆ 共通コンピュータールーム開室日程

早稲田大学全体で利用できる PC ルームの開室状況については、早稲田 IT サービスの Web より確認できます。

早稲田 IT サービス Web → (左メニュー) コンピュータールームガイド

URL: www.waseda.jp/navi/room/index.html

1. 科目登録手続きのながれ

科目登録の手続きは、科目の設置箇所、および科目区分ごとに、時期と方法が異なります。下記の「早見表」①～⑨と、以降に続くその詳細説明を参照し、科目登録に臨んでください。

◆ 科目登録手続き 早見表

凡例 ●：新生、▼：2年生以上、▽：必修外国語再履修者、×：対象者なし

科目 の 設置 箇所	科目区分	申請期間							
		① 新生 必修科目登録 (入学前)	② 在学学生 自動登録	③ 英語2-2 外国語再履修 登録	④ 1次登録	⑤ 2次登録	⑥ 3次登録	夏季 追加	
		春学期 ~3/14	-	3/9~3/10	在学生 3/17~3/19 新入生 3/29~3/31	4/6~4/7	4/13~4/14	6/6~6/10	
	秋学期	-	9/14~9/15	9/21~9/23	9/28~9/29	10/5~10/6			
社会科学部	必修外国語	英語1-1	●	×	▽	●▽	▽	×	×
		英語1-2 ⑦	●	×	▽	▽	▽	×	×
		英語2-1	×	▼	▽	▽	▽	×	×
		英語2-2	×	×	▼▽	▼▽	▼▽	×	×
		教養外国語(日本語以外)	●	×	▽	▽	▽	×	×
		教養外国語(日本語)	×	×	×	●▽	●▽	●▽	×
	選択外国語	×	×	×	●▼	●▼	×	×	
	コア科目	●	×	×	●▼	●▼	●▼	×	
	基盤専門科目	×	×	×	●▼	●▼	●▼	×	
	ゼミナール ⑧	×	▼	×	×	×	×	×	
	先進専門科目	×	×	×	●▼	●▼	●▼	×	
	社会科学総合研究	×	×	×	●▼	●▼	●▼	×	
現代日本学プログラム(CJSP)提供科目※	×	×	×	●▼	×	●▼	×		
他箇所 ⑨	全学	×	×	×	●▼	●▼	●▼	×	
	オープン	P.31「⑨他箇所(社会科学部以外)科目の登録手続き」にて詳細を確認してください							
	科目	×	×	×	●▼	×	×	×	
	学部提供全学オープン科目	×	×	×	●▼	×	×	×	
他学部聴講科目	×	×	×	×	×	●▼	×		
教職等資格関連科目	×	×	×	●▼	●▼	●▼	×		

- ※ 各申請期間は、「時間」単位で指定されています。日時詳細については、本紙冒頭の「2016年度 社会科学部 科目登録・成績日程」、もしくは以降に続く詳細説明中の情報を参照してください。
- ※ 聴講料が必要な科目(実習科目や体育科目)の登録が決定した場合、3次登録期間終了後に聴講料納入手続きが必要です。詳細はP.41を参照してください。
- ※ 現代日本学プログラム(CJSP)とは、2011年度より社会科学部に設置された英語学位プログラムで、すべての授業は英語で行われます。CJSP科目のうち、オープン科目については1次登録で、また2次登録までの結果、定員に余裕がある科目については3次登録でそれぞれ申請可能です。英語による授業となりますので、語学力が不安な方は、初回の授業に参加し、授業についていけることができるか、ご自身で判断、もしくは科目の担当教員に相談してください。
CJSP科目一覧は、P.70をご確認ください。

① 新生必修科目登録

新生必修科目登録は、入学前までに完了します。詳細は「2016 新生 必修科目登録の手引き」を参照してください。

② 在学学生自動登録

- [対象者] 2年生以上
- [申請期間] なし
- [対象科目]

通常/ 再履修	対象科目	申請方法	詳細
通常	英語2-1	申請不要	英語1-1と同じクラスが春学期・秋学期ともに自動登録されます。
	ゼミナール	申請不要	前年度中に実施したゼミナール継続判定、および募集の結果に基づき自動登録されます。なお、継続履修を希望しない場合、および延長生がゼミナール履修を希望する場合、個別手続きが必要です。詳細はP.30を参照してください。

③ 英語 2 - 2 ・ 必修外国語再履修登録

[対象者] 2年生以上（特に新2年生）

[申請期間] 春学期：3/9(水) 10:00 ~ 3/10(木) 17:00、秋学期：9/14(水) 10:00 ~ 9/15(木) 17:00

[対象科目]

通常／再履修	対象科目	申請方法	詳細
通常	英語 2 - 2	MyWaseda	Web 科目登録で第 5 希望まで申請可能です（希望順位登録方法は P.48 参照）。 秋学期クラスは春学期と同じクラスが自動登録されます。 なお、A クラス（基礎クラス）は、自己推薦、附属・系属推薦入試制度による入学者のみ申請できます。
再履修	英語 1 - 1	MyWaseda	再履修クラスである Y・Z クラスから、第 2 希望まで申請可能です。
	英語 1 - 2	MyWaseda	General Tutorial English ではなく、社会科学部設置の「英語 1 - 2（春学期・秋学期）」両方を履修する必要があります。A・B クラスから第 2 希望まで申請可能です。
	英語 2 - 1	MyWaseda	再履修クラスである Y・Z クラスから、第 2 希望まで申請可能です。
	英語 2 - 2	MyWaseda	上記の「通常」履修者と同様。
	教養外国語 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語	MyWaseda	春学期・秋学期の両単位を未修得の場合は春学期に、秋学期のみ未修得の場合は秋学期に申請してください。 <ドイツ語・フランス語 選択者> A～E クラスの中から第 5 希望まで申請可能です。 <中国語 選択者> 再履修クラスの Y・Z クラスの中から第 2 希望まで申請可能です。 <スペイン語 選択者> 再履修クラスの Y クラス、もしくは通常の A～E クラスの中から第 5 希望まで申請可能です。
	教養外国語 イタリア語 朝鮮語	社会科学部 事務所	社会科学部事務所にて申請してください。Web 申請はできません。 春学期・秋学期の両単位を未修得の場合は春学期に、秋学期のみ未修得の場合は秋学期に申請してください。

[注意事項]

- ・「本登録期間に申請を忘れた」もしくは「希望した全クラスが選外になった」場合、1 次登録・2 次登録期間に、定員に余裕があるクラスに限り、Web 科目登録を受け付けます（イタリア語・朝鮮語の再履修者も同様に Web での受付となります）。
- ・必修英語の再履修の申請期間は、単位の修得状況によって異なります。
 - (1)春学期のみ未修得の場合は春学期に科目登録を行ってください。
 - (2)秋学期のみ未修得の場合は秋学期に科目登録を行ってください。
 - (3)春学期・秋学期ともに未修得の場合は春学期に科目登録を行ってください。両学期に同クラスがセットで登録されます。

④ 1次登録

[対象者] 全学年

[申請期間] 春学期：<在学生>3/17(木) 10:00 ~3/19(土) 17:00、<新入生>3/29(火) 10:00 ~ 3/31(木) 17:00

秋学期：<全学年共通>9/21(水)10:00 ~ 9/23(金) 17:00

[対象科目]

通常/ 再履修	対象科目	申請方法	詳細
通常	英語 1 - 1	MyWaseda	<p>【新入生】 新入生必修科目登録にて暫定登録されたクラスから、自身の習熟度レベルに属する他 2 クラスへの変更申請が可能です。変更を希望される方は、MyWaseda の科目登録画面にて、まず暫定クラスを「科目取消」したうえで、希望クラスを申請してください。（科目取消の操作方法は P.46 参照）</p> <p>【新入生 WeTEC スコア上位者】 新入生必修科目登録では英語 1 - 1 科目は登録されません。代替科目として、学科目配当表の「英書研究」(P.64)、および「現代日本学プログラム提供科目」(P.70)を参照のうえ、履修希望科目を第 5 希望まで申請してください。申請画面にて科目検索する際の「科目群」は、「英語 1 - 1」を選択してください。そのうえで、対象科目を選択する際に、「科目区分」が「英語 1 - 1」となっていることを確認のうえ、申請を行ってください。</p>
	英語 2 - 2	MyWaseda	Web 科目登録で第 5 希望まで申請可能です。 秋学期クラスは春学期と同じクラスが自動登録されます。
	教養外国語	MyWaseda	<日本語 選択者> 日本語教育研究センター発行の「日本語科目 登録の手引き・講義要項」を参照のうえ、Web 申請してください。
	選択外国語	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
	コア科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
	基盤専門科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
	先進専門科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
	社会科学総合研究	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
	CJSP 科目	MyWaseda	全学オープン科目に指定された科目 (P.70 参照) は 1 次登録期間中に申請を受け付けます。
	全学オープン科目 ※学部提供科目含む	MyWaseda	全学オープン科目のうち、学部提供科目については 1 次登録期間中のみ申請可能です。2 次登録期間以降は申請できません。
	教職等資格関連科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
再履修	英語 1 - 1	MyWaseda	再履修クラスである Y・Z クラスから、第 2 希望まで申請可能です。
	英語 1 - 2	MyWaseda	General Tutorial English ではなく、社会科学部設置の「英語 1 - 2 (春学期・秋学期)」両方を履修する必要があります。A・B クラスから第 2 希望まで申請可能です。
	英語 2 - 1	MyWaseda	再履修クラスである Y・Z クラスから、第 2 希望まで申請可能です。
	英語 2 - 2	MyWaseda	上記の「通常」履修者と同様。
	教養外国語	MyWaseda	<p>春学期・秋学期の両単位を未修得の場合は春学期に、秋学期のみ未修得の場合は秋学期に申請してください。</p> <p><ドイツ語・フランス語 選択者> A~E クラスの中から第 5 希望まで申請可能です。</p> <p><中国語 選択者> 再履修クラスの Y・Z クラスの中から第 2 希望まで申請可能です。</p> <p><スペイン語 選択者> 再履修クラスの Y クラス、もしくは通常の A~E クラスの中から第 5 希望まで申請可能です。</p> <p><イタリア語・朝鮮語 選択者> 「在学生必修外国語登録」では社会科学部事務所に申請を受け付けますが、本登録期間中は Web 申請のみ受け付けます。</p> <p><日本語 選択者> 上記の「通常」履修者と同様。</p>

[注意事項]

- ・新入生必修科目登録・在学生自動登録・英語 2 - 2 ・必修外国語登録の結果、定員に達した科目には申請できません。
- ・「英語 2 - 2」、「教養外国語再履修」の申請を忘れた、もしくは希望した全クラスが選外になった場合、1 次登録・2 次登録期間に、定員に余裕

があるクラスに限り、Web 科目登録を受け付けます（イタリア語・朝鮮語の再履修者も同様に Web での受付となります）。

- ・必修英語の再履修の申請期間は、単位の修得状況によって異なります。
 - (1)春学期のみ未修得の場合は春学期に科目登録を行ってください。
 - (2)秋学期のみ未修得の場合は秋学期に科目登録を行ってください。
 - (3)春学期・秋学期ともに未修得の場合は春学期に科目登録を行ってください。両学期に同クラスがセットで登録されます。

⑤ 2次登録

[対象者] 全学年

[申請期間] 春学期：4/6(水) 10:00 ~ 4/7(木) 17:00、秋学期：9/28(水) 10:00 ~ 9/29(木) 17:00

[対象科目]

通常／再履修	対象科目	申請方法	詳細
通常	英語 2 - 2	MyWaseda	Web 科目登録で第 5 希望まで申請可能です。 秋学期クラスは春学期と同じクラスが自動登録されます。
	選択外国語	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
	コア科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
	基盤専門科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
	先進専門科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
	社会科学総合研究	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
	全学オープン科目 ※学部提供科目除く	MyWaseda	全学オープン科目のうち、学部提供科目については 1 次登録期間中のみ申請可能です。2 次登録期間以降は申請できません。
	教職等資格関連科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
再履修	英語 1 - 1	MyWaseda	再履修クラスである Y・Z クラスから、第 2 希望まで申請可能です。
	英語 1 - 2	MyWaseda	General Tutorial English ではなく、社会科学部設置の「英語 1 - 2（春学期・秋学期）」両方を履修する必要があります。A・B クラスから第 2 希望まで申請可能です。
	英語 2 - 1	MyWaseda	再履修クラスである Y・Z クラスから、第 2 希望まで申請可能です。
	英語 2 - 2	MyWaseda	上記の「通常」履修者と同様。
	教養外国語	MyWaseda	春学期・秋学期の両単位を未修得の場合は春学期に、秋学期のみ未修得の場合は秋学期に申請してください。
			<ドイツ語・フランス語 選択者> A～E クラスの中から第 5 希望まで申請可能です。 <中国語 選択者> 再履修クラスの Y・Z クラスの中から第 2 希望まで申請可能です。 <スペイン語 選択者> 再履修クラスの Y クラス、もしくは通常の A～E クラスの中から第 5 希望まで申請可能です。 <イタリア語・朝鮮語 選択者> 「在学生必修外国語登録」では社会科学部事務所にて申請を受け付けますが、本登録期間中は Web 申請のみ受け付けます。 <日本語 選択者> 上記の「通常」履修者と同様。

[注意事項]

- ・ 1 次登録までの結果、定員に達した科目には申請できません。
- ・「英語 2 - 2」、「教養外国語再履修」の申請を忘れた、もしくは希望した全クラスが選外になった場合、1 次登録・2 次登録期間に、定員に余裕があるクラスに限り、Web 科目登録を受け付けます（イタリア語・朝鮮語の再履修者も同様に Web での受付となります）。
- ・必修英語の再履修の申請期間は、単位の修得状況によって異なります。
 - (1)春学期のみ未修得の場合は春学期に科目登録を行ってください。
 - (2)秋学期のみ未修得の場合は秋学期に科目登録を行ってください。
 - (3)春学期・秋学期ともに未修得の場合は春学期に科目登録を行ってください。両学期に同クラスがセットで登録されます。

⑥ 3次登録

[対象者] 全学年

[申請期間] 春学期：4/13(水) 10:00～4/14(木) 17:00、秋学期：10/5(水) 10:00～10/6(木) 17:00

[対象科目]

通常／再履修	対象科目	申請方法	詳細
通常	教養外国語	MyWaseda	<日本語 選択者> 日本語教育センター発行の「日本語科目 登録の手引き・講義要項」を参照のうえ、Web 申請してください。 なお、日本語教育センターの科目に限り、本登録期間中に取り消し、および算入科目区分の変更が可能です。
	コア科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
	基盤専門科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
	先進専門科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
	社会科学総合研究	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
	CJSP 科目	MyWaseda	2次登録終了後に定員に余裕がある科目に限り、3次登録で申請を受け付けます。全学オープン科目に指定されていない科目も対象となります。
	全学オープン科目 ※学部提供科目除く	MyWaseda	全学オープン科目のうち、学部提供科目については1次登録期間中のみ申請可能です。2次登録期間以降は申請できません。
	他学部聴講科目	MyWaseda	科目設置学部で他学部生の聴講を認めている科目のうち、各学部の2次登録終了後に定員に余裕がある科目に限り、3次登録で申請することができます。
	教職等資格関連科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。

[注意事項]

- ・ 2次登録までの結果、定員に達した科目には申請できません。
- ・ 必修外国語・選択外国語（社会科学部設置科目）の各科目は3次登録では申請できません。
- ・ 3次登録では、1次・2次登録にて決定した科目の一部を対象に、取り消し、もしくは算入科目区分の変更ができます。詳細は P.39 を参照してください。

⑦ 英語 1 - 2 (General Tutorial English) の登録

新入生必修科目登録では、週2コマの授業のうち、週後半コマの曜日・時限のみ決定します。週前半コマについては、**Tutorial Site**にてご自身で希望の曜日・時限を登録してください。詳細は GEC 発行の「2016年度 General Tutorial English 履修ガイド」を参照してください。

⑧ ゼミナール継続者・合格者の登録

ゼミナールの各科目は、在学生自動登録において、前年度中に実施したゼミナール継続判定、および募集の結果に基づき自動登録されます。以下の場合は、個別手続きが必要となります。

ゼミナールの継続履修を希望しない場合

「ゼミナール非継続願」を3月末日までに社会科学部事務所に提出してください。

申請用紙は社会科学部事務所、もしくはホームページ (<https://www.waseda.jp/fsss/sss/students/seminar/>)にて入手可能です。

延長生がゼミナール履修を希望する場合

「延長生ゼミナール登録申請書」を春学期3次登録期間終了までに社会科学部事務所に提出してください。

※指導教員の署名・押印が必要となりますのでご注意ください。

申請用紙は社会科学部事務所、もしくはホームページ (<https://www.waseda.jp/fsss/sss/students/seminar/>)にて入手可能です。

⑨ 他箇所（社会科学部以外）科目の登録手続き

社会科学部学生が社会科学部以外で修得した単位は、年間 12 単位、在学中 36 単位まで算入可能です。

科目設置箇所とその分類によって、登録時期・方法、またその単位の取り扱いが異なります（P.35 参照）。十分に注意してください。

◆社会科学部以外の登録時期詳細

分類	科目	参照先要項 ・ 手引き等	科目登録時期						
			春学期			夏季追加	秋学期		
			1次	2次	3次	※	1次	2次	3次
全学オープン科目	アカデミックライティング科目	・全学オープン科目履修ガイド ・Web ページ	○	○	○	—	○	○	○
	数学科目		○	○	○	—	○	○	○
	統計科目		○	○	○	○	○	○	○
	情報科目		○	○	○	○	○	○	○
	英語科目		○	○	—	○	○	○	—
	言語科目		○	○	○	○	○	○	○
	保健体育科目		○	○	○	○	○	○	○
	ユニバーシティスタディーズ科目		○	○	○	○	○	○	○
	国際教育科目		○	○	○	—	○	○	○
	日本語教育科目		○	○	○	—	○	○	○
	インターンシップ実習	『インターンシップの手引き』 (キャリアセンター発行)	キャリアセンターにて個別申請						
	【他大学】 f-Campus	他大学マニュアル	3/26(土)12:00~4/2(土)9:30 →4/3(日)9:30 から他大学交流シ ステムで発表			—	9/2(金)12:00~9/12(月)9:30 →9/13(火)9:30 から他大学交流シ ステムで発表		
	【他大学】 武蔵野美術大学 東京家政大学		3/26(土)12:00~4/2(土)9:30 →4/3(日)9:30 から他大学交流シ ステムで発表			—	—	—	—
	【他大学】 京都地域大学・短期大学		3/26(土)9:00~4/7(木)17:00			○	—	—	—
	【他大学】 九州大学		—	—	—	○	—	—	—
留学センター提供科目	・全学オープン科目履修ガイド ・Web ページ	○	○	○	○	○	○	○	
学部提供全学オープン科目 (全学部)	・全学オープン科目履修ガイド ・各学部 Web ページ	○	—	—	—	○	—	—	
他学部聴講（提供）科目	・各学部 Web ページ	—	—	○	—	—	—	○	
社会科学部研究科提供科目	・研究科要項	春学期 3 次登録までに春学期・秋学期両方の科目を社会科学部事務所へ申請							
教職等資格関連科目	『教職課程履修の手引き』 (教育学部発行)	○	○	○	—	○	○	○	

○ 春学期科目は、「春学期（前半）、（後半）」「夏季集中」「集中講義（春学期）」「春夏期」「夏秋期」「夏シーズン」を含む。

○ 秋学期科目は、「秋学期（前半）、（後半）」「冬季集中」「春季集中」「集中講義（秋学期）」「冬シーズン」を含む。

※夏季追加登録は以下の科目が対象となります。

グローバルエデュケーションセンター：春学期登録で定員に余裕があった「夏季集中」「夏秋期」「夏シーズン」科目

留学センター：「夏秋期」科目

【全学オープン科目の詳細情報について】

全学オープン科目（GEC 提供、他学部提供、協定他大学提供）の一覧は、GEC ホームページ（www.waseda.jp/gec/）で確認してください。科目内容については、Web シラバス（www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php）をご確認ください。

2. 主なルール・注意点

科目登録では、登録エラーがおきないように注意すべき事項がいくつかあり、事前に確認する必要があります。主なルール・注意点をよく読み、自身の希望する科目登録が行えるように準備してください。なお、**エラーにより希望しない算入区分への登録決定、希望する科目の登録不可等が発生した場合、登録内容を変更することはできません**。十分に注意して登録に臨んでください。

	ルール・注意点	参照先	
履修申請時	算入区分	各科目には「算入区分」が設けられており、「卒業算入」扱いにできるものと、できないものの2種類があります。	P.33「2-1. 単位の種類(算入区分)」
	制限単位数	「卒業算入」扱いとして申請できる単位数は、学期、科目区分、科目設置箇所などにより制限が設けられています。	P.34「2-2. 登録制限単位数・算入上限単位数」
	他箇所科目の科目区分	他箇所提供科目は、科目の設置箇所や性質により算入区分・科目区分が異なります。	P.35「2-3. 社会科学部以外で履修した科目の単位算入部門」
	前提条件	一部の科目(積み上げ式科目)は、登録する前学期までに修得すべき所定の科目を合格する必要があります。	P.36「2-4. 科目名のルールと履修方法」
	配当年次	各科目には配当年次が定められており、履修学年によって登録できる科目が制限されています。	
	遠距離	授業実施キャンパス間の移動時間が確保できない場合、登録はできません。	
	曜日・時限の重複	同一曜日時限には複数科目を申請できません。	
	同一科目の重複履修	同一学期に同一科目を申請することや、前学期までに単位を修得した科目を申請することはできません。	
	例外条件	上記の例外として、科目名称や講義内容等の変更により履修条件が例外的に定められている科目があります。	P.37「2-5. 履修条件の例外科目一覧」
履修申請後	定員と抽選	各科目には定員が定められており、定員を超える希望申請があった場合には抽選により履修者が決定されます。	P.38「2-6. 定員と抽選」
	取消・区分変更	一部科目では、決定後科目の取り消しと算入区分の変更ができます。	P.39「2-7. 決定した科目の取り消し・算入区分変更」
	申請・登録結果の確認	申請情報および登録結果は、必ずメールで確認してください。	P.40「2-8. 申請情報・登録結果の確認」
	聴講料納入	聴講料(実験実習料)の納入が必要な科目の登録が決定し、期限内に納入しなかった場合、決定科目は取り消しとなり、その後の科目登録において抽選の優先順位が下がります。	P.41「2-9. 聴講料(実験実習料)納入」

2-1. 単位の種類（算入区分）

各科目には「算入区分」が設けられており、卒業単位として加算される「卒業算入単位」と、卒業単位には加算されない「卒業非算入単位」とがあります。

◆卒業算入単位

卒業算入単位とは、科目を履修し、合格した場合、その単位が卒業必要単位数（124 単位）の一部として、それぞれの科目区分（英語、教養外国語、選択外国語、コア科目、基盤専門科目、先進専門科目、社会科学総合研究）の上限単位数まで**算入される単位**のことです。卒業算入として登録した科目はすべて **GPA※（成績の平均）に影響します**（不合格の単位を含む）。

※GPA について、下記に詳細があります。

◆卒業非算入単位

非算入単位とは、科目を合格した場合、成績は付与されますが、**卒業必要単位数には加算されない単位**のことです。

非算入科目には、「超過履修科目」と「自由科目」の2つがあります。卒業非算入として登録した科目は **GPA に影響しません**。

◇超過履修科目

超過履修科目とは、本来「卒業算入」として扱える科目が、申請者の希望により「卒業非算入」の単位として申請されたものを指します。例えば、登録制限単位数を超えて科目登録を行う場合や、成績の良し悪しに関係なくご自身の研究または興味に基づいて履修したい場合に、「超過履修科目」として申請することができます。

ただし、超過履修科目として申請した科目（社会科学部設置科目）が抽選対象科目となった場合、卒業算入単位として申請した学生が優先的に登録されますので、予めご了承ください。

◇自由科目

自由科目とは、「卒業非算入」としてのみ履修が可能な科目です。社会科学部のカリキュラムとして卒業算入単位に認められないと判断された科目、もしくは他箇所提供科目のうち社会科学部設置科目と「同名科目」または「同内容」と判断された科目が該当します。

【GPA (Grade Point Average) について】

GPA とは成績の平均を表す値で、学期毎または在学中通算の GPA が確認できます。対象科目は、「卒業算入科目」として登録したすべての科目で、不合格科目を含みます。

GPA は様々な場面で成績評価として利用され、留学プログラム申請や、大学院入学、また奨学金判定基準等に利用されています。大切な指標となるため、科目登録の際には、「算入」「非算入」に十分注意して登録を行ってください。

※一度「非算入」として登録が決定した科目を「算入」に変更することはできません。また、「算入」として決定した科目を、科目登録期間後に「非算入」に変更することもできません。GPA 計算式は以下のとおりです。

$$\frac{(A^+ \text{ 修得単位数} \times 4) + (A \text{ 修得単位数} \times 3) + (B \text{ 修得単位数} \times 2) + (C \text{ 修得単位数} \times 1)}{\text{総登録単位数 (卒業算入単位すべて、不合格科目も含む)}}$$

2-2. 登録制限単位数・算入上限単位数

各学期に「卒業算入単位」として申請・登録できる単位数は制限があり、これらの制限を超えて申請するとエラーとなります。

《重要》

- 各登録制限単位数を超えて申請しようとすると、Web 科目登録時にエラーが表示されます。エラーを解消せずに申請した場合、無作為に選ばれた科目が登録不可もしくは「超過履修科目」となります。
- 一度「超過履修科目」として登録決定した科目の登録取り消し、および卒業算入区分への変更はできません。また、他の卒業算入科目との算入区分の入れ替えも認められません。各種制限単位数を超えて登録を希望する際は、必ずオーバーする単位数分以上をご自身で選び、超過履修（卒業非算入）申請するようにしてください。

◆年間・半期登録制限単位数

◇一般入学者

3年生以下		4年生以上	
年間合計		年間合計	
40 単位		48 単位	
春学期	秋学期	春学期	秋学期
24 単位	24 単位	28 単位	28 単位

◇学士・3年次編入学者

3年生以下		4年生以上	
年間合計		年間合計	
48 単位		56 単位	
春学期	秋学期	春学期	秋学期
28 単位	28 単位	32 単位	32 単位

※「通年」・「夏季集中」科目は「春学期」の登録単位数、「冬季集中」・「春季集中」・「夏秋期」科目は「秋学期」の登録単位数に数えられます。

重要 春学期に不合格となった単位があっても、不合格分単位数が秋学期の登録制限単位数に補充はされません。

例1) 一般入学3年生の方が春学期に24単位登録した場合、春学期科目がすべて不合格であったとしても、秋学期登録可能単位数は16単位までとなります。(年間の登録制限単位数: 40単位 - 春学期登録単位数: 24単位 = 16単位)

例2) 一般入学2年生の方が春学期に10単位のみを登録した場合、秋学期の最大登録可能単位数は30単位ではなく、24単位です(秋学期の登録制限単位数)。

◆科目種別ごとの登録制限・算入上限単位数

科目種別	年間登録制限	在学中算入上限	配当年次
選択外国語	4 単位	8 単位	1 年以上
社会科学特殊講義	4 単位	12 単位	1 年以上
先進社会科学特殊講義	4 単位	4 単位	2 年以上
外国書研究	英書、中国書研究 上記以外	4 単位	2 年以上
			3 年以上
専門英語	4 単位	12 単位	2 年以上
ゼミナール I	4 単位 ※1	4 単位 ※1	2 年以上
ゼミナール II・III	4 単位	8 単位	3 年・4 年以上
ソーシャル・リサーチ	4 単位 ※2	8 単位	2 年以上

※1 2012 年度以前入学者は、ゼミナール I の年間登録制限単位数・在学中算入上限ともに 2 単位です。

※2 ソーシャル・リサーチは各学期 2 単位の登録制限があります。

◆他箇所提供科目 登録制限・算入上限単位数

科目種別	年間登録制限	在学中算入上限
他箇所科目 合計	12 単位	36 単位
うち 選択外国語	4 単位	8 単位
うち 保健体育科目	4 単位	4 単位
うち インターンシップ科目	2 単位	2 単位

※英語 1-2 (General Tutorial English)、および教養外国語として履修したイタリア語・朝鮮語・日本語は他箇所制限単位数の対象外です。

※国際教養学部の提供科目のみ、1 学期に 1 科目までしか申請できません。2 科目以上申請した場合はエラーとなります。

重要 単位認定の取り扱いについて

- 他箇所の在学中算入上限 36 単位には、留学認定単位、および入学前の高校生特別聴講、外国学生導入教育、転部・編入元大学からの認定単位も含まれます。なお、これらの認定単位は、「年間登録制限単位数」の対象外です。

2-3. 社会科学部以外で履修した科目の単位算入部門

分類	科目群		科目種別			備考
			講義科目	外国語科目	同名科目※ ¹	
全学オープン科目	グローバルエデュケーションセンター提供科目	アカデミックライティング科目	基盤専門科目	—	自由科目	
		数学科目	基盤専門科目	—	自由科目	
		統計科目	基盤専門科目	—	自由科目	
		情報科目	基盤専門科目	—	自由科目	
		英語科目	—	選択外国語	自由科目	※ ²
		言語科目	—	選択外国語	自由科目	
		保健体育科目	基盤専門科目	—	自由科目	算入上限4単位
		ユニバーシティスタディーズ科目	基盤専門科目	—	自由科目	
		国際教育科目	基盤専門科目	—	自由科目	
		日本語教育科目	—	選択外国語	自由科目	
		インターシップ実習	基盤専門科目	—	自由科目	算入上限2単位
		【他大学】 f-Campus 武蔵野美術大学 東京家政大学 京都地域大学・短期大学 九州大学	基盤専門科目	選択外国語	自由科目	年間登録制限単位数があります。GEC発行の「全学オープン履修ガイド」を参照してください。
留学センター提供科目	基盤専門科目	—	自由科目			
学部提供全学オープン科目(全学部)	基盤専門科目	選択外国語	自由科目 ※ ³			
他学部聴講科目	自由科目	自由科目	自由科目	※ ⁴		
教職等資格関連科目	—	—	自由科目			
社会科学研究科提供科目	自由科目	—	—	※ ⁵		

※1 同名科目とは、社会科学部設置科目と科目名が同じ科目に加え、科目内容が同じと判断された科目、および社会科学部カリキュラムとして卒業算入単位に認定できないと判断された科目も含まれ、すべて「自由科目」（卒業非算入単位）となります。

※2 英語1-2として1年次に履修するGeneral Tutorial English (GEC 提供科目) は、「必修英語」の区分に入ります。

※3 同名科目は通常「自由科目」となりますが、語学科目に限り「選択外国語」（算入算入単位）として履修可能です。

◆全学オープン科目の取り扱いについて

社会科学部ホームページにて公開される「全学オープン科目取扱一覧」にて、全学オープン科目の科目部門が科目別に一覧化されています。この一覧表は、毎年更新されますので、申請前に確認するようにしてください。

◆政経・法・商学部の聴講科目の取り扱いについて（上記表中の※4）

早稲田大学の各学部が、全学オープン科目以外に他学部生の聴講を許可し、自箇所学生の登録後、定員に余裕があれば開放される科目があり、それらの科目は3次登録から登録が可能です。これらの科目は原則として「自由科目」（卒業非算入科目）となりますが、政経・法・商学部提供の以下科目においては、基盤専門科目として卒業単位に算入できます。これらの学部では、社会科学部とは異なった特徴を持っていますので、強い専門性を志向する学生の皆さんの履修を推奨しています。

学部	科目部門
政治経済学部	1. 政治学科目部門（文献研究科目を除く） 2. 経済学科目部門（ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門を除く） 3. 国際政治経済学科目部門（入門科目、公共哲学を除く）
法学部	法律科目（演習科目を除く）
商学部	専門教育科目（演習科目を除く）

※対象科目の詳細は、社会科学部ホームページを参照してください。

◆社会科学研究科 先取り履修について（上記表中の※5）

社会科学部4年生以上の学生は、科目担当教員の承認があれば、年間8単位まで社会科学研究科提供の講義科目履修が可能です。「自由科目」（卒業非算入科目）となりますが、社会科学研究科入学後、最大10単位まで修士課程修了単位として認定が可能です。※4年生以上の学士入学者は年間4単位まで「先進専門科目」として履修可能です。

【申請時期】春学期1次～3次登録期間 ※秋学期科目も、春登録のみ受付 【申請場所】社会科学部事務所

2-4. 科目名のルールと履修方法

社会科学部の科目名は「科目名称」と「クラス名称」（科目名の後につくアルファベット）により識別されます。科目名によって履修方法が異なりますので、十分注意してください。

(例)	経済学入門 1	[マクロ経済学]	A~C
	科 目 名		ク ラ ス 名
	流 通 論 II	A~B	
	科 目 名	ク ラ ス 名	

積み上げ式科目① 「I・II 科目」（Iを履修し単位を修得していないと、IIが履修できない）

社会科学部設置科目では、科目名末尾にローマ数字の「I」または「II」がついていた場合、**Iを合格していないとIIの登録・履修ができません。**（前提条件エラー）

【例】「社会保障法 I」の単位を前学期までに修得していない場合、「社会保障法 II」の登録はできません。

※春学期に「I」を登録しても、不合格であった場合は「II」の登録ができません。

※必ずしも「I」が春学期、「II」が秋学期に開講されていないため、在学中計画的に履修をしてください。

※「I」と「II」は、積み上げ式科目のため、「I」を合格した場合、「II」も登録・履修されることが望めます。2016年度より、春学期に「I」を履修・合格した学生には、秋学期1次登録前に「II」が自動登録されます。登録された「II」は秋学期1次・3次登録で取消ができます。

【I/II 積み上げ式科目の例外：ゼミナール】

ゼミナールにも「I/II/III」が科目名につきますが、履修可否は担当教員の判断となるため、「II」または「III」からの履修が認められる場合もあります。※「I」の単位を修得しても、「II」の履修が認められない場合もあります。

積み上げ式科目② 外国語科目（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）

社会科学部設置の外国語科目（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）では、科目名に「基礎」・「初級」・「準中級」・「中級」がついていた場合、それぞれ下記1～3のとおり登録・履修ができません。（前提条件エラー）

1. 「基礎」科目を合格、単位修得していないと、「初級」科目の登録・履修はできません。
2. 「初級」科目を合格、単位修得していないと、「準中級」科目の登録・履修はできません。
3. 「準中級」科目を合格、単位修得していないと、「中級」科目の登録・履修はできません。

【例】「ドイツ語 1 基礎」の単位を前学期までに修得していない場合、「ドイツ語 1 初級」の登録はできません。

「中国語 2《準中級》」単位を前学期までに修得していない場合、「中国語 2《中級》」の登録はできません。

科目名に「1」・「2」・「3」…がつく科目

社会科学部設置で、科目名末尾に「1」・「2」・「3」…がついている科目は、**いずれの科目からでも履修可能**です。

【例】「メディア論 1」を履修していなくても、「メディア論 3」の登録が可能です。

※「1」は「2」の、「2」は「3」の前提科目ではありません。番号に関係なく、登録・履修が可能です。

※必ずしも、1, 2, 3…の全てを履修する必要はありません。

クラス名に「A」・「B」・「C」…がつく科目

社会科学部設置で、クラス名が「A」・「B」・「C」…となっている科目は**同科目**です。いずれか1科目のみ履修が可能で、一度単位を修得した場合は担当教員が異なっても、再度登録・履修はできません。

【例】「社会デザイン論入門 A」の単位が既得であった場合、「社会デザイン論入門 B」の登録はできません。

※同学期に複数クラスが開講している場合、その学期にはいずれか1科目のみ登録が可能です。複数クラスの申請を行った場合、どちらか一方がエラーとなり、登録されません。

※前学期までに「A（または B,C…）」の単位が不合格であった場合、同じクラス、また別クラスの登録・履修は可能です。

2-5. 履修条件の例外科目一覧

前述の諸条件に加えて、履修条件変更や科目名称変更により、例外的に登録できない科目があります。(以下一覧)

対象科目	例外履修条件	例外の理由等
異文化コミュニケーション論	2010年度以前に「異文化コミュニケーション論Ⅰ」の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更のため
ビジュアルイメージ研究(先進専門科目)	2012年度以前に「ビジュアルイメージ研究Ⅰ(基盤専門科目)」の単位を修得している場合は履修できません。	科目名称変更のため
金融経済論Ⅰ(先進専門科目)	2012年度以前に「金融経済論Ⅰ(基盤専門科目)」の単位を修得している場合は履修できません。	科目区分変更のため
金融経済論Ⅱ(先進専門科目)	2012年度以前に「金融経済論Ⅱ(基盤専門科目)」の単位を修得している場合は履修できません。	科目区分変更のため
グローバルサプライチェーン・マネジメント	2013年度以前に「貿易実務Ⅰ」と「貿易実務Ⅱ」の両方の単位を修得している場合は履修できません。	科目名称、科目設置形態の変更
経営科学Ⅰ	*2014年度に「経営科学Ⅰ」または「経営科学Ⅱ」の単位を修得している場合は履修できません。 *2013年度以前の「経営科学Ⅰ」の単位を修得している場合でも履修できます。 *2013年度以前の「経営科学Ⅰ」と「経営科学Ⅱ」の両方の単位を修得している場合でも履修できます。	履修条件変更のため
経営科学Ⅱ	*2014年度に「経営科学Ⅱ」の単位を修得している場合は履修できません。 *2013年度以前の「経営科学Ⅰ」の単位を修得している場合でも履修できます。 *2013年度以前の「経営科学Ⅰ」と「経営科学Ⅱ」の両方の単位を修得している場合でも履修できます。	履修条件変更のため
経営戦略Ⅰ	「経営戦略Ⅰ」の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更のため
経営戦略Ⅱ	「経営戦略Ⅱ」の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更のため
経済数学Ⅰ	2014年度以前に「経済数学」の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更のため
経済数学Ⅱ	2014年度以前に「経済数学」の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更のため
経済動学Ⅰ(先進専門科目)	2013年度以前に「経済動学Ⅰ(基盤専門科目)」の単位を修得している場合は履修できません。	科目区分変更のため
経済動学Ⅱ(先進専門科目)	2013年度以前に「経済動学Ⅱ(基盤専門科目)」の単位を修得している場合は履修できません。	科目区分変更のため
刑法各論Ⅰ(基盤専門科目)	2013年度以前の「刑法各論Ⅰ」と「刑法各論Ⅱ」の両方の単位を修得している場合(2009年度以前に「刑法各論」の単位を修得している場合を含む)は履修できません。	履修条件変更のため
刑法各論Ⅱ(先進専門科目)	2013年度以前の「刑法各論Ⅰ」と「刑法各論Ⅱ」の両方の単位を修得している場合(2009年度以前に「刑法各論」の単位を修得している場合を含む)は履修できません。	履修条件変更のため
刑法総論	2014年度以前に「刑法総論Ⅰ」「刑法総論Ⅱ」の両方の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更のため
刑事政策	2014年度以前に「刑事政策Ⅰ」の単位を修得している場合は履修できません。	
現代家族論Ⅰ	「現代家族論Ⅰ」の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更のため
現代家族論Ⅱ	「現代家族論Ⅱ」の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更のため
公共選択論Ⅰ(先進専門科目)	2012年度以前に「公共選択論Ⅰ(基盤専門科目)」の単位を修得している場合は履修できません。	科目区分変更のため
公共選択論Ⅱ(先進専門科目)	2012年度以前に「公共選択論Ⅱ(基盤専門科目)」の単位を修得している場合は履修できません。	科目区分変更のため
公共文化論Ⅰ	「公共文化論Ⅰ」の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更のため
公共文化論Ⅱ	「公共文化論Ⅱ」の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更のため
国際金融論Ⅰ(先進専門科目)	2012年度以前に「国際金融論Ⅰ(先進専門科目)」の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更のため
国際金融論Ⅱ(先進専門科目)	2012年度以前に「国際金融論Ⅱ(先進専門科目)」の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更のため
国際経営論Ⅰ	「国際経営論Ⅰ」の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更のため
国際経営論Ⅱ	「国際経営論Ⅱ」の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更のため
国際経済法Ⅰ(基盤専門科目、配当年次1年生以上)	2013年度以前に「国際経済法Ⅰ(先進専門科目、配当年次3年生以上)」の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更、科目区分変更、および配当年次変更のため
国際経済法Ⅱ	「国際経済法Ⅱ」の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更のため
国際法Ⅰ(配当年次1年生以上)	2013年度以前に「国際法Ⅰ(配当年次2年生以上)」の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更、および配当年次変更のため
国際法Ⅱ(先進専門科目、配当年次3年生以上)	2013年度以前に「国際法Ⅱ(基盤専門科目、配当年次2年生以上)」の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更、科目区分変更、および配当年次変更のため
Contemporary Political Analysis (Japan)	2013年度以前に「現代政治分析(日本)」の単位を修得している場合は履修できません。	使用言語変更のため
産業組織論Ⅰ(基盤専門科目)	2012年度以前に「産業組織論Ⅰ(基盤専門科目)」の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更のため
産業組織論Ⅱ(先進専門科目)	2012年度以前に「産業組織論Ⅱ(基盤専門科目)」の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更のため
実証経済学	2013年度以前に「実証経済学Ⅰ」または「実証経済学Ⅱ」の単位を修得している場合は履修できません。	科目設置形態の変更
社会科学総合研究(市民活動と自治体ー市民社会の可能性)Ⅰ	2014年度以前に、「社会科学総合研究(公共空間と市民活動・市民参加)」、「社会科学総合研究(公共空間から見た市民活動)Ⅰ」、または「社会科学総合研究(公共空間から見た市民活動)Ⅱ」の単位を修得している場合は履修できません。	科目名称変更のため
社会科学総合研究(市民活動と自治体ー市民社会の可能性)Ⅱ	2014年度以前に、「社会科学総合研究(公共空間と市民活動・市民参加)」、「社会科学総合研究(公共空間から見た市民活動)Ⅰ」、または「社会科学総合研究(公共空間から見た市民活動)Ⅱ」の単位を修得している場合は履修できません。	科目名称変更のため
社会科学総合研究(女性と政治)	2013年度以前に「社会科学総合研究(議員リクルートメントの比較ジェンダー学)」の単位を修得している場合は履修できません。	科目名称変更のため
社会科学総合研究(ロシア東欧現代経済)Ⅰ	「社会科学総合研究(ロシア東欧現代経済)Ⅰ」の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更のため
社会科学総合研究(ロシア東欧現代経済)Ⅱ	「社会科学総合研究(ロシア東欧現代経済)Ⅱ」の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更のため
社会デザイン実習Ⅱ	2014年度以前に「社会デザイン実習Ⅱ(メディアコミュニケーション)」の単位を修得している場合は履修できません。	
社会デザイン実習Ⅲ	2014年度以前に「社会デザイン実習Ⅲ(メディアコミュニケーション)」の単位を修得している場合は履修できません。	
生命倫理と法Ⅰ	2014年度以前に「生命倫理と法Ⅰ」と「生命倫理と法Ⅱ」の両方の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更のため
生命倫理と法Ⅱ	2014年度以前に「生命倫理と法Ⅰ」と「生命倫理と法Ⅱ」の両方の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更のため
世界人口移動論Ⅱ	「Population and Migration in the Contemporary World 2」の単位を修得している場合は履修できません。	使用言語変更のため
Social History 1	「社会史Ⅰ」の単位を修得している場合は履修できません。	使用言語変更のため
Social History 2	「社会史Ⅱ」の単位を修得している場合は履修できません。	使用言語変更のため
Socio-Dynamics 1	「ソシオダイナミクスⅠ」の単位を修得している場合は履修できません。	使用言語変更のため
Socio-Dynamics 2	「ソシオダイナミクスⅡ」の単位を修得している場合は履修できません。	使用言語変更のため
知的財産権法(著作権法)	2014年度以前に「知的財産権法Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得している場合であっても履修可能です。	
知的財産権法(特許法、商標法、不正競争防止法)	2014年度以前に「知的財産権法Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得している場合であっても履修可能です。	
中国書研究(配当年次2年生以上)	2012年度以前に「中国書研究(配当年次3年生以上)」の単位を修得している場合は履修できません。	配当年次変更のため
中国理解を深めるー留学講座	2013年度以前の「中国理解を深めるー留学講座」の単位を修得している場合でも履修できます。	講義内容変更
ビジネス・イングリッシュⅠ	2013年度以前に「貿易英語Ⅰ」の単位を修得している場合は履修できません。	科目名称変更のため
ビジネス・イングリッシュⅡ	2013年度以前に「貿易英語Ⅱ」の単位を修得している場合は履修できません。	科目名称変更のため
比較社会経済史Ⅰ	2010年度以前に「社会経済史Ⅰ」の単位を修得している場合は履修できません。	科目名称変更のため
比較社会経済史Ⅱ	2010年度以前に「社会経済史Ⅱ」の単位を修得している場合は履修できません。	科目名称変更のため
比較政治制度論Ⅰ	「比較政治制度論Ⅰ」の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更のため
比較政治制度論Ⅱ	「比較政治制度論Ⅱ」の単位を修得している場合は履修できません。	履修条件変更のため
紛争解決論実習Ⅰ	2010年度以前に「Field Study on Piece Building(平和構築実習)01(多賀 秀敏)」の単位を修得している場合は履修できません。	科目設置箇所変更、および科目名称変更のため
紛争解決論実習Ⅱ	2010年度以前に「Field Study on Piece Building(平和構築実習)02(山田 満)」の単位を修得している場合は履修できません。	科目設置箇所変更、および科目名称変更のため
平和学Ⅱ-1(平和と戦争)	2009年度以前に「平和学Ⅰ」の単位を修得している場合は履修できません。	講義内容拡張のため
平和学Ⅱ-1(平和と戦争)	2010年度以前に「平和学Ⅱ」の単位を修得している場合は履修できません。	講義内容拡張のため
平和学Ⅱ-2(貧困・格差・人権・環境と平和)	2010年度以前に「平和学Ⅱ」の単位を修得している場合は履修できません。	講義内容拡張のため

2-6. 定員と抽選

社会科学部設置科目の定員は以下、別途定員が定められている科目以外は、原則 1 科目 300 名です。

※1 次登録の時点で 300 名を大幅に超える申請があった科目については、最大 500 名まで定員を拡大することがあります。

※教室設備との関係から、教室収容定員を履修定員とすることがあります。

定員が定められている科目

◆科目ごとの履修定員

対象科目	履修定員
ソーシャル・リサーチ	30 名
理解と表現の技法	30 名
ヴィジュアルイメージ研究	20 名
参加のデザイン技術	20 名
社会デザイン実習 1	50 名
社会デザイン実習 2・3	20 名
紛争解決論実習 1・2	15 名
問題の発見と探求の技法	20 名
コンピューターームで授業を行う科目	40 名 (14-613) または 63 名 (14-614)

◆科目部門ごとの履修定員

科目部門	履修定員
コア科目 ※	300 名
ゼミナール I・II・III	各 17 名
外国語科目	42 名
外国書研究	40 名
専門英語	20 名
現代日本学プログラム提供科目	20 名または 30 名

※コア科目の定員設定について

「コア科目」定員については、2 年生以上の履修を確保するため、各期 1 次登録のみ、定員の 3 割を 2 年生以上の枠として設定します。なお 2 次登録以降の募集ではこの定員枠をなくし、申請者多数の場合には学年ごとに設定されている優先順位（下記抽選時の優先順）により抽選を行います。

抽選時の優先順位

希望者が各科目の定員を超える場合には、コンピュータによる抽選が行われ登録者が決定されます。抽選の結果、落選してしまった場合、「選外」となり登録されません。なお、抽選の際には、下記の「優先順位が定められている科目」を除き、申請者全員が平等に扱われます。

◆抽選時に優先順位が定められている科目

科目名	抽選順位（数字が小さいほど高順位）			
	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生以上
コア科目	1	3	3	2
民法概論	1	2	2	2
コンピュータと社会工学 I・II ※	1	2	2	2
理解と表現の技法 A（春学期）	2	1	2	2
理解と表現の技法 B（秋学期）	1	2	2	2
問題の発見と探求の技法	1	2	2	2

※教職免許「情報」取得希望の 3 年生以上の学生は、優先登録します。1 次登録期間中に社会科学部事務所にて手続きを行ってください。この科目は隔年開講科目です。注意して計画的に履修してください。

2-7. 決定した科目の取り消し・算入区分変更

一度申請し、決定した科目は原則として取り消し、変更はできません。

ただし、一部の科目においては、3次登録期間中に限り、1次・2次登録期間に登録した科目の①取り消し、または②算入区分変更(算入→非算入)が認められています。対象科目はそれぞれ以下のとおりです。

◆ 3次登録期間中に取り消し・算入区分変更が認められている科目

科目種別		① 取り消し	② 算入区分変更
社会科学部設置科目	基盤専門科目	○	×
	先進専門科目	○	×
	社会科学総合研究	○	×
	外国語	×	×
	コア科目	×	×
	ゼミナール I・II・III	×	×
他箇所提供科目 (以下の場合を除く)		×	○ (算入→非算入)
	日本語教育研究センター提供科目 ※	○	○ (算入→非算入、非算入→算入)

※ 外国学生に限ります。また、3次登録期間だけでなく、2次登録期間でも取り消し・算入区分変更が可能です。

重要

- 一度「取り消し」を行った科目は、登録データが削除され、**登録決定に戻すことはできません。**
- 取り消し単位数の上限はありませんが、**3次登録終了後に追加登録の機会はありません。**
- 春学期で決定した科目を秋学期取り消し期間中に取り消しすることはできません(逆も同様)。
- 科目区分の変更の確定後に、「**超過履修**」から「**算入**」に再度変更することはできません。
- 区分変更する単位数の上限はありませんが、**3次登録終了後に追加登録の機会はありません。**
- 取り消し、または算入区分変更した分の単位数を、3次登録で別科目により補うことは可能です。

※ 科目取り消し、算入区分変更等の操作方法については、P.44～をご確認ください。

2-8. 申請情報・登録結果の確認

申請情報および登録結果は下記①②のメールにて確認してください。

重要

- 下記①②のメールは、その年度の成績発表まで必ず大切に保管してください。
- メールボックスの空き容量を 10MB 以上確保してください。
メールをごみ箱に移しただけではメールボックスの空き容量は増えませんので、不要なメールはごみ箱から完全に削除してください。
→ 詳細は <http://www.waseda.jp/mnc/kamoku/operation.html> 参照
- Waseda-net メールを転送設定している場合は、必ず「転送元に残して転送」を選択してください。
転送先のメールボックスの容量がいっぱいであった、携帯電話の受信容量制限を超えてしまったなどの問題で、転送先がメールを受け取れなかった場合には、メールは破棄されますのでご注意ください。（メールを再送信することは出来ませんので、万が一受信に失敗した場合は、Web 科目登録の画面にて確認してください。）

① 申請情報確認メール

「確かに申請できたこと」を確認するための申請情報を、申請のあった翌日に 1 日分まとめて申請情報確認メールでお知らせします。メールは、翌日中に届きますので、必ず確認してください。なお、このメールはあくまでも申請内容であって、登録結果ではありませんのでご注意ください。最終的な登録結果については必ず②登録結果確認メールにて確認してください。

② 登録結果確認メール

登録チェック、抽選の結果を反映した科目登録結果を科目登録結果発表日に送信します。申請科目の「状態（決定・不可・選外）」を必ず確認してください。登録結果通知書と同義ですので、あらためて登録結果通知書を受け取る必要はありません。ただし、聴講料の支払が必要な科目を登録した場合は、「聴講料納入票」を所属箇所にて配布しますので、必ず受け取ってください。

重要 授業実施教室の確認について

授業が行われる教室は、必ず最新の登録結果確認メールにて確認してください。
なお、教室は授業開始後も変更される可能性がありますので、科目設置箇所の掲示板も併せて確認してください。

2-9. 聴講料（実験実習料）納入

聴講料は、一部の科目を履修するにあたって学費以外に支払う必要のある費用のことです（実習科目や体育科目等）。期限までに納入しなかった場合、決定科目は取り消しとなり、その後の科目登録において科目の優先順位が下がります。

◆納入期間

登録学期	登録時期	納入期間
春学期	1次登録	4月19日(火)～25日(月)
	2次登録	
	3次登録	
夏季集中科目追加登録		6月15日(水)～21日(火)
秋学期	1次登録	10月11日(火)～17日(月)
	2次登録	
	3次登録	

※日曜日は受け付けません。

◆生協納入票受付時間・店舗

キャンパス	登録学期	受付店舗	受付期間	受付時間
早稲田	春学期	17号館2階	4月19日(火)～25日(月)	平日 10:00-19:00 土曜 10:00-15:00
	夏季追加	トラベルサービス	6月15日(水)～21日(火)	平日 10:00-18:00 土曜 10:00-15:00
	秋学期	センター	10月11日(火)～17日(月)	平日 10:00-18:00※ 土曜 10:00-15:00
戸山	春学期	購買・書籍・ プレイガイド店	4月19日(火)～25日(月)	平日 10:00-18:00 土曜 10:30-14:30
	夏季追加		6月15日(水)～21日(火)	平日 10:00-18:00 土曜 10:30-14:30
	秋学期		10月11日(火)～17日(月)	平日 10:00-18:00 土曜 10:30-14:30
西早稲田	春学期	プレイガイド店	4月19日(火)～25日(月)	平日 10:00-18:00 土曜 閉店
	夏季追加	書籍店	6月15日(水)～21日(火)	平日 10:00-18:00 土曜 閉店
	秋学期	プレイガイド店	10月11日(火)～17日(月)	平日 10:00-18:00 土曜 閉店
所沢	春学期	100号館	4月19日(火)～25日(月)	平日 10:00-18:30 土曜 10:00-14:00
	夏季追加	購買・書籍・ プレイガイド店	6月15日(水)～21日(火)	平日 10:00-18:30 土曜 10:00-14:00
	秋学期	プレイガイド店	10月11日(火)～17日(月)	平日 10:00-18:30 土曜 10:00-14:00

※秋学期最終日 10月17日(月)は19時まで受け付けます。

◆聴講料（実験実習料）納入についての注意

科目の登録が決定した場合、納入票を社会科学部事務所で受け取り、指定された期限までに、各キャンパスの指定生協店舗で実験実習料（聴講料）を納入してください。**期限後の納入は如何なる事情があっても認められません。未納の場合、決定科目の履修が認められないばかりか、その後の科目登録において抽選の優先順位が下がることがあります。**

なお、納入票は1次～3次登録を1枚に集計して、3次登録結果発表後に発行します。

実験実習料納入対象の科目を登録する場合は、実験実習料の合計が10万円以上となる場合もありますので期日内に納入可能であることを確認してから科目登録を行ってください。実験実習料は納入票に記載された合計金額を全て現金で納入してください。**一部の科目の実験実習料のみ納入することはできません。**

また、代理人による納入も認めます。代理人が委任者の学部事務所に行って納入票を受け取り、生協に納入してください。

◇代理人の提出書類

- ① 社会科学部所定の委任状（社会科学部ホームページからダウンロードして使用してください）
- ② 委任者の学生証のコピー
- ③ 代理人の身分証明書

◆新入生必修の General Tutorial English 聴講料について

新入生必修の General Tutorial English 聴講料については、入学時に納入済みですので、科目登録後に聴講料を納入する必要はありません。

3. WEB 科目登録利用マニュアル

Web 科目登録利用手順

※凡例 …中心となる作業。数字は、作業順序

【注意】科目登録をWEBで申請する場合、申請する科目をあらかじめ決めて申請をしてください！

1. Web 科目登録の流れ

「成績照会・科目登録専用ログイン」画面からのログイン

○MyWaseda ログイン前画面左下の<成績照会・科目登録専用>をクリックし成績照会・科目登録専用ログイン画面からログインを行い、<成績照会・科目登録専用メニュー>から科目登録を選択します。

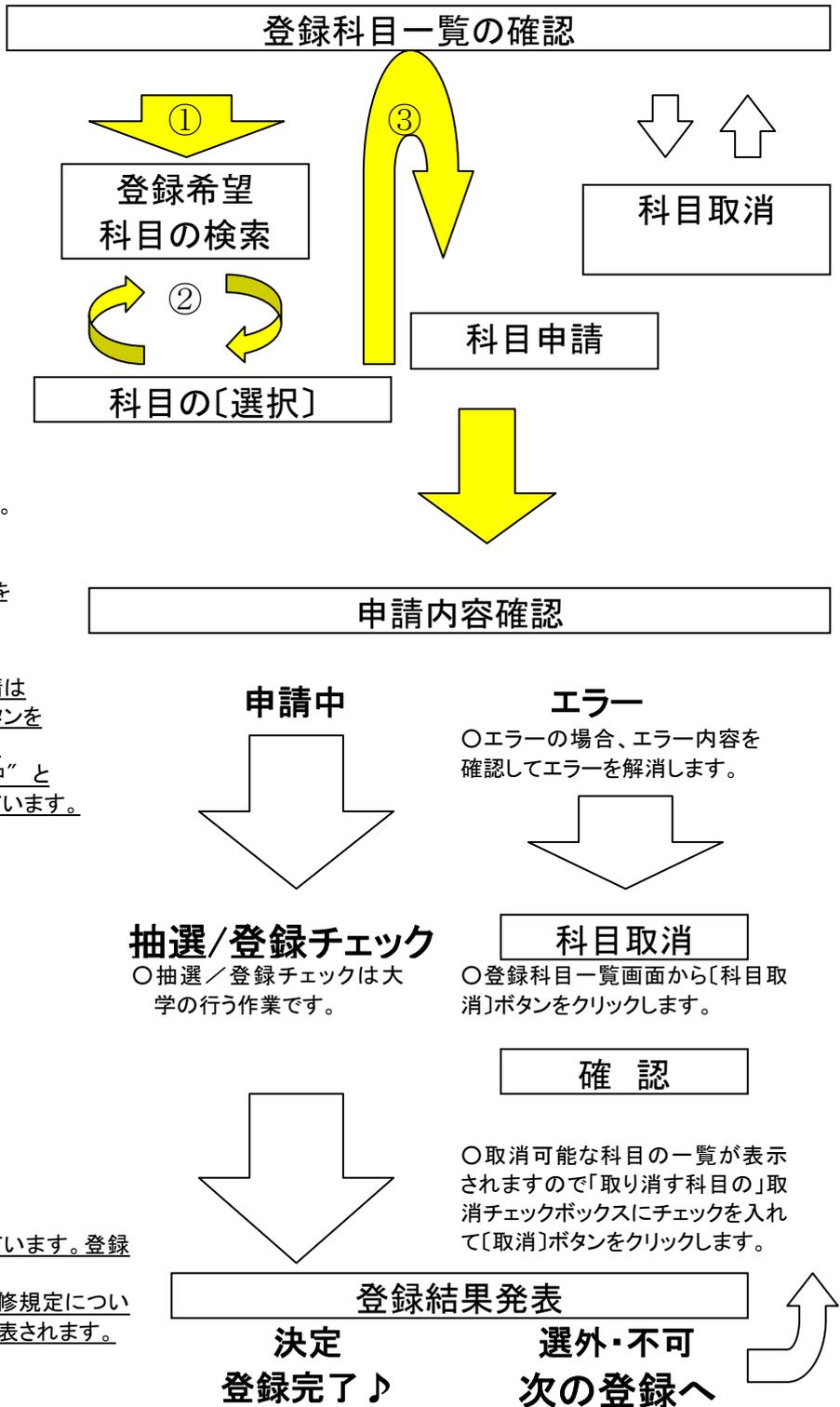
○登録済みの科目を確認します。

- ①科目検索
- [科目検索]ボタンをクリックすると科目検索画面が表示されます。
 - 科目開講箇所を選択し科目群、検索条件を指定して[科目検索]ボタンをクリックします。
 - 検索条件に合う履修の許可される科目が表示されます(それ以外の科目は非表示)。

- ②科目の[選択]
- 選択チェックボックスにチェックを入れます(次の科目を検索するか登録科目一覧に戻ると選択中となります)。※この作業を繰り返します。

- ③科目申請
- 選択中の科目を[科目申請]ボタンをクリックして申請します。
- 【重要】**
- 検索結果を選択しただけでは、申請は完了しません。必ず[科目申請]ボタンをクリックして、申請を行ってください。
 - 登録科目一覧の状態欄に“申請中”と表示されていれば、申請は完了しています。

- 申請中となった科目は申請が完了しています。登録結果発表で抽選結果を確認します。
- 申請時のチェックで判定を行わない履修規定については、その登録結果発表にて併せて発表されます。



2. Web 科目登録画面説明

Web 科目登録は、すべてこの画面（ログイン後、メニューから科目登録を選択した状態）から行います。

(1) 履修申請は[登録科目一覧](この画面)を中心に4つの画面で構成されます。登録科目一覧では現在の科目の状態を常に確認してください。

(2) 履修希望科目は[科目検索]ボタンにより科目検索画面で検索のうえ選択します。検索～選択の作業が終了したら登録科目一覧に戻り[科目申請]ボタンで申請を確定してください。

(3) 一部の科目は登録の取り消しが可能です。取消可能科目は[科目取消]ボタンで確認できます。

(4) 一部の科目は科目区分の変更が可能です。変更可能科目は[発表後算入変更]ボタンで確認できます。

(5) [閉じる]ボタンで作業を終了する前に[印刷]ボタンでこの画面を印刷して保管してください。

印刷 (4)

(1) 所属学部Web申請期間
 春学期1次登録 2013年3月30日 10:00～2013年4月2日 17:00 申請期間詳細情報

(3) 科目検索
 科目申請
 科目取消

発表後算入変更

登録科目一覧 備考に「×」マークのある科目は聴講料等の支払対象、[関連URL]ボタンは関連するWebサイトへのリンク、[入力有]ボタンは追加で登録する情報の申請画面へのリンクを表しています。科目名はクリックするとシラバス情報が表示されます。

登録科目数	28	通年	0	春学期	22	秋学期	6				
学期	曜日	開講時間	開講学部	備考	科目名	担当教員	キャンパス	教室名	科目区分	単位	状態/希望順位
春学期	月	3時限	政経		政治学基礎 03	谷藤 悦史	早稲田	15-202	専門・関連・政治	2	申請中
春学期	水	2時限	政経		ゲーム理論入門 03	船木 由喜彦	早稲田	15-401	基礎・入門:必修以外	2	申請中
春学期	金	4時限	政経		比較宗教学 a 01	鎌田 東二	早稲田	15-201	隣接・文化・歴史	2	申請中
春学期	土	3時限	政経		計量分析 01	松村 幸輝	早稲田	4-307(PC室)	専門・基礎:必修以外	2	申請中
春学期	月	1時限	政経		経済学入門A 03	長江 亮	早稲田	8-B101	基礎・入門:必修	2	決定
春学期	月	2時限	政経		解析学入門 01	西原 健二	早稲田	1-301	基礎・数学:必修	4	決定

(1) 申請期間表示

科目により申請締切日が異なります。科目群ごとの申請期間を確認してください。

(2) 登録科目一覧

現在の科目登録の状態を科目ごとに表示します。備考欄に「×」マークの表示される科目は聴講料等の納入が必要です(期限までに納入しない場合、申請科目の登録が取り消されます)。

(3) 各機能ボタン

〔科目検索〕〔科目申請〕〔科目取消〕の各機能ボタンが用意されています。

① 〔科目検索〕

〔科目検索〕ボタンを押すと「科目検索画面」に遷移します。「科目検索画面」では、申請しようとする科目の開講箇所を指定して〔確定〕ボタンを押し、科目群を選択します。検索条件には必ず1項目以上を入力します。〔科目検索〕ボタンを押すと申請可能な科目のリストを表示します(履修できない科目はあらかじめ検索対象から除かれます)。

② 〔科目申請〕

〔科目申請〕ボタンを押すと、選択中の科目の申請を確定するための確認画面が表示されます。

③ 〔科目取消〕

〔科目取消〕ボタンを押すと、科目取消を確定するための確認画面が表示されます。取り消すことができるのは、選択中、申請中の科目が対象です。

※学部によっては限られた期間内で登録決定科目を取り消すことができます。

(4) 印刷ボタン

使用中のPCがプリンターに接続している場合、このボタンを押すことで画面イメージを印刷することができます。申請科目の保管に利用してください。

3. Web 科目登録利用手順

1 成績照会・科目登録専用メニュー

<https://my.waseda.jp/>
上記のURLにアクセスし、
＜成績照会・科目登録専用＞を選択します。

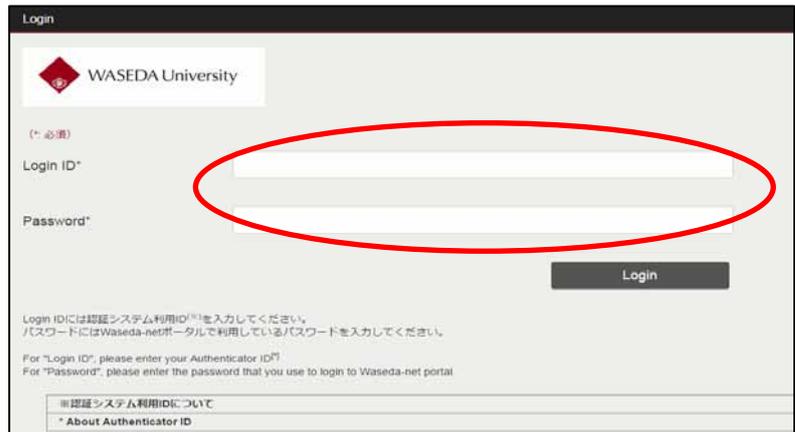
- 専用メニューは MyWaseda ログイン画面の左下にあります
- 科目登録期間中は専用メニューを利用してください。

成績照会・科目登録専用



2 ログイン

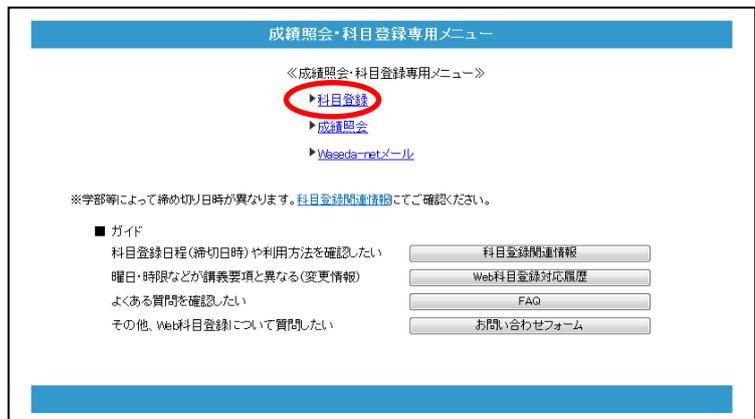
Waseda ID、パスワードを入力して
〔Login〕ボタンをクリックします。



3 成績照会・科目登録専用メニュー

ログインすると「成績照会・科目登録専用メニュー」が表示されます。
＜科目登録＞のリンクをクリックします。

○履修申請に関する問い合わせを行う場合には、「お問い合わせフォーム」ボタンをクリックし、必要事項を記入し送信してください。



4

登録科目一覧

科目登録をクリックすると「登録科目一覧画面」が表示されます。自動登録科目など、登録済科目の状態や時間割を確認します。

- 登録算入単位数で卒業単位に算入される登録済科目の合計単位数がわかります。制限単位数と比較しながら申請してください（登録算入単位数は、通年・春学期・秋学期の合計となります）。

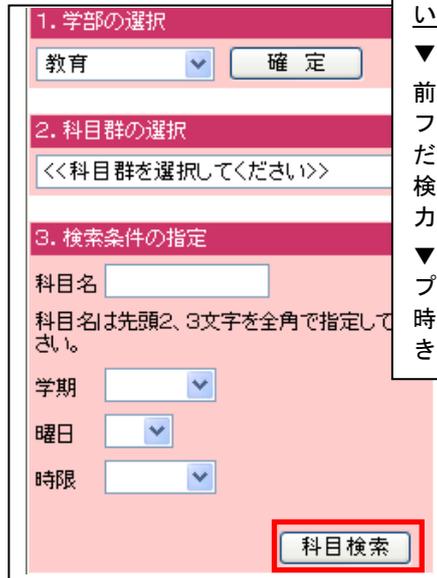


5

科目検索

登録希望科目を検索します。

- 学部を選択し〔確定〕ボタンを押します。
- 次に科目群の中から登録を希望する科目の科目群を選択します。
- 検索条件を1項目以上を入力して〔科目検索〕ボタンを押します。
- 希望の科目が見付からない場合は検索条件を再度確認し、検索条件を例えば学期のみにするなど極力減らして検索してください。



いろいろな検索方法

▼科目名

前方一致検索です。検索条件にアルファベットや数字は含めないでください。例えば「哲学演習ⅠA」を検索したい場合は「哲学演習」と入力します。

▼曜日・時限

プルダウンメニューで学期・曜日・時限を指定して検索することができます。

6

科目の選択

科目を選択するには、検索結果から科目名の左側にある選択チェックボックスにチェックを入れます。

複数の科目を同時に選択することができます。

選択チェックボックスにチェックが入っている状態で検索を終了して一覧へ戻るをクリックする次の科目を検索します。選択した科目は登録科目一覧で、[選択中]と表示されます。



7 科目申請

選択が終了すると一覧画面に戻り、選択した科目の状態は「選択中」となっています。
 「選択中」の科目は〔科目申請〕ボタンを押して申請を確定します。
 ○ 科目検索を繰り返して複数の科目を同時に申請することもできます。
 ○ 「選択中」の科目がある場合は、「[選択中]の科目があります。[科目申請]ボタンで科目を申請してください。」というメッセージが表示されます。



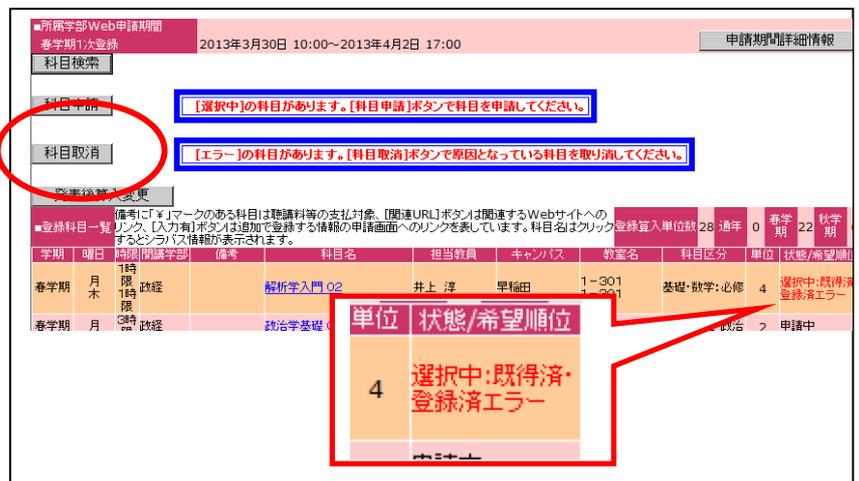
8 申請の確認

〔OK〕ボタンをクリックすると申請時登録チェックが行われ、科目の履修可否が判定されます。
 ○ エラーがない場合は状態が「選択中」から「申請中」に変わります。
 ○ エラーが発生するとエラーメッセージが表示されますので、エラーの原因となった科目を取り消して問題を解消し、あらためて〔科目申請〕ボタンを押してください。



9 科目取消

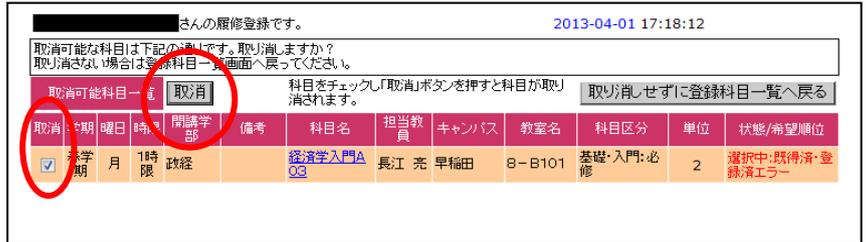
登録期間中は「申請中」「選択中」の科目を取り消すことができます。科目を取り消すには〔科目取消〕ボタンをクリックします。
 ※登録決定科目の取り消し
 一部の科目で登録決定科目の取り消しを限られた期間内に行うことが可能です。一度取り消すと登録データが消えてしまい、**再度登録決定に戻すことはできません**ので、十分注意してください。



10 取消の確認

取り消し可能な科目の一覧が表示されますので、取り消したい科目のチェックボックスにチェックを入れて「取消」ボタンを押してください。

- 取消ボタンを押すと確認のメッセージが表示されます。



11 登録一覧画面の印刷

もし利用中の PC にプリンターが接続されていたら、申請作業が終了した時点で登録科目一覧画面を印刷して保管してください。

- 科目の状態が「申請中」となっている科目が申請の確定した科目です。「選択中」の科目は画面を閉じると情報が破棄されてしまいますので「科目申請」ボタンで申請を確定してください。
- プリンターが接続されていない場合は、申請した科目の状態をメモに残して保管しましょう。



登録科目一覧画面上、科目の状態は、次のとおり遷移します。

状態	説明	状態	説明
選択中	科目検索－〔選択〕後の状態。このまま作業を終了すると選択は無効となります。取消可。	不可	〔選択〕〔申請〕後、履修上の問題があり申請が許可されなかった科目。(発表期間中の表示)
申請中	〔申請〕ボタンにより申請の許可された科目。取消可。	処理中	申請期間が終了し処理中の状態。取消不可。 (申請期間終了後、発表開始前までの表示)
決定	履修の決定した科目。取消不可。(発表開始後の表示)	選外	履修希望者が定員を超えていたため無作為抽選が行われ抽選に外れ、履修の許可されなかった科目。(発表期間中の表示)

※表示件数の制限について

条件を入力し、科目の検索を行う際に検索結果が 100 件より多い場合には、検索結果表示欄にエラーメッセージが表示されます。このメッセージが表示された場合は、曜日、時限、科目名の先頭の数字など、検索条件を追加してから、再度検索を行ってください。

いろいろな申請方法

希望順位登録：希望順位登録とは、抽選が行われる可能性が高い科目を同時に複数申請できる登録方法です。希望順位を選択できる科目群は、希望順位選択のプルダウンメニューが表示されます。希望順位を選択する場合は、必ず第 1 希望から順に選択してください。例えば、第 2 希望のみを選択した場合、抽選は第 1 希望者の後に行われますので、科目を登録できる可能性は極端に低くなります。

科目区分変更：検索結果一覧に表示される「科目区分」の欄がプルダウンメニューで選択可能になっている場合は、科目区分を変更して申請することができます。例えば登録制限単位数オーバーエラーになった科目を一度取り消し、科目区分を制限単位数に算入されない科目区分に変更してあらためて申請することにより、申請が受け付けられる場合があります。



● 他箇所設置科目を申請してみましょう。

学部を変更し[確定]ボタンをクリックします。次に科目群の中から登録を希望する科目の科目群を指定します。自学部の科目登録と同じ要領で科目を検索し、選択後、科目申請ボタンを押して申請します。



- 登録結果を確認しましょう。

各登録の発表日時になると、申請した科目の登録結果が発表されます。登録が認められた科目は「決定」、抽選の結果、登録できなかった科目については「選外」、登録エラーのため登録できなかった科目については「不可」がそれぞれ表示されます。

科目区分	単位	状態/希望順位
基礎・社会	4	申請中
基礎・社会	4	申請中
基礎・人文	2	選外
必修・英語 I	2	決定 英語 I (必修)~3/25/2

4. Web 科目登録上の注意事項

申請科目のチェック機能について

Web 科目登録では、科目申請時に以下のチェックが行われエラー情報を表示します。

[主な登録エラー]

エラー名称	エラー内容	解消方法
既登録エラー	既に登録されている科目を申請している	申請できないため科目取消する
希望順位重複エラー	希望順位を指定する場合に既に同一の希望順位で科目を申請している	同一希望順位の科目についていずれかを科目取消する
曜日時限重複エラー	既に申請・登録されている科目と曜日時限が重複する科目を申請している	いずれかの科目を取消する
前提条件エラー	履修の前提となる条件を満たしていない	申請できないため科目取消する
遠距離エラー	休み時間内で移動できないキャンパスの科目を申請している	いずれかの科目を取消する
制限単位数エラー	登録可能な単位数の上限を超えて申請している	いずれかの科目を取消するか、修正せずに申請を行う (※)

この他にも履修規則上のエラーがあります。内容がわからない場合は、「科目登録関連冊子」などを参照して問題を解決してください。

※制限単位数エラーは修正しなくても申請可能です。但し、エラーのまま申請を行った場合は、登録結果発表時に無作為に選ばれた科目がエラーとなるため注意してください。

5. その他の機能

- 関連ページへのリンク

科目検索画面の備考欄に「関連 URL」ボタンが表示される科目は、関連するホームページへのリンクが設定されています。必要な情報が記載されていますので、必ずクリックして確認ください。

備考	科目名
関連URL	EU/欧州統合研究入門

- 志望理由等の入力が必要な科目

科目検索画面の備考欄に「入力有」が表示される科目は、別画面から「申請フォーム」を呼び出し、志望理由などの内容を入力する必要がある科目です。

※申請フォームは 120 分間操作がないとセッションが切れ、再度呼び出す必要がありますのでご注意ください。

備考	科目名
入力有	EU/欧州統合研究入門

● 聴講料等が必要な科目

科目検索画面の備考欄に「¥(要聴講料等)」が表示される科目は、聴講料等が必要な科目です。

備考	科目名
¥(要聴講料等) 関連URL	General Tutorial English (初級) 37 (早稲田)

● Web シラバスの参照

科目選択画面で科目名をクリックすると、該当科目の Web シラバスを参照することが可能です。

科目名	担当教員
学際研究入門(現代福祉)	久塚 純一

6. エラー表示について

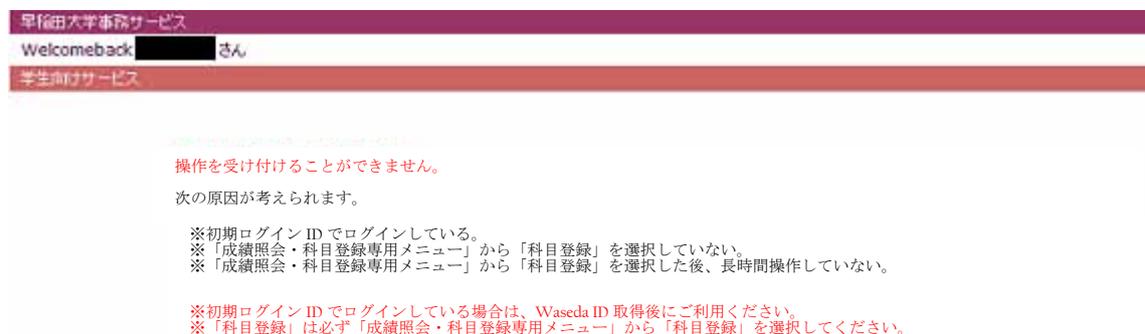
● サービスを提供することができない場合

以下のメッセージが表示された場合は、[お問い合わせフォーム]ボタンを押し、必要事項を記載の上、問い合わせを行ってください。



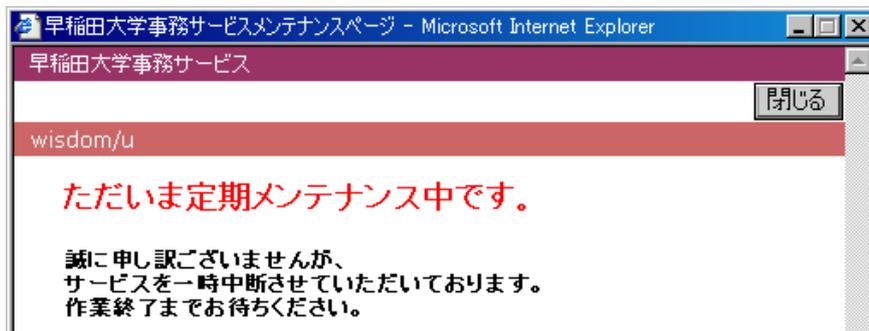
● 操作を受け付けることができない場合

全てのブラウザを閉じて、「成績照会・科目登録専用ログイン」からログインしてご利用ください。



● メンテナンス中の場合

Web 科目登録システムはシステム最適化作業のため、毎日、メンテナンス時間を設けています(2:00AM~8:00AM)。メンテナンス中の場合、以下のメッセージが表示されます。



● 同じボタンを続けて複数回押してしまった場合

[OK]ボタンを押して、処理が終了するまでお待ちください。

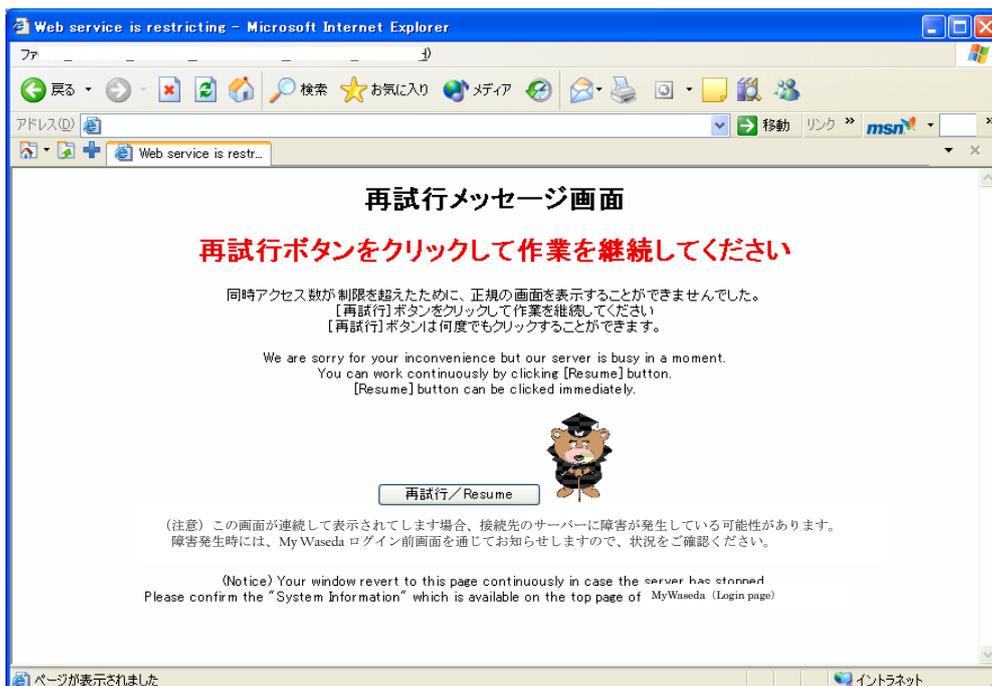


● アクセス過多が発生した場合

システム全体の負荷が制限を超えると「再試行メッセージ画面」が表示されます。

[再試行/Resume]ボタンをクリックすることにより制限画面から通常画面に戻ることができ、継続して作業が可能です。

※この状態でブラウザを閉じてしまった場合は、科目登録中に状態が「選択中」であった科目は一旦情報が消去されてしまいますので、再度、検索から作業する必要があります。



7. 推奨環境について

Web 科目登録の推奨環境は下記のウェブサイトをご確認ください。

http://www.waseda.jp/navi/services/system/sys_requirements.html

以上

III. 資格

本章に記載された科目情報は 2016 年 1 月末時点の情報で、変更の可能性があります。
変更が生じた場合には、社会科学部ホームページにてお知らせいたします。

1. 教員免許状

社会科学部に所属する学生が取得できる教員免許状は、**中学校 1 種：社会、高等学校 1 種：地理歴史・公民・商業・情報**の計 5 種類です。教員免許状を取得するためには、本学部を卒業し「学士（社会科学）」を取得することに加えて、以下の最低修得単位数を満たす必要があります。

◆ 免許状取得 最低修得単位数

免許状の種類	日本国憲法	体育(実技)	外国語コミュニケーション	情報機器の操作	①	②	③	①②③合計
					教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	
中学校教諭 1 種免許状	2	2	2	2	20	32	7	59
高等学校教諭 1 種免許状					20	26	13	59

※ ①②③の合計が **59 単位以上** になるように履修してください。①「教科に関する科目」と②「教職に関する科目」の最低修得単位数を超えて単位を修得した場合は、③「教科又は教職に関する科目」の単位として計算します。

◇ **日本国憲法** 本学部設置の「**憲法 I**」で充当できます。

◇ **体育(実技)** グローバルエデュケーションセンター設置の「**スポーツ実習**」を合計で **2 単位以上** 取得することで充当されます。

◇ **外国語コミュニケーション** 本学部必修科目の「**英語 1 - 2**」または「**英語 2 - 2**」で充当できます。

◇ 情報機器の操作

設置箇所	該当科目
社会科学部	社会科学のための基礎コンピュータ、社会科学のための応用コンピュータ I・II、コンピュータと社会工学 I・II、情報システム、マルチメディア、金融データ解析 1・2
GEC	マルチメディア入門(デジタルサウンド)、プログラミング初級(C/C++)、プログラミング初級(Java)、プログラミング初級(Visual Basic)、プログラミング初級(Ruby)、プログラミング中級(Java)、プログラミング中級(C/C++)、アルゴリズムとデータ構造α、アルゴリズムとデータ構造β、ソフトウェア開発技術α、ソフトウェア開発技術β、情報セキュリティ技術、情報表現の基礎α、情報表現の基礎β、情報表現の実践、プレゼンテーションスキル実践、Webコンテンツ作成技術と実践、プログラミング中級(Visual basic)、サーバサイド Web プログラム入門・中級、クライアントサイド Web プログラミング入門・中級、データベースα・β・γ、マルチメディア入門(画像処理とアニメーション)α・β、マルチメディア中級(画像処理とアニメーション)α・β、マルチメディア入門(映像)α・β、マルチメディア中級(映像)α・β、ミュージック・プログラミング、CG エンジニア入門

◇ 教科に関する科目

取得する免許状の教科によって履修方法が異なります。詳細は次頁以降を参照してください。

◇ 教職に関する科目

教職課程科目として教育学部に設置されている科目を履修してください。詳細は「教職課程履修の手引き」(教育学部発行)を参照してください。

◇ 教科又は教職に関する科目

「教科に関する科目」「教職に関する科目」の最低修得単位数を超えて修得した単位が加算されます。もしくは、教職課程科目として教育学部に設置されている科目を履修してください。詳細は「教職課程履修の手引き」(教育学部発行)を参照してください。

免許状の申請について

3 月卒業と同時に免許状所要資格を得る者については大学で一括して東京都教育委員会に免許状を申請し、卒業式当日に手渡しています。一括申請手続きについては、卒業年度の 5 月頃に発表されます。

1. 教員免許状

III. 資格

教科に関する科目（中学校 1種・社会）

文科省 科目分類	履修 方法	本学指定科目	配当 学年	本学指定科目	配当 学年	本学指定科目	配当 学年	本学指定科目	配当 学年
日本史 及び 外国史	全て必修	日本史概論 1	1~	日本史概論 2	1~	外国史概論 1	1~	外国史概論 2	1~
	選択	外国政治史 I	1~	商業史 2	2~	日本政治史 I	1~	歴史学（日中間係史） 2	1~
		外国政治史 II	1~	政治学 I	2~	日本政治史 II	1~	歴史学（日本史） 1	1~
		近代西洋社会思想史 I	1~	政治学 II	2~	比較経済史 1	1~	歴史学（日本史） 2	1~
		近代西洋社会思想史 II	1~	西洋経済史	1~	比較経済史 2	1~	歴史学（ヨーロッパ史） 1	1~
		経済学史 I	2~	Socio-Dynamics 1	1~	歴史学（アジア史） 1	1~	歴史学（ヨーロッパ史） 2	1~
		経済学史 II	2~	Socio-Dynamics 2	1~	歴史学（アジア史） 2	1~		
		経済思想史 I	1~	Social History 1	1~	歴史学（アラブ世界の歴史） 1	1~		
		経済思想史 II	1~	Social History 2	2~	歴史学（アラブ世界の歴史） 2	1~		
		商業史 1	2~	日本経済史	1~	歴史学（日中間係史） 1	1~		
地理学 (地誌を含む)	必修注1	人文地理学	1~	自然地理学 I	1~	地理 I ※	2~		
	1科目必修 選択	地誌	1~	自然地理学 II	1~	地理 II ※	2~		
		地誌 II ※	2~	地理 III ※	2~				
法律学 政治学	必修注2	公法入門（国家と法）	1~	政治学原論 I	2~	政治学入門	1~		
	選択	私法入門（市民と法）	1~	政治学原論 II	2~				
		医事法	1~	現代政治制度論（ドイツ）	2~	政策科学 1	1~	比較政治制度論 2	2~
		E U 地域研究 1	1~	現代政治制度論（フランス）	2~	政策科学 2	2~	比較法入門	2~
		E U 地域研究 2	1~	現代政治分析（アメリカ合衆国）	3~	政治過程論 1	3~	不動産法	3~
		環境法 1	3~	現代政治分析（イギリス）	3~	政治過程論 2	3~	平和学 I	1~
		環境法 2	3~	現代政治分析（イタリア）	3~	政治行動論 I	3~	平和学 II - 1（平和と戦争）	2~
		学校教育と憲法	3~	現代政治分析（スペイン）	3~	政治行動論 II	3~	平和学 II - 2（異国・格差・人権・環境と平和）	2~
		金融担保法	3~	現代政治分析（ドイツ）	3~	政治分析	3~	平和構築論	3~
		行政学 I	2~	現代地方自治論	1~	政治分析の基礎	1~	法社会学 I	3~
		行政学 II	2~	国際 NGO 協力論	3~	生命倫理と法 1	3~	法社会学 II	3~
		行政救済法 1（行政訴訟）	2~	国際開発制度論	3~	生命倫理と法 2	3~	法制文明論 1	3~
		行政救済法 2（国家補償）	2~	国際関係論	1~	選挙制度論	1~	法制文明論 2	3~
		行政法総論 I	2~	国際関係論入門	1~	戦後重大犯罪と刑事法	1~	民法概論	1~
		行政法総論 II	2~	国際経済法 1	1~	税法	3~	民法 1（総則）	2~
		刑事政策	3~	国際経済法 2	3~	損害賠償法	3~	民法 2（物権）	2~
		刑法各論 1	2~	国際政治理論	3~	太平洋地域海洋国家研究	3~	民法 3（債権総論）	2~
		刑法各論 2	3~	国際法 1	1~	第三世界論	3~	民法 4（債権各論）	2~
		刑法総論	1~	国際法 2	3~	地域自治論 1	2~	民法 5（親族）	2~
		憲法 I	1~	国会論	3~	地域自治論 2	2~	民法 6（相続）	2~
憲法 II	2~	個別的労働法 I	2~	知的財産権法（著作権法）	3~	立法過程論	3~		
現代市民権理論	3~	個別的労働法 II	2~	知的財産権法（特許法、商標法、不正競争防止法）	3~	労働市場法	2~		
現代政治制度論（アメリカ合衆国）	2~	社会保障法 I	2~	都市法	3~	Contemporary Political Analysis (Japan)	3~		
現代政治制度論（イギリス）	2~	社会保障法 II	3~	比較議会論	3~				
現代政治制度論（イタリア）	2~	集団的労働法	3~	比較政治学	3~				
現代政治制度論（スペイン）	2~	情報政治論	3~	比較政治制度論 1	2~				
社会学 経済学	必修注3	社会学入門	1~	経済学入門 1（マクロ経済学）	1~	マクロ経済学	2~		
	選択	社会学原論	1~	経済学入門 2（ミクロ経済学）	1~	ミクロ経済学 I	2~		
		移行経済論 I	2~	現代家族論 1	1~	社会科学の基礎	1~	世界人口移動論 1	1~
		移行経済論 II	2~	現代家族論 2	1~	社会科学方法論	1~	世界人口移動論 2	1~
		応用マクロ経済学	3~	現代社会学の方法	2~	社会学の思想と理論	2~	知識社会学	2~
		環境社会学 1	1~	ゲーム理論の基礎	1~	社会調査の基礎	1~	統計解析の基礎	1~
		環境社会学 2	1~	公共経済論 I	2~	社会調査法 1	1~	日常生活の社会学	1~
		環境の産業連関分析	3~	公共経済論 II	2~	社会調査法 2	2~	日本の労働経済	3~
		金融経済論 I	2~	公共事業論	2~	社会統計の読み方	1~	比較社会思想 I	1~
		金融経済論 II	2~	公共選択論 I	2~	社会問題の社会学 1	1~	比較社会思想 II	1~
		経済社会学 I	1~	公共選択論 II	2~	社会問題の社会学 2	1~	法と経済学	3~
		経済社会学 II	2~	国際金融論 I	3~	食料と農業の経済学 I	2~	ポピュラー・カルチャーの社会科学	1~
		経済数学 1	1~	国際金融論 II	3~	食料と農業の経済学 II	2~	ミクロ経済学 II	2~
		経済数学 2	1~	産業構造論	2~	ジェンダー論 I	1~	ラテンアメリカ研究 1	3~
		経済動学 I	2~	社会意識論	1~	ジェンダー論 II	2~	ラテンアメリカ研究 2	3~
		経済動学 II	2~	社会科学原論（秋学期）	1~	実証経済学	2~	労働経済の理論	2~
		計量経済学 I	2~	社会科学原論（春学期）	1~	制度設計の経済学 I	3~	労働問題 1	1~
		計量経済学 II	2~	社会科学入門	1~	制度設計の経済学 II	3~	労働問題 2	1~
		哲学 倫理学 宗教学	必修注4	倫理学 1	1~	倫理学 2	1~	哲学総論	1~
選択	東洋哲学 1		1~	中国哲学 1	1~	西洋哲学	1~		
	東洋哲学 2		1~	中国哲学 2	1~				

※ 教育学部設置科目

(注1) 「地理学」は、①～②の履修方法のいずれかを選択必修。

- ① 人文地理学と自然地理学 I・II を選択する場合は、3科目とも履修。
- ② 地理 I・II を選択する場合は、2科目とも履修。

(注3) 「社会学、経済学」は①～④の履修方法のいずれかを選択必修。

- ① 社会学入門を選択する場合は、1科目履修で可。
- ② 経済学入門を選択する場合は、1・2両方とも履修。
- ③ 社会学原論を選択する場合は、1科目履修で可。
- ④ マクロ経済学とミクロ経済学 I を選択する場合は、2科目とも履修。

(注2) 「法律学、政治学」は①～③の履修方法のいずれかを選択必修。

- ① 公法入門と私法入門を選択する場合は、2科目とも履修。
- ② 政治学入門を選択する場合は、1科目履修で可。
- ③ 政治学原論 I・II を選択する場合は、2科目とも履修。

(注4) 「哲学、倫理学、宗教学」は①～②の履修方法のいずれかを選択必修。

- ① 哲学総論を選択する場合は、1科目履修で可。
- ② 倫理学を選択する場合は、1・2両方とも履修。

教科に関する科目（高等学校 1 種・地理歴史）

文科省 科目分類	履修 方法	本学指定科目	配当 学年	本学指定科目	配当 学年	本学指定科目	配当 学年
日本史	全て必修	日本史概論 1	1～	日本史概論 2	1～		
	選択	Socio-Dynamics 1	1～	歴史学（日中関係史） 1	1～		
		日本経済史	1～	歴史学（日中関係史） 2	1～		
		日本政治史 I	1～	歴史学（日本史） 1	1～		
		日本政治史 II	1～	歴史学（日本史） 2	1～		
外国史	全て必修	外国史概論 1	1～	外国史概論 2	1～		
	選択	外国政治史 I	1～	商業史 1	2～	比較経済史 1	1～
		外国政治史 II	1～	商業史 2	2～	比較経済史 2	1～
		近代西洋社会思想史 I	1～	政治学史 I	2～	歴史学（アジア史） 1	1～
		近代西洋社会思想史 II	1～	政治学史 II	2～	歴史学（アジア史） 2	1～
		経済学史 I	2～	西洋経済史	1～	歴史学（アラブ世界の歴史） 1	1～
		経済学史 II	2～	Socio-Dynamics 2	1～	歴史学（アラブ世界の歴史） 2	1～
		経済思想史 I	1～	Social History 1	1～	歴史学（ヨーロッパ史） 1	1～
		経済思想史 II	1～	Social History 2	2～	歴史学（ヨーロッパ史） 2	1～
		人文地理学 及び 自然地理学	必修 注1	人文地理学	1～	地理 I ※	2～
		自然地理学 I	1～	地理 II ※	2～		
		自然地理学 II	1～	地理 III ※	2～		
地誌	必修 注2	地誌	1～	地誌 I ※	2～		
				地誌 II ※	2～		

※ 教育学部設置科目

(注1) 「人文地理学及び自然地理学」は、次の2通りの履修方法の内、いずれかを選択必修してください。

- ① 人文地理学と自然地理学 I・II を選択する場合は、3科目とも履修しなければなりません。
- ② 地理 I・地理 II・地理 III を選択する場合は、3科目とも履修しなければなりません。

(注2) 「地誌」は、次の2通りの履修方法の内、いずれかを選択必修してください。

- ① 地誌を選択する場合は、1科目履修で可。
- ② 地誌 I と地誌 II を選択する場合は、両方とも履修しなければなりません。

教科に関する科目（高等学校 1種・公民）

文科省 科目分類	履修 方法	本学指定科目	配当 学年	本学指定科目	配当 学年	本学指定科目	配当 学年		
法律学 (国際法を含む) 政治学 (国際政治を含む)	必修注1	公法入門(国家と法)	1~	政治学原論 I	2~	政治学入門	1~		
		私法入門(市民と法)	1~	政治学原論 II	2~				
		医事法	1~	現代地方自治論	1~	太平洋地域海洋国家研究	3~		
		E U地域研究 1	1~	国際NGO協力論	3~	第三世界論	3~		
		E U地域研究 2	1~	国際開発制度論	3~	地域自治論 1	2~		
		環境法 1	3~	国際関係論	1~	地域自治論 2	2~		
		環境法 2	3~	国際関係論入門	1~	知的財産権法(著作権法)	3~		
		学校教育と憲法	3~	国際経済法 1	1~	知的財産権法(特許法、商標法、不正競争防止法)	3~		
		金融担保法	3~	国際経済法 2	3~	都市法	3~		
		行政学 I	2~	国際政治理論	3~	比較議会論	3~		
	選択	行政学 II	2~	国際法 1	1~	比較政治学	3~		
		行政救済法 1(行政訴訟)	2~	国際法 2	3~	比較政治制度論 1	2~		
		行政救済法 2(国家補償)	2~	国会論	3~	比較政治制度論 2	2~		
		行政法総論 I	2~	個別的労働法 I	2~	比較法入門	2~		
		行政法総論 II	2~	個別的労働法 II	2~	不動産法	3~		
		刑事政策	3~	社会保障法 I	3~	平和学 I	1~		
		刑法各論 1	2~	社会保障法 II	3~	平和学 II-1(平和と戦争)	2~		
		刑法各論 2	3~	集団的労働法	3~	平和学 II-2(貧困・格差・人権・環境と平和)	2~		
		刑法総論	1~	情報政治論	3~	平和構築論	3~		
		憲法 I	1~	政策科学 1	1~	法社会学 I	3~		
		憲法 II	2~	政策科学 2	2~	法社会学 II	3~		
		現代市民権理論	3~	政治過程論 1	3~	法制文明論 1	3~		
		現代政治制度論(アメリカ合衆国)	2~	政治過程論 2	3~	法制文明論 2	3~		
		現代政治制度論(イギリス)	2~	政治行動論 I	3~	民法概論	1~		
		現代政治制度論(イタリア)	2~	政治行動論 II	3~	民法 1(総則)	2~		
		現代政治制度論(スペイン)	2~	政治分析	1~	民法 2(物権)	2~		
		現代政治制度論(ドイツ)	2~	政治分析の基礎	1~	民法 3(債権総論)	2~		
		現代政治制度論(フランス)	2~	生命倫理と法 1	3~	民法 4(債権各論)	2~		
		現代政治分析(アメリカ合衆国)	3~	生命倫理と法 2	3~	民法 5(親族)	2~		
		現代政治分析(イギリス)	3~	選挙制度論	1~	民法 6(相続)	2~		
		現代政治分析(イタリア)	3~	戦後重大犯罪と刑事法	1~	立法過程論	3~		
		現代政治分析(スペイン)	3~	税法	3~	労働市場法	2~		
		現代政治分析(ドイツ)	3~	損害賠償法	3~	Contemporary Political Analysis (Japan)	3~		
		社会学 経済学 (国際経済を含む)	必修注2	社会学入門	1~	経済学入門 1(マクロ経済学)	1~	マクロ経済学	2~
				社会学原論	1~	経済学入門 2(ミクロ経済学)	1~	ミクロ経済学 I	2~
			選択	移行経済論 I	2~	公共事業論	2~	ジェンダー論 II	2~
				移行経済論 II	2~	公共選択論 I	2~	実証経済学	2~
				応用マクロ経済学	3~	公共選択論 II	2~	制度設計の経済学 I	3~
				環境社会学 1	1~	国際金融論 I	3~	制度設計の経済学 II	3~
				環境社会学 2	1~	国際金融論 II	3~	世界人口移動論 1	1~
				環境の産業連関分析	3~	産業構造論	2~	世界人口移動論 2	1~
				金融経済論 I	2~	社会意識論	1~	知識社会学	2~
				金融経済論 II	2~	社会科学原論(秋学期)	1~	統計解析の基礎	1~
経済社会学 I	1~			社会科学原論(春学期)	1~	日常生活の社会学	1~		
経済社会学 II	2~			社会科学入門	1~	日本の労働経済	3~		
経済数学 1	1~			社会科学の基礎	1~	比較社会思想 I	1~		
経済数学 2	1~			社会科学方法論	1~	比較社会思想 II	1~		
経済動学 I	2~			社会学の思想と理論	2~	法と経済学	3~		
経済動学 II	2~			社会調査の基礎	1~	ホビュラー・カルチャーの社会科学	1~		
計量経済学 I	2~			社会調査法 1	1~	ミクロ経済学 II	2~		
計量経済学 II	2~			社会調査法 2	1~	ラテンアメリカ研究 1	3~		
現代家族論 1	1~			社会統計の読み方	1~	ラテンアメリカ研究 2	3~		
現代家族論 2	1~			社会問題の社会学 1	1~	労働経済の理論	2~		
現代社会学の方法	2~			社会問題の社会学 2	1~	労働問題 1	1~		
ゲーム理論の基礎	1~			食料と農業の経済学 I	2~	労働問題 2	1~		
公共経済論 I	2~			食料と農業の経済学 II	2~				
公共経済論 II	2~	ジェンダー論 I	1~						
哲学 倫理学 宗教学 心理学	必修注3	倫理学 1	1~	哲学総論	1~	心理学概論	1~		
		倫理学 2	1~						
	選択	西洋哲学	1~	中国哲学 1	1~	臨床心理学 I	2~		
		東洋哲学 1	1~	中国哲学 2	1~	臨床心理学 II	2~		
		東洋哲学 2	1~			臨床哲学	2~		

(注1)「法律学、政治学」は①～③の履修方法のいずれかを選択必修。

- ① 公法入門と私法入門を選択する場合は、2科目とも履修。
- ② 政治学入門を選択する場合は、1科目履修で可。
- ③ 政治学原論 I・II を選択する場合は、2科目とも履修。

(注2)「社会学、経済学」は①～④の履修方法のいずれかを選択必修。

- ① 社会学入門を選択する場合は、1科目履修で可。
- ② 経済学入門を選択する場合は、1・2両方とも履修。
- ③ 社会学原論を選択する場合は、1科目履修で可。
- ④ マクロ経済学とミクロ経済学 I を選択する場合は、2科目とも履修。

(注3)「哲学、倫理学、宗教学、心理学」は①～③の履修方法のいずれかを選択必修。

- ① 哲学総論を選択する場合は、1科目履修で可。
- ② 倫理学を選択する場合は、1・2両方とも履修。
- ③ 心理学概論を選択する場合は、1科目履修で可。

III. 資格

1. 教員免許状

教科に関する科目（高等学校 1 種・商業）

文部省 科目分類	履修 方法	本学指定科目	配当 学年	本学指定科目	配当 学年	本学指定科目	配当 学年		
商業の 関係科目	選択	会計監査論	3～	経営学	2～	証券論	2～		
		会計学	2～	経営学入門	1～	人的資源管理論 I	3～		
		会計学入門	1～	経営戦略 1	3～	人的資源管理論 II	3～		
		会社法 1〔会社のガバナンス〕	1～	経営戦略 2	3～	生産システム論	3～		
		会社法 2〔会社のファイナンス〕	1～	経営組織論	3～	中小企業論 I	2～		
		会社法 3〔組織再編・M&A〕	3～	経営のための経済学	1～	中小企業論 II	2～		
		会社法総則	1～	原価計算	3～	資金論 I	3～		
		外部報告会計論	3～	国際経営論 1	2～	資金論 II	3～		
		管理会計	3～	国際経営論 2	2～	ビジネス・イングリッシュ I	2～		
		企業財務論	3～	国際貿易論 1	2～	ビジネス・イングリッシュ II	2～		
		金融商品取引法 1	3～	国際貿易論 2	2～	簿記	1～		
		金融商品取引法 2	3～	産業社会学 I	2～	マーケティング入門	1～		
		グローバル・サプライチェーン・マネジメント	2～	産業社会学 II	2～	リスクマネジメントと保険 I	3～		
		経営科学 1	2～	産業心理学 I	2～	リスクマネジメントと保険 II	3～		
		経営科学 2	3～	産業心理学 II	2～	流通論 I	3～		
		経営管理論	3～	産業組織論	3～	流通論 II	3～		
		職業指導	すべて必修	職業指導 1	3～				
				職業指導 2	3～				

教科に関する科目（高等学校 1 種・情報）

文部省 科目分類	履修 方法	本学指定科目	配当 学年	本学指定科目	配当 学年
情報社会及び 情報倫理	必修	法情報学 1〔インターネットと法〕	3～		
	選択	法情報学 2〔メディアと法〕	3～		
コンピュータ 及び 情報処理 (実習を含む)	必修注 1	コンピュータと社会学 I	1～	社会科学のための基礎コンピュータ	1～
		コンピュータと社会学 II	1～		
	選択	金融データ解析 1	3～	情報表現の実践 ※	1～
		金融データ解析 2	3～	プレゼンテーションスキル実践 ※	1～
		社会科学のための応用コンピュータ I	3～	Webコンテンツ作成技術と実践 ※	1～
		社会科学のための応用コンピュータ II	3～	コンピュータによる統計解析 (Excel) ※	1～
		地理情報システム論 I	1～	コンピュータによる統計解析 (Mathematica) ※	1～
		地理情報システム論 II	1～	コンピュータによる統計解析 (R) ※	1～
		情報表現の基礎α ※	1～	コンピュータによる統計解析 (SPSS) ※	1～
		情報表現の基礎β ※	1～		
情報システム (実習を含む)	必修	情報システム	3～		
選択	情報科学論 I	1～	情報科学論 II	3～	
情報通信ネットワーク (実習を含む)	全て必修	ネットワーク技術初級 ※	1～	ネットワーク技術準中級 ※	1～
	選択	情報セキュリティ技術 ※	1～		
マルチメディア 表現及び技術 (実習を含む)	必修	マルチメディア	3～		
	選択	メディア論 1	1～	メディア論 3	1～
		メディア論 2	1～	メディア論 4	1～
情報と職業	いずれか 1 科目必修	情報化社会とワーキングスタイル	1～	キャリアと情報 (情報マネジメントの実際) ※	1～

※ グローバルエデュケーションセンター設置科目

(注1)「コンピュータ及び情報処理(実習を含む)」は①～②の履修方法の内、いずれかを選択必修してください。

- ①社会科学のための基礎コンピュータを選択する場合は、1科目履修で可。
- ②コンピュータと社会学を選択する場合は、I・II 両方とも履修。

※ 「社会科学のための基礎コンピュータ」「コンピュータと社会学I・II」「情報システム」「マルチメディア」は情報免許の必修科目となっていることから、情報免許を希望する学生を優先的に登録します(要申請)。希望する場合は、毎年科目登録の前に、社会科学部事務所で「情報科免許状取得のための実習科目登録願」(社会科学部事務所に配付)を提出してください。

2. その他の資格

社会調査士

資格の概要、取得要件については、社会調査協会ホームページ (<http://jasr.or.jp/>) を参照してください。
社会調査士資格は、卒業までに社会科学部で以下科目の単位を修得することによって取得要件を満たします。

◆社会調査士該当科目（2016年度）

「社会調査士」 標準カリキュラム	社会科学部設置の 該当科目	担当教員	学期	曜日 時限	単位 数	配当 学年	科目区分
A 社会調査の基本的事項 に関する科目	社会調査の基礎 A	開沼 泰隆	春学期	水 1	2	1年～	コア共通
	社会調査の基礎 B	成富 正信	秋学期	金 2	2	1年～	コア共通
B 調査設計と実施方法に 関する科目	社会調査法 1	開沼 泰隆	春学期	水 2	2	1年～	基盤専門
C 基本的な資料とデータの 分析に関する科目	社会統計の読み方	久木元 真吾	秋学期	火 2	2	1年～	基盤専門
D 社会調査に必要な統計 学に関する科目	統計解析の基礎 A	鷺津 明由	春学期	火 2	2	1年～	コア共通
	統計解析の基礎 B	得田 雅章	秋学期	金 2	2	1年～	コア共通
E 多変量解析の方法に関 する科目	社会科学のための数学	葛山 康典	春学期	火 3 水 3	4	1年～	基盤専門
F 質的な調査と分析の手 法に関する科目	社会調査法 2	周藤 真也	春学期	金 2	2	1年～	基盤専門
G 社会調査を実際に経験 し学習する科目	ソーシャル・リサーチ（まちづくり） I	隔年休講			2	2年～	先進専門
	ソーシャル・リサーチ（まちづくり） II	隔年休講			2	2年～	先進専門
	ソーシャル・リサーチ（歴史と記憶） I	隔年休講			2	2年～	先進専門
	ソーシャル・リサーチ（歴史と記憶） II	隔年休講			2	2年～	先進専門
	ソーシャル・リサーチ（社会統合） I	篠田 徹	春夏期	金 4	2	2年～	先進専門
	ソーシャル・リサーチ（社会統合） II	篠田 徹	秋学期	金 4	2	2年～	先進専門
	ソーシャル・リサーチ（地域福祉） I	成富 正信	春夏期	金 4	2	2年～	先進専門
	ソーシャル・リサーチ（地域福祉） II	成富 正信	秋学期	金 4	2	2年～	先進専門
	紛争解決論実習 1	山田 満	夏季集中	その他	2	3年～	先進専門
	紛争解決論実習 2	隔年休講			2	3年～	先進専門

※ E科目、F科目はいずれか一方で資格要件として認められます。

※ G科目は、「ソーシャル・リサーチ」または「紛争解決論実習」の各科目のいずれかで資格要件として認められます。「ソーシャル・リサーチ」は同一年度にⅠ・Ⅱをセットで履修する必要があります。

※ G科目の履修にあたっては、実習費が必要になります。また、実習費以外に、現地調査にかかわる費用（交通費、宿泊費など）が自己負担になる場合があります。

※ 「社会調査法 2」、「ソーシャル・リサーチ」および「紛争解決論実習」の各科目は、隔年開講です。

※ 時間割は変更する場合がありますので、科目登録の時期に各自 Web シラバスを確認してください。

※ 社会科学部設置科目以外に、「社会調査士」の科目認定を受けている他箇所（文学部、人間科学部）の科目を履修しても資格要件として認められます。ただし「オープン科目」ではないため、聴講できる保障はありません（実習を伴うG科目については、他学部生の聴講が許可されることは通常はありません）。また、他大学等（例えば放送大学）で認定科目の一部を履修して資格申請することもできます。

その他の資格

以下の資格取得については、「教職課程履修の手引き」（教育学部発行）を参照してください。

- ・ 社会福祉主事
- ・ 博物館学芸員
- ・ 社会教育主事
- ・ 図書館司書
- ・ 学校図書館司書教諭

IV. 学科目配当表

◆時間割について

本冊子に掲載されている時間割は、2016年1月末時点での情報で、変更の可能性があります。変更が生じた場合には、社会科学部ホームページにてお知らせいたします。

◆Web シラバス

早稲田大学の全科目の講義内容については、Web シラバスで確認ができます。
(早稲田大学ホームページ TOP → (右上) データ集 → シラバス検索)

URL: www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php

IV. 学科目配当表

学科目配当表

コア科目 - 共通入門群

配当 年次	単 位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限
1年～	2	社会科学の基礎	A	吉田 敬	春	火 2
			B	吉田 敬	秋	火 2
		社会調査の基礎	A	開沼 泰隆	春	水 1
			B	成富 正信	秋	金 2
			C	休講		
		統計解析の基礎	A	鷲津 明由	春	火 2
			B	得田 雅章	秋	金 2
	C	休講				
	ゲーム理論の基礎	A	戸田 学	春	木 1	
		B	戸田 学	秋	木 1	
	政治分析の基礎	A	今村 浩	春	水 2	
		B	今村 浩	春	水 3	
	C	休講				
	4	社会科学のための基礎コンピュータ	A	阿部 圭司	春	金 1 金 2
B			開沼 泰隆	秋	水 1 水 2	
C			河路 武志	春	火 1 火 2	
D			今泉 淳	秋	月 1 月 2	
E			吉田 隆弘	秋	木 1 木 2	
F			休講			

コア科目 - 専門入門群

配当 年次	単 位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限	
1年～	2	マーケティング入門	A	野口 智雄	春	土 2	
			B	野口 智雄	秋	土 2	
			C	休講			
		社会科学入門	A	ヤン マニエル	春	水 2	
			B	ヤン マニエル	春	金 2	
			C	休講			
		社会学入門	A	成富 正信	春	金 1	
			B	周藤 真也	秋	金 1	
			C	隔年休講			
		社会デザイン論入門	A	卯月 盛夫、 早田 幸、 坪郷 實、 輪湖 博、 赤尾 健一、 佐藤 洋一、 篠田 徹、 土方 正夫	春	火 1	
					春	木 1	
					春	木 1	
					春	木 1	
					春	木 1	
			C	休講			
			政治学入門	A	厚見 恵一郎、 池谷 知明、 稲生 信男	春	木 2
						秋	木 2
				B	厚見 恵一郎、 池谷 知明、 稲生 信男	秋	木 2
						秋	木 2
		C		休講			
		国際関係論入門	A	奥迫 元、 多賀 秀敏、 山田 満	春	フル OD	
					秋	フル OD	
			B	休講			
			C	休講			
		公法入門（国家と法）	A	後藤 光男	春	金 2	
					春	火 1	
			B	黒川 哲志 ※	春	火 1	
			C	休講			
		私法入門（市民と法）	A	大西 泰博	春	月 2	
					春	木 2	
			B	吉田 和夫	春	木 2	
					秋	水 2	
		C	休講				
		経済学入門 1（マクロ経済学）	A	及川 浩希	秋	木 2	
					秋	月 2	
			B	鷲津 明由	秋	月 2	
		C	休講				
		経済学入門 2（ミクロ経済学）	A	北村 能寛	春	火 1	
					春	月 2	
			B	鷲津 明由	春	月 2	
		C	休講				
		経営学入門	A	篠崎 香織	春	火 1	
					秋	火 1	
			B	篠崎 香織	秋	火 1	
		C	休講				
		会計学入門	A	福島 隆	春	火 1	
					秋	金 1	

※隔年開講科目

学科目配当表

IV. 学科目配当表

基盤専門科目 - 社会科学総合分野

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日	時限
1年~	2	文化人類学 1	-	隔年休講			
		文化人類学 2	-	畑 恵子 ※	春	月	4
		環境社会論 1	-	坪郷 實	春	火	3
		環境社会論 2	-	坪郷 實	秋	火	3
		E U地域研究 1	-	坪郷 實	春	火	4
		E U地域研究 2	-	坪郷 實	秋	火	4
		Socio-Dynamics 1	-	ヤン マニエル	秋	水	4
		Socio-Dynamics 2	-	ヤン マニエル	秋	金	4
		メディア論 1	-	隔年休講			
		メディア論 2	-	隔年休講			
		ポピュラー・カルチャーの社会科学	-	篠田 徹	春	金	2
		障害者福祉論	-	休講			
		メディア論 3	-	木村 智哉 ※	春	月	3
		メディア論 4	-	木村 智哉 ※	秋	月	3
		バイオエシックス	-	横野 恵	秋	水	2
		社会調査法 2	-	周藤 真也 ※	春	金	2
		近代西洋社会思想史 I	-	古賀 勝次郎 ※	春	火	4
		近代西洋社会思想史 II	-	古賀 勝次郎 ※	秋	火	4
		比較社会思想 I	-	隔年休講			
		比較社会思想 II	-	隔年休講			
		Social History 1	-	ヤン マニエル	春	水	3
		経済社会学 I	-	休講			
		政策科学 1	-	上沼 正明	春	水	4
		ジェンダー論 I	-	大森 眞紀	春	金	4
		労働問題 1	-	大森 眞紀	春	火	4
		労働問題 2	-	大森 眞紀	秋	火	4
		比較福祉論 1	-	久塚 純一	春	火	4
		比較福祉論 2	-	久塚 純一	秋	火	4
		世界人口移動論 1	-	佐藤 龍三郎	春	水	4
		世界人口移動論 2	-	小島 宏	秋	水	2
		現代家族論 1	-	白井 千晶	春	水	1
		現代家族論 2	-	小島 宏	秋	火	3
		社会学原論	-	周藤 真也 ※	春	水	3
		日常生活の社会学	-	隔年休講			
		社会意識論	-	隔年休講			
		社会問題の社会学 1	-	隔年休講			
		社会問題の社会学 2	-	成富 正信 ※	春	金	2
		社会調査法 1	-	開沼 泰隆	春	水	2
		社会統計の読み方	-	久木元 真吾	秋	火	2
		問題の発見と探求の技法	-	上沼 正明	春	火	3
		社会科学原論 (春学期)	A	休講			
			B	休講			
		社会科学原論 (秋学期)	A	休講			
			B	休講			
		比較経済史 1	-	君塚 弘恭	春	火	3
		比較経済史 2	-	君塚 弘恭	秋	火	3
		社会科学方法論	A	吉田 敬	春	水	4
			B	吉田 敬	秋	水	4

基盤専門科目 - 政治学分野

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日	時限		
1年~	2	現代地方自治論	A	休講					
			B	休講					
		選挙制度論	-	今村 浩	秋	木	2		
		政治分析	A	浅野 正彦	春	火	4		
			B	休講					
		日本政治史 I	-	大西 比呂志	春	金	3		
		日本政治史 II	-	大西 比呂志	秋	金	3		
		外国政治史 I	-	休講					
		外国政治史 II	-	休講					
		国際関係論	-	奥迫 元	秋	火	2		
		平和学 I	-	多賀 秀敏	春	火	OD		
		2年~	2	現代政治制度論 (イタリア)	-	池谷 知明	秋	水	3
				現代政治制度論 (ドイツ)	-	高見 仁	秋	土	3
				現代政治制度論 (イギリス)	-	秋本 富雄	春	木	4
				現代政治制度論 (フランス)	-	休講			
現代政治制度論 (アメリカ合衆国)	-			今村 浩	春	月	5		
政治学原論 I	-			今村 浩	春	月	4		
政治学原論 II	-			今村 浩	秋	金	4		
政治学史 I	-			厚見 恵一郎	春	水	4		
政治学史 II	-			厚見 恵一郎	秋	水	4		
行政学 I	-			稲生 信男	春	月	3		
比較政治制度論 1	-			池谷 知明	春	火	4		
比較政治制度論 2	-			池谷 知明	秋	火	4		
現代政治制度論 (スペイン)	-			野上 和裕	春	金	5		
地域自治論 1	-			稲生 信男	春	金	3		
地域自治論 2	-			稲生 信男	秋	金	3		

基盤専門科目 - 法学分野

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日	時限		
1年~	2	医事法	-	横野 恵	春	水	2		
		会社法総則	-	休講					
		憲法 I	A	西原 博史	秋	火	3		
			B	西原 博史	春	火	5		
		民法概論	A	吉田 和夫	秋	水	5		
			B	大野 武	春	金	1		
		会社法 1 (会社のガバナンス)	-	川島 いづみ	春	火	3		
		会社法 2 (会社のファイナンス)	-	川島 いづみ	秋	月	3		
		刑法総論 I	-	休講					
		刑法総論 II	-	休講					
		国際法 1	-	福永 有夏	春	金	3		
		国際経済法 1	-	福永 有夏	秋	金	3		
		戦後重大犯罪と刑事法	-	休講					
		刑法総論	-	小野上 真也	秋	金	4		
						金	5		
		2年~	2	憲法 II	A	西原 博史	春	火	3
				行政法総論 I	A	後藤 光男 ※	春	金	5
					B	隔年休講			
				行政法総論 II	A	後藤 光男 ※	秋	金	5
					B	隔年休講			
				行政救済法 1 (行政訴訟)	-	後藤 光男	春	水	5
				行政救済法 2 (国家補償)	-	後藤 光男	秋	水	5
				個別的労働法 I	-	鈴木 俊晴	春	月	3
				個別的労働法 II	-	鈴木 俊晴	秋	火	3
				民法 1 (総則)	-	大西 泰博	春	月	3
民法 2 (物権)	-			大西 泰博	秋	金	2		
民法 3 (債権総論)	-			吉田 和夫	春	火	4		
民法 4 (債権各論)	-			吉田 和夫	秋	火	4		
民法 5 (親族)	-			金 亮完	春	金	2		
民法 6 (相続)	-			金 亮完	秋	金	2		
刑法各論 1	-	松澤 伸	春	火	4				

※隔年開講科目

IV. 学科目配当表

学科目配当表

基盤専門科目 - 経済学分野

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限
1年～	2	日本経済史	-	休講		
		西洋経済史	-	内田 日出海	春	月4
		経済思想史 I	-	休講		
		経済思想史 II	-	休講		
		経済数学 1	-	戸田 学	春	火3
		経済数学 2	-	戸田 学	秋	火3
2年～	2	ミクロ経済学 I	-	戸田 学	春	火1
		ミクロ経済学 II	-	戸田 学	秋	火1
		計量経済学 I	-	大野 裕之	春	月2
		計量経済学 II	-	大野 裕之	秋	月2
		財政学 1	-	休講		
		財政学 2	-	休講		
	経済学史 I	-	休講			
	経済学史 II	-	休講			
	産業構造論	-	鷲津 明由	春	水2	
	労働経済の理論	-	休講			
	移行経済論 I	-	トラン ヴァントゥ	春	月4	
	移行経済論 II	-	トラン ヴァントゥ	秋	月4	
	実証経済学	-	王 在喆	春	金3	
	公共経済論 I	-	笠島 洋一	春	金1	
	公共経済論 II	-	笠島 洋一	秋	金1	
	4	マクロ経済学	-	及川 浩希	春	水2 水3

基盤専門科目 - 商学分野

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限	
1年～	2	情報化社会とワーキングスタイル	-	須子 統太	秋	火4	
		情報科学論 I	-	土方 正夫 ※	春	月4	
	4	簿記		A	金子 良太	春	火2 火3
				B	菅野 浩勢	秋	火3 火4
		経営のための経済学		-	土門 晃二	春	月5 水5
				-	トラン ヴァントゥ	春	火4
2年～	2	国際貿易論 1	-	トラン ヴァントゥ	春	火4	
		国際貿易論 2	-	隔年休講			
	ビジネス・イングリッシュ I	-	福澤 善文	春	火5		
	ビジネス・イングリッシュ II	-	福澤 善文	秋	火5		
	産業心理学 I	-	休講				
	産業心理学 II	-	休講				
	産業社会学 I	-	休講				
	産業社会学 II	-	休講				
	中小企業論 I	-	原田 一郎	春	月5		
	中小企業論 II	-	原田 一郎	秋	月5		
	4	会計学		A	菅野 浩勢	春	金3 金4
				B	休講		
	経営学		-	井上 正	春	水3 水4	
			-	葛山 康典	春	火4 水4	
	証券論	-	葛山 康典	春	火4 水4		
	グローバル・サプライチェーン・マネジメント	-	中島 健一	秋	木4 木5		
	経営科学 1	-	須子 統太	春	水3 水4		

基盤専門科目 - 情報科学分野

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限
1年～	2	地理情報システム論 I	-	大場 亨	春	土2
		コンピュータと社会学 I	-	隔年休講		
	コンピュータと社会学 II	-	隔年休講			
	地理情報システム論 II	-	大場 亨	秋	土2	
4	社会科学のための数学	-	葛山 康典	春	火3 水3	

基盤専門科目 - 人文科学分野

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限	
1年～	2	人文地理学	-	竹林 和彦	春	火4	
		哲学総論	A	那須 政玄	春	金4	
	西洋哲学	B	千葉 清史	秋	金4		
		A	千葉 清史	春	金4		
	B	那須 政玄	秋	金4			
	比較文学	-	池田 雅之	秋	月4		
	比較基層文化論	-	池田 雅之	春	月4		
	東洋哲学 1	-	阿部 貴子	春	水4		
	東洋哲学 2	-	阿部 貴子	秋	水4		
	中国哲学 1	-	遠藤 純一郎	春	金5		
	中国哲学 2	-	遠藤 純一郎	秋	金5		
	倫理学 1	-	関口 浩	春	月5		
	倫理学 2	-	関口 浩	秋	月5		
	心理学概論	-	金築 優	春	火3		
	日本史概論 1	-	星原 大輔	春	火2		
	日本史概論 2	-	星原 大輔	秋	火2		
	外国史概論 1	-	大橋 里見	春	月4		
	外国史概論 2	-	大橋 里見	秋	月4		
	歴史学 (日本史) 1	-	白 春岩	春	木3		
	歴史学 (日本史) 2	-	白 春岩	秋	木3		
	歴史学 (日中関係史) 1	-	劉 傑	春	水4		
	歴史学 (日中関係史) 2	-	劉 傑	秋	水4		
	歴史学 (アジア史) 1	-	松田 春香	春	火1		
	歴史学 (アジア史) 2	-	松田 春香	秋	火1		
	歴史学 (ヨーロッパ史) 1	-	古川 誠之	春	土1		
	歴史学 (ヨーロッパ史) 2	-	古川 誠之	秋	土1		
	歴史学 (アラブ世界の歴史) 1	-	休講				
	歴史学 (アラブ世界の歴史) 2	-	休講				
	地誌	-	竹林 和彦	秋	火4		
	文学 1	-	西野 伸一郎	春	水3		
	文学 2	-	西野 伸一郎	秋	水3		
	日本文学 1 (古典と近代)	-	内藤 明	春	水3		
	日本文学 2 (近代と現代)	-	内藤 明	秋	水3		
	日本文化論	-	内藤 明	春	火4		
	漢字文化圏論 1	-	笹原 宏之	春	金3		
	漢字文化圏論 2	-	笹原 宏之	秋	木2		
	異文化コミュニケーション論	-	花光 里香	春	木1		
	言語表現論 1	-	笹原 宏之	春	月3		
	言語表現論 2	-	笹原 宏之	秋	月3		
	芸術論 1	-	隔年休講				
	芸術論 2	-	笠羽 映子 ※	春	月5		
	比較文化論 1	-	小長谷 英代	春	火2		
	比較文化論 2	-	小長谷 英代	秋	火2		
	中国理解を深める--留学講座	-	鄭 成	秋	火2		
	2年～	2	臨床心理学 I	-	金築 優	春	火2

※隔年開講科目

学科目配当表

IV. 学科目配当表

基盤専門科目 - 自然科学分野

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限	
1年～	2	都市科学概論	-	早田 宰 ※	春	水 3	
		数理科学概論	-	輪湖 博	春	火 5	
		生態学 1	-	赤尾 健一 ※	春	水 3	
		生態学 2	-	隔年休講			
		保全生物学	-	休講			
		自然科学概論 2	-	小山 慶太	秋	月 5	
		物理学 2	-	小山 慶太	秋	金 5	
		物理学 1	-	小山 慶太	春	金 5	
		自然科学概論 1	-	小山 慶太	春	月 5	
		数学 1	-	高橋 一嘉	春	月 3	
		数学 2	-	高橋 一嘉	秋	月 3	
		生命科学 1	-	輪湖 博	春	火 3	
		生命科学 2	-	輪湖 博	秋	火 3	
		エントロピー概論	-	輪湖 博	秋	火 5	
		自然地理学 I	-	松倉 公憲	春	火 2	
		自然地理学 II	-	松倉 公憲	秋	火 2	
		科学思想史 1	-	奥山 修平	春	水 4	
		科学思想史 2	-	奥山 修平	秋	水 4	
		コミュニティデザイン	-	卯月 盛夫	春	水 4	
		環境表現論 I	-	佐藤 洋一	春	水 2	
		社会デザイン実習 1	-	卯月 盛夫、 佐藤 洋一、 早田 宰、 土方 正夫	春 前半	火 2 火 3	
			-	早田 宰、 土方 正夫	春 後半	火 2 火 3	
			-	佐藤 洋一、 百武 ひろ子	春 後半	火 2 火 3	
		社会デザイン実習 2	-	早田 宰、 土方 正夫	春 後半	火 2 火 3	
			-	佐藤 洋一、 百武 ひろ子	春 後半	火 2 火 3	
		社会デザイン実習 3	-	佐藤 洋一、 百武 ひろ子	春 後半	火 2 火 3	
			-	百武 ひろ子	春	火 3	
		4	参加のデザイン技術	A	卯月 盛夫	春	月 6 月 7
				B	百武 ひろ子	春	月 6 月 7

基盤専門科目 - 専門英語

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限
2年～	2	Writing Academic English 1	-	休講		
		Writing Academic English 2	-	休講		
		Strategies for Discussions and Presentations 1	-	休講		
		Strategies for Discussions and Presentations 2	-	休講		
		Researching the Media Industry 1	-	休講		
		Researching the Media Industry 2	-	休講		
		Examining Global Issues 1	-	西野 伸一郎	春	金 3
		Examining Global Issues 2	-	休講		
		Exploring Cultures through Film 1	-	花光 里香	春	金 2
		Exploring Cultures through Film 2	-	花光 里香	秋	金 2

基盤専門科目 - 社会科学特殊講義

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限
1年～	2	社会科学特殊講義 (沖縄近現代史)	A	小松 寛	春	火 3
			B	小松 寛	秋	火 3
		社会科学特殊講義 (現代沖縄の諸問題)	A	小松 寛	春	火 5
			B	小松 寛	秋	火 5
		社会科学特殊講義 (社会と差別・平等問題)	A	杉山 有沙	春	月 1
			B	杉山 有沙	秋	月 1
		社会科学特殊講義 (障害者に関係する法理論)	A	杉山 有沙	春	金 4
			B	杉山 有沙	秋	金 4
		社会科学特殊講義 (健康と病気の社会学)	A	オトウェル 菜美野	春	金 2
			B	オトウェル 菜美野	秋	金 2
		社会科学特殊講義 (昭和日本の社会と思想の関係史)	A	庄司 武史	春	月 1
			B	庄司 武史	秋	月 1

先進専門科目 - 社会科学総合分野

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限		
2年～	2	Social History 2	-	ヤン マニエル	秋	水 3		
		経済社会学 II	-	休講				
		政策科学 2	-	上沼 正明	秋	水 4		
		ジェンダー論 II	-	大森 真紀	秋	金 4		
		社会学の思想と理論	-	周藤 真也 ※	秋	水 3		
		現代社会学の方法	-	隔年休講				
		知識社会学	-	隔年休講				
		商業史 1	-	君塚 弘恭	春	金 3		
		商業史 2	-	君塚 弘恭	秋	金 3		
		ソーシャル・リサーチ (社会統合) I	-	篠田 徹 ※	春夏	金 4		
		ソーシャル・リサーチ (社会統合) II	-	篠田 徹 ※	秋	金 4		
		ソーシャル・リサーチ (歴史と記憶) I	-	隔年休講				
		ソーシャル・リサーチ (歴史と記憶) II	-	隔年休講				
		ソーシャル・リサーチ (まちづくり) I	-	隔年休講				
		ソーシャル・リサーチ (まちづくり) II	-	隔年休講				
		ソーシャル・リサーチ (地域福祉) I	-	成富 正信 ※	春夏	金 4		
		ソーシャル・リサーチ (地域福祉) II	-	成富 正信 ※	秋	金 4		
		3年～	2	ラテンアメリカ研究 1	-	隔年休講		
				ラテンアメリカ研究 2	-	畑 恵子 ※	秋	月 4
				法制文明論 1	-	星原 大輔	春	月 1
法制文明論 2	-			星原 大輔	秋	月 1		
中国研究 1	-			劉 傑	春	木 2		
中国研究 2	-			劉 傑	秋	木 2		
人間行動と進化	-			秋山 英三	春	火 4		
居住環境論 2	-			隔年休講				
居住環境論 1	-			早田 宰 ※	秋	水 3		
4	地球環境論			-	赤尾 健一	秋	月 3 水 5	

先進専門科目 - 政治学分野

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限
2年～	2	行政学 II	-	稲生 信男	秋	月 3
		平和学 II-1 (平和と戦争)	-	多賀 秀敏	秋	フル OD
		平和学 II-2 (貧困・格差・人権・環境と平和)	-	休講		
3年～	2	第三世界論	-	佐藤 幸男	秋	金 2
		情報政治論	-	細貝 亮	秋	水 1
		現代政治分析 (イタリア)	-	池谷 知明	春	水 3
		現代政治分析 (イギリス)	-	秋本 富雄	秋	木 4
		現代政治分析 (スペイン)	-	野上 和裕	秋	金 5
		現代政治分析 (アメリカ合衆国)	-	今村 浩	秋	月 5
		現代政治分析 (ドイツ)	-	高見 仁	春	土 3
		国際政治理論	-	奥迫 元	春	水 4
		太平洋地域海洋国家研究	-	奥迫 元	秋	水 5
		比較政治学	A	河崎 健	春	木 3
			B	休講		
		現代市民権理論	-	厚見 恵一郎	春	火 3
		国会論	-	清土 恒雄	秋	木 5
		比較議会論	-	秋本 富雄	秋	木 5
		国際NGO協力論	-	山田 満	春	木 2
		国際開発制度論	-	笹岡 雄一	秋	火 2
		立法過程論	-	前田 光政	春	水 3
		政治過程論 1	-	今村 浩	秋	水 3
		政治過程論 2	-	今村 浩	秋	金 5
		平和構築論	-	山田 満	春	火 2
政治行動論 I	-	浅野 正彦	春	火 5		
政治行動論 II	-	浅野 正彦	秋	火 5		
紛争解決論実習 1	-	山田 満 ※	夏季	その他		
紛争解決論実習 2	-	隔年休講				

※隔年開講科目

IV. 学科目配当表

学科目配当表

先進専門科目 - 法学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限
2年～	2	労働市場法	-	鈴木 俊晴	秋	火 4
		比較法入門	A	早川 有紀	春	木 2
			B	早川 有紀	秋	木 2
3年～	2	税法	-	松原 有里	秋	水 5
		会社法 3〔組織再編・M&A〕	-	川島 いづみ ※	秋	火 3
		学校教育と憲法	-	西原 博史	秋	月 5
		環境法 1	-	黒川 哲志	春	水 3
		環境法 2	-	黒川 哲志	秋	水 3
		集団的労働法	-	鈴木 俊晴	春	月 4
		社会保障法 I	-	久塚 純一	春	水 4
		社会保障法 II	-	久塚 純一	秋	水 4
		損害賠償法	-	大木 満	秋	金 3
		法情報学 1〔インターネットと法〕	-	吉田 和夫	春	火 5
		法情報学 2〔メディアと法〕	-	吉田 和夫	秋	火 5
		金融商品取引法 1	-	川島 いづみ	春	月 3
		金融商品取引法 2	-	隔年休講		
		金融担保法	-	大木 満	春	金 2
		不動産法	-	大西 泰博	春	水 2
		都市法	-	大野 武	秋	金 1
		刑事政策	-	守山 正	春	火 3
		法社会学 I	-	大橋 憲広	春	火 2
		法社会学 II	-	大橋 憲広	秋	火 2
		国際法 2	-	福永 有夏	春	木 2
		国際経済法 2	-	福永 有夏	秋	木 2
		刑法各論 2	-	田山 聡美	春	火 3
		犯罪学	-	守山 正	秋	火 3
		知的財産権法 (著作権法)	-	今村 哲也	春	水 5
		知的財産権法 (特許法、商標法、不正競争防止法)	-	今村 哲也	秋	水 5
		生命倫理と法 1	-	横野 恵	春	木 2
		生命倫理と法 2	-	横野 恵	秋	木 2

先進専門科目 - 経済学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限		
2年～	2	食料と農業の経済学 I	-	弦間 正彦	春	火 3		
		食料と農業の経済学 II	-	弦間 正彦	秋	火 3		
		金融経済論 I	-	大野 裕之	春	月 1		
		金融経済論 II	-	大野 裕之	秋	月 1		
		公共選択論 I	-	篠塚 友一	春	金 3		
		公共選択論 II	-	篠塚 友一	秋	金 3		
		経済動学 I	-	高橋 青天	春	金 3		
		経済動学 II	-	高橋 青天	秋	金 3		
		3年～	2	環境の産業連関分析	-	鷲津 明由	秋	水 2
				日本の労働経済	-	休講		
法と経済学	-			土門 晃二	秋	月 4		
国際金融論 I	-			北村 能寛	春	月 4		
国際金融論 II	-			飯田 幸裕	秋	木 3		
制度設計の経済学 I	-			笠島 洋一	春	木 2		
制度設計の経済学 II	-			笠島 洋一	秋	木 2		
Mechanism Design	-			笠島 洋一	秋	木 1		
4	産業組織論			-	土門 晃二	秋	月 5 水 5	
	応用マクロ経済学			-	及川 浩希	秋	水 2 水 3	

先進専門科目 - 商学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限
2年～	2	国際経営論 1	-	長谷川 信次	春	火 3
		国際経営論 2	-	長谷川 信次	秋	火 3
3年～	2	生産システム論	-	伊呂原 隆	秋	月 1
		金融データ解析 2	-	隔年休講		
		金融データ解析 1	-	葛山 康典 ※	秋	火 4
		経営戦略 1	-	長谷川 信次	春	水 3
		経営戦略 2	-	長谷川 信次	秋	水 3
		債金論 I	-	休講		
		債金論 II	-	休講		
		流通論 I	-	野口 智雄	春	月 3
		流通論 II	-	野口 智雄	秋	月 3
		リスクマネジメントと保険 I	-	上田 和勇	春	水 5
	リスクマネジメントと保険 II	-	上田 和勇	秋	水 5	
	情報科学論 II	-	土方 正夫	秋	火 3	
	人的資源管理論 I	-	山下 洋史	春	木 5	
	人的資源管理論 II	-	山下 洋史	秋	木 5	
	4	会計監査論	-	山崎 秀彦	秋	水 1 水 2
		原価計算	-	菊井 高昭	春	月 3 月 4
		管理会計	-	齋藤 正章	春	木 3 木 4
		経営組織論	-	井上 正	秋	水 3 水 4
		経営管理論	-	篠崎 香織	春	火 2 火 3
		企業財務論	-	葛山 康典	秋	火 3 水 3
外部報告会計論		-	菅野 浩勢	秋	金 3 金 4	
経営科学 2		-	須子 統太	秋	水 3 水 4	

先進専門科目 - 情報科学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限
3年～	2	情報システム	-	金子 勝一	春	月 3
		マルチメディア	-	浮田 善文	秋	木 5
		社会科学のための応用コンピュータ I	-	土方 正夫 ※	春	火 4
		社会科学のための応用コンピュータ II	-	土方 正夫 ※	秋	火 4

先進専門科目 - 人文科学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限
2年～	2	臨床心理学 II	-	金築 優	秋	火 2
		臨床哲学	-	金築 優	秋	火 3
		日本文化研究	-	内藤 明	秋	火 4
		公共文化論 1	-	小長谷 英代 ※	春	火 5
		公共文化論 2	-	隔年休講		
		中日言語文化交流論	-	段 瑞聡	春	月 4
3年～	2	西洋近現代音楽研究 1	-	隔年休講		
		西洋近現代音楽研究 2	-	笠羽 映子 ※	秋	月 5

先進専門科目 - 自然科学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限
2年～	2	EU・ドイツの都市づくり	-	卯月 盛夫	秋	水 5
		公共事業論	-	卯月 盛夫	秋	水 4
		環境表現論 II	-	佐藤 洋一	秋	水 2
		社会言語としての映像	-	佐藤 洋一 ※	春	金 3
		4	ヴィジュアルイメージ研究	-	佐藤 洋一	秋

※隔年開講科目

学科目配当表

IV. 学科目配当表

先進専門科目 - 外国書研究

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限		
2年～	2	英書研究16-1	-	稲生 信男	春	月 5		
		英書研究16-2	-	稲生 信男	秋	月 5		
		英書研究16-3	-	千葉 清史	春	水 3		
		英書研究16-4	-	千葉 清史	秋	水 3		
		英書研究16-5	-	吉田 敬	春	水 3		
		英書研究16-6	-	吉田 敬	秋	水 3		
		英書研究16-7	-	横野 恵	春	月 1		
		英書研究16-8	-	横野 恵	秋	月 2		
		英書研究16-9	-	須子 統太	春	火 3		
		英書研究16-10	-	オトウエル 菜美野	春	土 2		
		英書研究16-11	-	オトウエル 菜美野	秋	土 2		
		英書研究16-12	-	オトウエル 菜美野	春	土 3		
		英書研究16-13	-	オトウエル 菜美野	秋	土 3		
		英書研究16-14	-	庄司 武史	春	火 2		
		英書研究16-15	-	庄司 武史	秋	火 2		
		英書研究16-16	-	庄司 武史	春	火 3		
		英書研究16-17	-	庄司 武史	秋	火 3		
		英書研究16-18	-	早川 有紀	春	火 2		
		英書研究16-19	-	早川 有紀	秋	火 2		
		英書研究16-20	-	早川 有紀	春	水 2		
		英書研究16-21	-	早川 有紀	秋	水 2		
		3年～	2	中国書研究16-1	-	劉 傑	春	水 5
				中国書研究16-2	-	劉 傑	秋	水 5
独書研究16-1	-			坪郷 實	春	水 4		
独書研究16-2	-			坪郷 實	秋	水 4		
仏書研究16-1	-			君塚 弘恭	春	火 4		
仏書研究16-2	-	君塚 弘恭	秋	火 4				
西書研究16-1	-	畑 恵子	春	月 3				
西書研究16-2	-	畑 恵子	秋	月 3				

社会科学総合研究

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限
3年～	2	社会科学総合研究（女性と政治）	-	今村 浩、 秋本 富雄、 中林 美恵子	春	木 5
		社会科学総合研究（ソーシャル・キャピタル論）	-	上沼 正明、 佐々木 實雄	秋	月 4
		社会科学総合研究（市民活動と自治体—市民社会の可能性）1	-	伊藤 久雄、 坪郷 實、 林 和孝、 宮崎 徹	春	月 5
		社会科学総合研究（近代化の比較研究）1	-	古賀 勝次郎、 浜田 泉	春	月 4
		社会科学総合研究（近代化の比較研究）2	-	古賀 勝次郎、 劉 傑	秋	月 4
		社会科学総合研究（ロシア東欧現代経済）1	-	弦間 正彦、 池本 修一	春	水 5
		社会科学総合研究（ロシア東欧現代経済）2	-	弦間 正彦、 稲川 順子、 榎原 学	秋	水 5
		社会科学総合研究（市民活動と自治体—市民社会の可能性）2	-	伊藤 久雄、 坪郷 實、 林 和孝、 昼間 守仁	秋	月 5

先進専門科目 - 先進社会科学特殊講義

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限
2年～	2	先進社会科学特殊講義（日本復帰／ 沖縄返還を再考する）	A	小松 寛	春	金 3
			B	小松 寛	秋	金 3
		先進社会科学特殊講義（日英障害差 別禁止法理）	A	杉山 有沙	春	水 1
			B	杉山 有沙	秋	水 1

IV. 学科目配当表

学科目配当表

ゼミナール

年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	時限
2年~	2	ゼミナールI (アジア経済と日本 / 秋学期)	-	トラン ウェン トゥ	秋	月 2
		ゼミナールI (アジア経済と日本 / 春学期)	-	トラン ウェン トゥ	春	月 2
		ゼミナールI (アメリカ研究 / 秋学期)	-	西野 伸一郎	秋	水 4
		ゼミナールI (アメリカ研究 / 春学期)	-	西野 伸一郎	春	水 4
		ゼミナールI (アメリカ政治研究入門 / 秋学期)	-	今村 浩	秋	水 4
		ゼミナールI (アメリカ政治研究入門 / 春学期)	-	今村 浩	春	水 4
		ゼミナールI (ゲーム理論とその応用 / 秋学期)	-	戸田 学	秋	火 4
		ゼミナールI (ゲーム理論とその応用 / 春学期)	-	戸田 学	春	火 4
		ゼミナールI (マーケティング管理研究 / 秋学期)	-	野口 智雄	秋	月 4
		ゼミナールI (マーケティング管理研究 / 春学期)	-	野口 智雄	春	月 4
		ゼミナールI (マスメディア研究 / 秋学期)	-	木村 智哉	秋	木 4
		ゼミナールI (マスメディア研究 / 春学期)	-	木村 智哉	春	木 4
		ゼミナールI (メディアと言語の研究 / 秋学期)	-	笹原 宏之	秋	月 4
		ゼミナールI (メディアと言語の研究 / 春学期)	-	笹原 宏之	春	月 4
		ゼミナールI (ラテンアメリカ研究 / 秋学期)	-	畑 恵子	秋	水 4
		ゼミナールI (ラテンアメリカ研究 / 春学期)	-	畑 恵子	春	水 4
		ゼミナールI (異文化コミュニケーション研究 / 秋学期)	-	花光 里香	秋	火 3
		ゼミナールI (異文化コミュニケーション研究 / 春学期)	-	花光 里香	春	火 3
		ゼミナールI (医療と法 / 秋学期)	-	横野 恵	秋	火 2
		ゼミナールI (医療と法 / 春学期)	-	横野 恵	春	火 2
		ゼミナールII (応用マクロ経済学研究 / 秋学期)	-	及川 浩希	秋	火 4
		ゼミナールII (応用マクロ経済学研究 / 春学期)	-	及川 浩希	春	火 4
		ゼミナールII (会社法の研究 / 秋学期)	-	川島 いづみ	秋	火 5
		ゼミナールII (会社法の研究 / 春学期)	-	川島 いづみ	春	火 5
		ゼミナールII (環境及び資源経済学研究 / 秋学期)	-	赤尾 健一	秋	月 4
		ゼミナールII (環境及び資源経済学研究 / 春学期)	-	赤尾 健一	春	月 4
		ゼミナールII (環境法政策研究 / 秋学期)	-	黒川 哲志	秋	水 5
		ゼミナールII (環境法政策研究 / 春学期)	-	黒川 哲志	春	水 5
		ゼミナールII (企業活動の研究 / 秋学期)	-	井上 正	秋	金 5
		ゼミナールII (企業活動の研究 / 春学期)	-	井上 正	春	金 5
		ゼミナールII (企業財務論研究 / 秋学期)	-	葛山 康典	秋	水 4
		ゼミナールII (企業財務論研究 / 春学期)	-	葛山 康典	春	水 4
		ゼミナールII (空間映像研究 / 秋学期)	-	佐藤 洋一	秋	水 5
		ゼミナールII (空間映像研究 / 春学期)	-	佐藤 洋一	春	水 5
		ゼミナールII (刑法研究 / 秋学期)	-	杉本 一敏	秋	火 4
		ゼミナールII (刑法研究 / 春学期)	-	杉本 一敏	春	火 4
		ゼミナールII (契約法研究 / 秋学期)	-	吉田 和夫	秋	火 3
		ゼミナールII (契約法研究 / 春学期)	-	吉田 和夫	春	火 3
		ゼミナールII (経済と環境の実証分析 / 秋学期)	-	鷲津 明由	秋	月 4
		ゼミナールII (経済と環境の実証分析 / 春学期)	-	鷲津 明由	春	月 4
		ゼミナールII (現代社会と音楽文化 / 秋学期)	-	笠羽 映子	秋	水 3
		ゼミナールII (現代社会と音楽文化 / 春学期)	-	笠羽 映子	春	水 3
		ゼミナールII (現代社会における基本的な人権 / 秋学期)	-	西原 博史	秋	水 4
		ゼミナールII (現代社会における基本的な人権 / 春学期)	-	西原 博史	春	水 4
		ゼミナールII (現代社会学研究 / 秋学期)	-	周藤 真也	秋	水 4
		ゼミナールII (現代社会学研究 / 春学期)	-	周藤 真也	春	水 4
		ゼミナールII (公共文化研究 / 秋学期)	-	小長谷 英代	秋	水 4
		ゼミナールII (公共文化研究 / 春学期)	-	小長谷 英代	春	水 4
		ゼミナールII (行政・地域自治研究 / 秋学期)	-	福生 信男	秋	水 4
		ゼミナールII (行政・地域自治研究 / 春学期)	-	福生 信男	春	水 4
		ゼミナールII (国際関係研究 / 秋学期)	-	奥迫 元	秋	火 3
		ゼミナールII (国際関係研究 / 春学期)	-	奥迫 元	春	火 3
		ゼミナールII (国際協力と平和構築 / 秋学期)	-	山田 満	秋	水 3
		ゼミナールII (国際協力と平和構築 / 春学期)	-	山田 満	春	水 3
		ゼミナールII (国際経済と金融システム / 秋学期)	-	得田 雅章	秋	金 3
		ゼミナールII (国際経済と金融システム / 春学期)	-	北村 能寛	春	月 5
		ゼミナールII (国際経済法研究 / 秋学期)	-	福永 有夏	秋	金 4
		ゼミナールII (国際経済法研究 / 春学期)	-	清水 章雄, 福永 有夏	春	金 4
		ゼミナールII (国際人権法研究 / 秋学期)	-	後藤 光男	秋	火 4
		ゼミナールII (国際人権法研究 / 春学期)	-	後藤 光男	春	火 4
		ゼミナールII (財務会計研究 / 秋学期)	-	菅野 浩勢	秋	月 4
		ゼミナールII (財務会計研究 / 春学期)	-	菅野 浩勢	春	月 4
		ゼミナールII (社会科学の哲学 / 秋学期)	-	吉田 敬	秋	火 4
		ゼミナールII (社会科学の哲学 / 春学期)	-	吉田 敬	春	火 4
		ゼミナールII (社会保障・福祉をめぐる諸問題 / 秋学期)	-	久塚 純一	秋	火 5
		ゼミナールII (社会保障・福祉をめぐる諸問題 / 春学期)	-	久塚 純一	春	火 5
		ゼミナールII (社会問題研究 / 秋学期)	-	成富 正信	秋	火 4
		ゼミナールII (社会問題研究 / 春学期)	-	成富 正信	春	火 4
		ゼミナールII (情報産業の経済分析 / 秋学期)	-	土門 晃二	秋	火 4
		ゼミナールII (情報産業の経済分析 / 春学期)	-	土門 晃二	春	火 4
		ゼミナールII (人口と家族の比較研究 / 秋学期)	-	休講		
		ゼミナールII (人口と家族の比較研究 / 春学期)	-	休講		
		ゼミナールII (世界経済の研究 / 秋学期)	-	笠間 正彦	秋	月 5
		ゼミナールII (世界経済の研究 / 春学期)	-	笠間 正彦	春	月 5
		ゼミナールII (制度設計の経済学 / 秋学期)	-	笠島 洋一	秋	金 3
		ゼミナールII (制度設計の経済学 / 春学期)	-	笠島 洋一	春	金 3
		ゼミナールII (政策科学研究 / 秋学期)	-	上沼 正明	秋	火 4
		ゼミナールII (政策科学研究 / 春学期)	-	上沼 正明	春	火 4
		ゼミナールII (政治思想研究 / 秋学期)	-	厚見 恵一郎	秋	火 4
		ゼミナールII (政治思想研究 / 春学期)	-	厚見 恵一郎	春	火 4
		ゼミナールII (生命システム研究 / 秋学期)	-	輪柳 博	秋	月 4
		ゼミナールII (生命システム研究 / 春学期)	-	輪柳 博	春	月 4
		ゼミナールII (多国籍企業の研究 / 秋学期)	-	長谷川 信次	秋	火 4
		ゼミナールII (多国籍企業の研究 / 春学期)	-	長谷川 信次	春	火 4
		ゼミナールII (男女の働き方を考える / 秋学期)	-	大森 真紀	秋	金 5
		ゼミナールII (男女の働き方を考える / 春学期)	-	大森 真紀	春	金 5
		ゼミナールII (中国研究 / 秋学期)	-	劉 傑	秋	金 4
		ゼミナールII (中国研究 / 春学期)	-	劉 傑	春	金 4
		ゼミナールII (哲学・倫理学 / 秋学期)	-	千葉 清史	秋	水 4
		ゼミナールII (哲学・倫理学 / 春学期)	-	千葉 清史	春	水 4

ゼミナール

年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	時限
2年~	2	ゼミナールI (都市・コミュニティデザイン / 秋学期)	-	卯月 盛夫	秋	火 4
		ゼミナールI (都市・コミュニティデザイン / 春学期)	-	卯月 盛夫	春	火 4
		ゼミナールI (都市再生アクションリサーチ / 秋学期)	-	早田 幸	秋	火 4
		ゼミナールI (都市再生アクションリサーチ / 春学期)	-	早田 幸	春	火 4
		ゼミナールI (統計データ解析 / 秋学期)	-	須子 統太	秋	火 5
		ゼミナールI (統計データ解析 / 春学期)	-	須子 統太	春	火 5
		ゼミナールI (日本文化研究 / 秋学期)	-	内藤 明	秋	火 3
		ゼミナールI (日本文化研究 / 春学期)	-	内藤 明	春	火 3
		ゼミナールI (日本歴史研究 / 秋学期)	-	雲藤 等	秋	月 4
		ゼミナールI (日本歴史研究 / 春学期)	-	雲藤 等	春	月 4
		ゼミナールI (比較経済学研究 / 秋学期)	-	君塚 弘恭	秋	金 4
		ゼミナールI (比較経済学研究 / 春学期)	-	君塚 弘恭	春	金 4
		ゼミナールI (比較政治研究 / 秋学期)	-	池谷 知明	秋	水 4
		ゼミナールI (比較政治研究 / 春学期)	-	池谷 知明	春	水 4
		ゼミナールI (不動産法の研究 / 秋学期)	-	大西 泰博	秋	水 4
		ゼミナールI (不動産法の研究 / 春学期)	-	大西 泰博	春	水 4
		ゼミナールI (平和学研究 / 秋学期)	-	多賀 秀敏	秋	金 4
		ゼミナールI (平和学研究 / 春学期)	-	多賀 秀敏	春	金 4
		ゼミナールI (労働研究 / 秋学期)	-	篠田 徹	秋	金 3
		ゼミナールI (労働研究 / 春学期)	-	篠田 徹	春	金 3
		ゼミナールII (アジア経済と日本 / 秋学期)	-	トラン ウェン トゥ	秋	月 5
		ゼミナールII (アジア経済と日本 / 春学期)	-	トラン ウェン トゥ	春	月 5
		ゼミナールII (アメリカ研究 / 秋学期)	-	西野 伸一郎	秋	水 5
		ゼミナールII (アメリカ研究 / 春学期)	-	西野 伸一郎	春	水 5
		ゼミナールII (ゲーム理論とその応用 / 秋学期)	-	戸田 学	秋	火 5
		ゼミナールII (ゲーム理論とその応用 / 春学期)	-	戸田 学	春	火 5
		ゼミナールII (マーケティング管理研究 / 秋学期)	-	野口 智雄	秋	金 3
		ゼミナールII (マーケティング管理研究 / 春学期)	-	野口 智雄	春	金 3
		ゼミナールII (マスメディア研究 / 秋学期)	-	木村 智哉	秋	木 5
		ゼミナールII (マスメディア研究 / 春学期)	-	木村 智哉	春	木 5
		ゼミナールII (メディアと言語の研究 / 秋学期)	-	笹原 宏之	秋	月 5
		ゼミナールII (メディアと言語の研究 / 春学期)	-	笹原 宏之	春	月 5
		ゼミナールII (ラテンアメリカ研究 / 秋学期)	-	畑 恵子	秋	水 5
		ゼミナールII (ラテンアメリカ研究 / 春学期)	-	畑 恵子	春	水 5
		ゼミナールII (異文化コミュニケーション研究 / 秋学期)	-	花光 里香	秋	火 4
		ゼミナールII (異文化コミュニケーション研究 / 春学期)	-	花光 里香	春	火 4
		ゼミナールII (医療と法 / 秋学期)	-	横野 恵	秋	火 3
		ゼミナールII (医療と法 / 春学期)	-	横野 恵	春	火 3
		ゼミナールII (応用マクロ経済学研究 / 秋学期)	-	及川 浩希	秋	火 5
		ゼミナールII (応用マクロ経済学研究 / 春学期)	-	及川 浩希	春	火 5
		ゼミナールII (科学と人間 / 秋学期)	-	小山 慶太	秋	金 4
		ゼミナールII (科学と人間 / 春学期)	-	小山 慶太	春	金 4
		ゼミナールII (会社法の研究 / 秋学期)	-	川島 いづみ	秋	火 4
		ゼミナールII (会社法の研究 / 春学期)	-	川島 いづみ	春	火 4
		ゼミナールII (環境及び資源経済学研究 / 秋学期)	-	赤尾 健一	秋	月 5
		ゼミナールII (環境及び資源経済学研究 / 春学期)	-	赤尾 健一	春	月 5
		ゼミナールII (環境政策+ヨーロッパ連合地域研究 / 秋学期)	-	坪郷 實	秋	水 5
		ゼミナールII (環境政策+ヨーロッパ連合地域研究 / 春学期)	-	坪郷 實	春	水 5
		ゼミナールII (環境法政策研究 / 秋学期)	-	黒川 哲志	秋	水 4
		ゼミナールII (環境法政策研究 / 春学期)	-	黒川 哲志	春	水 4
		ゼミナールII (企業活動の研究 / 秋学期)	-	井上 正	秋	水 5
		ゼミナールII (企業活動の研究 / 春学期)	-	井上 正	春	水 5
		ゼミナールII (企業財務論研究 / 秋学期)	-	葛山 康典	秋	水 5
		ゼミナールII (企業財務論研究 / 春学期)	-	葛山 康典	春	水 5
		ゼミナールII (空間映像研究 / 秋学期)	-	佐藤 洋一	秋	水 4
		ゼミナールII (空間映像研究 / 春学期)	-	佐藤 洋一	春	水 4
		ゼミナールII (刑法研究 / 秋学期)	-	杉本 一敏	秋	火 5
		ゼミナールII (刑法研究 / 春学期)	-	杉本 一敏	春	火 5
		ゼミナールII (契約法研究 / 秋学期)	-	吉田 和夫	秋	水 3
		ゼミナールII (契約法研究 / 春学期)	-	吉田 和夫	春	水 3
		ゼミナールII (経営分析研究 / 秋学期)	-	菊井 高昭	秋	月 5
		ゼミナールII (経営分析研究 / 春学期)	-	菊井 高昭	春	月 5
		ゼミナールII (経済と環境の実証分析 / 秋学期)	-	鷲津 明由	秋	月 3
		ゼミナールII (経済と環境の実証分析 / 春学期)	-	鷲津 明由	春	月 3
		ゼミナールII (現代アメリカ政治過程の研究 / 秋学期)	-	今村 浩	秋	水 5
		ゼミナールII (現代アメリカ政治過程の研究 / 春学期)	-	今村 浩	春	水 5
		ゼミナールII (現代社会と音楽文化 / 秋学期)	-	笠羽 映子	秋	水 4
		ゼミナールII (現代社会と音楽文化 / 春学期)	-	笠羽 映子	春	水 4
		ゼミナールII (現代社会における基本的な人権 / 秋学期)	-	西原 博史	秋	水 5
		ゼミナールII (現代社会における基本的な人権 / 春学期)	-	西原 博史	春	水 5
		ゼミナールII (現代社会学研究 / 秋学期)	-	周藤 真也	秋	水 5
		ゼミナールII (現代社会学研究 / 春学期)	-	周藤 真也	春	水 5
		ゼミナールII (公共文化研究 / 秋学期)	-	小長谷 英代	秋	水 5
		ゼミナールII (公共文化研究 / 春学期)	-	小長谷 英代	春	水 5
		ゼミナールII (行政・地域自治研究 / 秋学期)	-	福生 信男	秋	水 5
		ゼミナールII (行政・地域自治研究 / 春学期)	-	福生 信男	春	水 5
		ゼミナールII (国際関係研究 / 秋学期)	-	奥迫 元	秋	火 4
		ゼミナールII (国際関係研究 / 春学期)	-	奥迫 元	春	火 4
		ゼミナールII (国際協力と平和構築 / 秋学期)	-	山田 満	秋	水 4
		ゼミナールII (国際協力と平和構築 / 春学期)	-	山田 満	春	水 4
		ゼミナールII (国際経済と金融システム / 秋学期)	-	得田 雅章	秋	金 5
		ゼミナールII (国際経済と金融システム / 春学期)	-	北村 能寛	春	火 4
		ゼミナールII (国際経済法研究 / 秋学期)	-	福永 有夏	秋	金 5
		ゼミナールII (国際経済法研究 / 春学期)	-	清水 章雄, 福永 有夏	春	金 5
		ゼミナールII (国際人権法研究 / 秋学期)	-	後藤 光男	秋	火 5
		ゼミナールII (国際人権法研究 / 春学期)	-	後藤 光男	春	火 5
		ゼミナールII (財務会計研究 / 秋学期)	-	菅野 浩勢	秋	月 5
		ゼミナールII (財務会計研究 / 春学期)	-	菅野 浩勢	春	月 5
		ゼミナールII (社会科学の哲学 / 秋学期)	-	吉田 敬	秋	火 5
		ゼミナールII (社会科学の哲学 / 春学期)	-	吉田 敬	春	火 5

学科目配当表

IV. 学科目配当表

ゼミナール

年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	時限		
3年~	2	ゼミナールII (社会思想と現実/秋学期)	-	古賀 勝次郎	秋	金5		
		ゼミナールII (社会思想と現実/春学期)	-	古賀 勝次郎	春	金5		
		ゼミナールII (社会保険・社会福祉をめぐる諸問題/秋学期)	-	久塚 純一	秋	水5		
		ゼミナールII (社会保険・社会福祉をめぐる諸問題/春学期)	-	久塚 純一	春	水5		
		ゼミナールII (社会問題研究/秋学期)	-	成富 正信	秋	火5		
		ゼミナールII (社会問題研究/春学期)	-	成富 正信	春	火5		
		ゼミナールII (情報産業の経済分析/秋学期)	-	土門 晃二	秋	火5		
		ゼミナールII (情報産業の経済分析/春学期)	-	土門 晃二	春	火5		
		ゼミナールII (人口と家族の比較研究/秋学期)	-	小島 宏	秋	火5		
		ゼミナールII (人口と家族の比較研究/春学期)	-	佐藤 龍三郎	春	火5		
		ゼミナールII (世界経済の研究/秋学期)	-	弦間 正彦	秋	月4		
		ゼミナールII (世界経済の研究/春学期)	-	弦間 正彦	春	月4		
		ゼミナールII (制度設計の経済学/秋学期)	-	笠島 洋一	秋	金2		
		ゼミナールII (制度設計の経済学/春学期)	-	笠島 洋一	春	金2		
		ゼミナールII (政策科学研究/秋学期)	-	上沼 正明	秋	火5		
		ゼミナールII (政策科学研究/春学期)	-	上沼 正明	春	火5		
		ゼミナールII (政治思想研究/秋学期)	-	厚見 恵一郎	秋	火5		
		ゼミナールII (政治思想研究/春学期)	-	厚見 恵一郎	春	火5		
		ゼミナールII (生命システム研究/秋学期)	-	輪湖 博	秋	月5		
		ゼミナールII (生命システム研究/春学期)	-	輪湖 博	春	月5		
		ゼミナールII (多国籍企業の研究/秋学期)	-	長谷川 信次	秋	水4		
		ゼミナールII (多国籍企業の研究/春学期)	-	長谷川 信次	春	水4		
		ゼミナールII (男女の働き方を考える/秋学期)	-	大森 真紀	秋	月5		
		ゼミナールII (男女の働き方を考える/春学期)	-	大森 真紀	春	月5		
		ゼミナールII (中国研究/秋学期)	-	劉 傑	秋	金5		
		ゼミナールII (中国研究/春学期)	-	劉 傑	春	金5		
		ゼミナールII (哲学・倫理学/秋学期)	-	千葉 清史	秋	水5		
		ゼミナールII (哲学・倫理学/春学期)	-	千葉 清史	春	水5		
		ゼミナールII (都市・コミュニティデザイン/秋学期)	-	卯月 盛夫	秋	火5		
		ゼミナールII (都市・コミュニティデザイン/春学期)	-	卯月 盛夫	春	火5		
		ゼミナールII (都市再生アクションリサーチ/秋学期)	-	早田 幸	秋	火5		
		ゼミナールII (都市再生アクションリサーチ/春学期)	-	早田 幸	春	火5		
		ゼミナールII (統計データ解析/秋学期)	-	須子 統太	秋	水5		
		ゼミナールII (統計データ解析/春学期)	-	須子 統太	春	水5		
		ゼミナールII (日本文化研究/秋学期)	-	内藤 明	秋	火5		
		ゼミナールII (日本文化研究/春学期)	-	内藤 明	春	火5		
		ゼミナールII (日本歴史研究/秋学期)	-	雲藤 等	秋	月5		
		ゼミナールII (日本歴史研究/春学期)	-	雲藤 等	春	月5		
		ゼミナールII (比較経済史研究/秋学期)	-	君塚 弘恭	秋	金5		
		ゼミナールII (比較経済史研究/春学期)	-	君塚 弘恭	春	金5		
		ゼミナールII (比較政治研究/秋学期)	-	池谷 知明	秋	水5		
		ゼミナールII (比較政治研究/春学期)	-	池谷 知明	春	水5		
		ゼミナールII (不動産法の研究/秋学期)	-	大西 泰博	秋	水3		
		ゼミナールII (不動産法の研究/春学期)	-	大西 泰博	春	水3		
		ゼミナールII (平和学研究/秋学期)	-	多賀 秀敏	秋	金5		
		ゼミナールII (平和学研究/春学期)	-	多賀 秀敏	春	金5		
		ゼミナールII (労働研究/秋学期)	-	篠田 徹	秋	木2		
		ゼミナールII (労働研究/春学期)	-	篠田 徹	春	木2		
		ゼミナールII (労働法の研究/秋学期)	-	清水 敏	秋	火5		
		ゼミナールII (労働法の研究/春学期)	-	清水 敏	春	火5		
		4年~	2	ゼミナールIII (アジア経済と日本/秋学期)	-	トラン ヴァン トゥ	秋	月5
				ゼミナールIII (アジア経済と日本/春学期)	-	トラン ヴァン トゥ	春	月5
				ゼミナールIII (アメリカ研究/秋学期)	-	西野 伸一郎	秋	水5
				ゼミナールIII (アメリカ研究/春学期)	-	西野 伸一郎	春	水5
				ゼミナールIII (ゲーム理論とその応用/秋学期)	-	戸田 学	秋	火5
ゼミナールIII (ゲーム理論とその応用/春学期)	-			戸田 学	春	火5		
ゼミナールIII (マーケティング管理研究/秋学期)	-			野口 智雄	秋	金3		
ゼミナールIII (マーケティング管理研究/春学期)	-			野口 智雄	春	金3		
ゼミナールIII (マスメディア研究/秋学期)	-			木村 智哉	秋	木5		
ゼミナールIII (マスメディア研究/春学期)	-			木村 智哉	春	木5		
ゼミナールIII (メディアと言語の研究/秋学期)	-			笹原 宏之	秋	月5		
ゼミナールIII (メディアと言語の研究/春学期)	-			笹原 宏之	春	月5		
ゼミナールIII (ラテンアメリカ研究/秋学期)	-			畑 恵子	秋	水5		
ゼミナールIII (ラテンアメリカ研究/春学期)	-			畑 恵子	春	水5		
ゼミナールIII (憲法について考える/秋学期)	-			那須 政玄	秋	金3		
ゼミナールIII (憲法について考える/春学期)	-			那須 政玄	春	金3		
ゼミナールIII (異文化コミュニケーション研究/秋学期)	-			花光 里香	秋	火4		
ゼミナールIII (異文化コミュニケーション研究/春学期)	-			花光 里香	春	火4		
ゼミナールIII (医療と法/秋学期)	-			横野 恵	秋	火3		
ゼミナールIII (医療と法/春学期)	-			横野 恵	春	火3		
ゼミナールIII (応用マクロ経済学研究/秋学期)	-			及川 浩希	秋	火5		
ゼミナールIII (応用マクロ経済学研究/春学期)	-			及川 浩希	春	火5		
ゼミナールIII (科学と人間/秋学期)	-			小山 慶太	秋	金4		
ゼミナールIII (科学と人間/春学期)	-			小山 慶太	春	金4		
ゼミナールIII (会社法の研究/秋学期)	-			川島 いづみ	秋	火4		
ゼミナールIII (会社法の研究/春学期)	-			川島 いづみ	春	火4		
ゼミナールIII (環境及び資源経済学研究/秋学期)	-			赤尾 健一	秋	月5		
ゼミナールIII (環境及び資源経済学研究/春学期)	-			赤尾 健一	春	月5		
ゼミナールIII (環境政策+ヨーロッパ連合地域研究/秋学期)	-			坪郷 實	秋	水5		
ゼミナールIII (環境政策+ヨーロッパ連合地域研究/春学期)	-			坪郷 實	春	水5		
ゼミナールIII (環境法政策研究/秋学期)	-			黒川 哲志	秋	水4		
ゼミナールIII (環境法政策研究/春学期)	-			黒川 哲志	春	水4		
ゼミナールIII (企業活動の研究/秋学期)	-			井上 正	秋	水5		
ゼミナールIII (企業活動の研究/春学期)	-			井上 正	春	水5		
ゼミナールIII (企業財務論研究/秋学期)	-			鶴山 康典	秋	水5		
ゼミナールIII (企業財務論研究/春学期)	-			鶴山 康典	春	水5		
ゼミナールIII (空間映像研究/秋学期)	-			佐藤 洋一	秋	水4		
ゼミナールIII (空間映像研究/春学期)	-			佐藤 洋一	春	水4		
ゼミナールIII (刑法研究/秋学期)	-			杉本 一敏	秋	火5		
ゼミナールIII (刑法研究/春学期)	-			杉本 一敏	春	火5		

ゼミナール

年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	時限
4年~	2	ゼミナールIII (契約法研究/秋学期)	-	吉田 和夫	秋	水3
		ゼミナールIII (契約法研究/春学期)	-	吉田 和夫	春	水3
		ゼミナールIII (経営分析研究/秋学期)	-	菊井 高昭	秋	月5
		ゼミナールIII (経営分析研究/春学期)	-	菊井 高昭	春	月5
		ゼミナールIII (経済と環境の実証分析/秋学期)	-	鷲津 明由	秋	月3
		ゼミナールIII (経済と環境の実証分析/春学期)	-	鷲津 明由	春	月3
		ゼミナールIII (現代アメリカ政治過程の研究/秋学期)	-	今村 浩	秋	水5
		ゼミナールIII (現代アメリカ政治過程の研究/春学期)	-	今村 浩	春	水5
		ゼミナールIII (現代社会と音楽文化/秋学期)	-	笠羽 映子	秋	水4
		ゼミナールIII (現代社会と音楽文化/春学期)	-	笠羽 映子	春	水4
		ゼミナールIII (現代社会における基本的人権/秋学期)	-	西原 博史	秋	水5
		ゼミナールIII (現代社会における基本的人権/春学期)	-	西原 博史	春	水5
		ゼミナールIII (現代社会学研究/秋学期)	-	周藤 真也	秋	水5
		ゼミナールIII (現代社会学研究/春学期)	-	周藤 真也	春	水5
		ゼミナールIII (公共文化研究/秋学期)	-	小長谷 英代	秋	水5
		ゼミナールIII (公共文化研究/春学期)	-	小長谷 英代	春	水5
		ゼミナールIII (行政・地域自治研究/秋学期)	-	福生 信男	秋	水5
		ゼミナールIII (行政・地域自治研究/春学期)	-	福生 信男	春	水5
		ゼミナールIII (国際関係研究/秋学期)	-	奥迫 元	秋	火4
		ゼミナールIII (国際関係研究/春学期)	-	奥迫 元	春	火4
		ゼミナールIII (国際協力と平和構築/秋学期)	-	山田 満	秋	水4
		ゼミナールIII (国際協力と平和構築/春学期)	-	山田 満	春	水4
		ゼミナールIII (国際経済と金融システム/秋学期)	-	得田 雅章	秋	金5
		ゼミナールIII (国際経済と金融システム/春学期)	-	北村 能寛	春	火4
		ゼミナールIII (国際経済法研究/秋学期)	-	福永 有夏	秋	金5
		ゼミナールIII (国際経済法研究/春学期)	-	清水 尊雄, 福永 有夏	春	金5
		ゼミナールIII (国際人権法研究/秋学期)	-	後藤 光男	秋	火5
		ゼミナールIII (国際人権法研究/春学期)	-	後藤 光男	春	火5
		ゼミナールIII (財務会計研究/秋学期)	-	菅野 浩勢	秋	月5
		ゼミナールIII (財務会計研究/春学期)	-	菅野 浩勢	春	月5
		ゼミナールIII (社会科学の哲学/秋学期)	-	吉田 敬	秋	火5
		ゼミナールIII (社会科学の哲学/春学期)	-	吉田 敬	春	火5
		ゼミナールIII (社会思想と現実/秋学期)	-	古賀 勝次郎	秋	金5
		ゼミナールIII (社会思想と現実/春学期)	-	古賀 勝次郎	春	金5
		ゼミナールIII (社会保険・社会福祉をめぐる諸問題/秋学期)	-	久塚 純一	秋	水5
		ゼミナールIII (社会保険・社会福祉をめぐる諸問題/春学期)	-	久塚 純一	春	水5
		ゼミナールIII (社会問題研究/秋学期)	-	成富 正信	秋	火5
		ゼミナールIII (社会問題研究/春学期)	-	成富 正信	春	火5
		ゼミナールIII (情報科学研究/秋学期)	-	土方 正夫	秋	火5
		ゼミナールIII (情報科学研究/春学期)	-	土方 正夫	春	火5
		ゼミナールIII (情報産業の経済分析/秋学期)	-	土門 晃二	秋	火5
		ゼミナールIII (情報産業の経済分析/春学期)	-	土門 晃二	春	火5
		ゼミナールIII (人口と家族の比較研究/秋学期)	-	小島 宏	秋	火5
		ゼミナールIII (人口と家族の比較研究/春学期)	-	佐藤 龍三郎	春	火5
		ゼミナールIII (世界経済の研究/秋学期)	-	弦間 正彦	秋	月4
		ゼミナールIII (世界経済の研究/春学期)	-	弦間 正彦	春	月4
		ゼミナールIII (制度設計の経済学/秋学期)	-	笠島 洋一	秋	金2
		ゼミナールIII (制度設計の経済学/春学期)	-	笠島 洋一	春	金2
		ゼミナールIII (政策科学研究/秋学期)	-	上沼 正明	秋	火5
		ゼミナールIII (政策科学研究/春学期)	-	上沼 正明	春	火5
		ゼミナールIII (政治思想研究/秋学期)	-	厚見 恵一郎	秋	火5
		ゼミナールIII (政治思想研究/春学期)	-	厚見 恵一郎	春	火5
		ゼミナールIII (生命システム研究/秋学期)	-	輪湖 博	秋	月5
		ゼミナールIII (生命システム研究/春学期)	-	輪湖 博	春	月5
		ゼミナールIII (多国籍企業の研究/秋学期)	-	長谷川 信次	秋	水4
ゼミナールIII (多国籍企業の研究/春学期)	-	長谷川 信次	春	水4		
ゼミナールIII (男女の働き方を考える/秋学期)	-	大森 真紀	秋	月5		
ゼミナールIII (男女の働き方を考える/春学期)	-	大森 真紀	春	月5		
ゼミナールIII (地球・地域学研究/秋学期)	-	池田 雅之	秋	月5		
ゼミナールIII (地球・地域学研究/春学期)	-	池田 雅之	春	月5		
ゼミナールIII (中国研究/秋学期)	-	劉 傑	秋	金5		
ゼミナールIII (中国研究/春学期)	-	劉 傑	春	金5		
ゼミナールIII (哲学・倫理学/秋学期)	-	千葉 清史	秋	水5		
ゼミナールIII (哲学・倫理学/春学期)	-	千葉 清史	春	水5		
ゼミナールIII (都市・コミュニティデザイン/秋学期)	-	卯月 盛夫	秋	火5		
ゼミナールIII (都市・コミュニティデザイン/春学期)	-	卯月 盛夫	春	火5		
ゼミナールIII (都市再生アクションリサーチ/秋学期)	-	早田 幸	秋	火5		
ゼミナールIII (都市再生アクションリサーチ/春学期)	-	早田 幸	春	火5		
ゼミナールIII (統計データ解析/秋学期)	-	須子 統太	秋	水5		
ゼミナールIII (統計データ解析/春学期)	-	須子 統太	春	水5		
ゼミナールIII (日本文化研究/秋学期)	-	内藤 明	秋	火5		
ゼミナールIII (日本文化研究/春学期)	-	内藤 明	春	火5		
ゼミナールIII (日本歴史研究/秋学期)	-	雲藤 等	秋	月5		
ゼミナールIII (日本歴史研究/春学期)	-	雲藤 等	春	月5		
ゼミナールIII (比較経済史研究/秋学期)	-	君塚 弘恭	秋	金5		
ゼミナールIII (比較経済史研究/春学期)	-	君塚 弘恭	春	金5		
ゼミナールIII (比較政治研究/秋学期)	-	池谷 知明	秋	水5		
ゼミナールIII (比較政治研究/春学期)	-	池谷 知明	春	水5		
ゼミナールIII (不動産法の研究/秋学期)	-	大西 泰博	秋	水3		
ゼミナールIII (不動産法の研究/春学期)	-	大西 泰博	春	水3		
ゼミナールIII (平和学研究/秋学期)	-	多賀 秀敏	秋	金5		
ゼミナールIII (平和学研究/春学期)	-	多賀 秀敏	春	金5		
ゼミナールIII (労働研究/秋学期)	-	篠田 徹	秋	木2		
ゼミナールIII (労働研究/春学期)	-	篠田 徹	春	木2		
ゼミナールIII (労働法の研究/秋学期)	-	清水 敏	秋	火5		
ゼミナールIII (労働法の研究/春学期)	-	清水 敏	春	火5		

IV. 学科目配当表

学科目配当表

必修英語

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限			
1年～	1	英語1-1 (春学期)	A	西野 伸一郎	春	火 4			
			B	米村 泰明	春	火 3			
			C	米村 泰明	春	火 4			
			D	遠藤 雪枝	春	土 3			
			E	奥田 大三	春	火 3			
			F	奥田 大三	春	火 4			
			G	遠藤 雪枝	春	土 4			
			H	大西 章夫	春	木 4			
			I	佐藤 義夫	春	木 3			
			J	佐藤 義夫	春	木 4			
			K	西野 伸一郎	春	火 3			
			L	大西 章夫	春	土 3			
			M	大西 章夫	春	土 4			
			N	矢野 磯乃	春	木 3			
			O	矢野 磯乃	春	木 4			
			P	矢野 磯乃	春	木 5			
			Q	小林 亜紀子	春	火 3			
			R	小林 亜紀子	春	火 4			
			S	堀内 香織	春	火 4			
			T	長田 哲男	春	火 4			
			U	堀内 香織	春	火 5			
			V	長田 哲男	春	火 5			
			W	堀内 香織	春	火 3			
			X	児島 千珠代	春	火 4			
			1年～	1	英語1-1 (秋学期)	A	西野 伸一郎	秋	火 4
						B	米村 泰明	秋	火 3
						C	米村 泰明	秋	火 4
						D	遠藤 雪枝	秋	土 3
						E	奥田 大三	秋	火 3
						F	奥田 大三	秋	火 4
						G	遠藤 雪枝	秋	土 4
						H	大西 章夫	秋	木 4
						I	佐藤 義夫	秋	木 3
						J	佐藤 義夫	秋	木 4
						K	西野 伸一郎	秋	火 3
						L	大西 章夫	秋	土 3
M	大西 章夫	秋				土 4			
N	矢野 磯乃	秋				木 3			
O	矢野 磯乃	秋				木 4			
P	矢野 磯乃	秋				木 5			
Q	小林 亜紀子	秋				火 3			
R	小林 亜紀子	秋				火 4			
S	堀内 香織	秋				火 4			
T	長田 哲男	秋				火 4			
U	堀内 香織	秋				火 5			
V	長田 哲男	秋				火 5			
W	堀内 香織	秋				火 3			
X	児島 千珠代	秋				火 4			
2年～	1	英語1-1 (春学期)				Y	池田 雅之	春	月 3
		英語1-1 (秋学期)				Y	池田 雅之	秋	月 3
2年～	1	英語1-2 (春学期) /スピーチ				A	ケイ・ハスキー	春	木 3
						B	湯舟 英一	春	火 3
						C	休講		
						D	休講		
		英語1-2 (秋学期) /スピーチ				A	ケイ・ハスキー	秋	木 3
						B	湯舟 英一	秋	火 3
						C	休講		
						D	休講		

必修英語

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限			
2年～	1	英語2-1 (春学期)	A	阿部 敬子	春	水 3			
			B	伊藤 健一郎	春	水 4			
			C	伊藤 健一郎	春	水 3			
			D	伊藤 健一郎	春	水 5			
			E	中谷 久一	春	水 4			
			F	山口 高領	春	水 3			
			G	大月 実	春	金 5			
			H	小泉 朝子	春	水 3			
			I	山口 高領	春	水 5			
			J	原田 明子	春	水 3			
			K	中谷 久一	春	水 3			
			L	小泉 朝子	春	水 4			
			M	前沢 明枝	春	水 5			
			N	原田 明子	春	水 4			
			O	原田 明子	春	水 5			
			P	池田 史彦	春	月 3			
			Q	池田 史彦	春	月 4			
			R	池田 史彦	春	月 5			
			S	島森 尚子	春	金 4			
			T	蜂巣 泉	春	金 3			
			U	島森 尚子	春	金 5			
			V	蜂巣 泉	春	金 4			
			W	大月 実	春	金 4			
			2年～	1	英語2-1 (秋学期)	X	小長谷 英代	秋	水 3
						Y	山口 高領	秋	水 4
						Z	山口 高領	秋	金 3
						A	阿部 敬子	秋	水 3
						B	伊藤 健一郎	秋	水 4
						C	伊藤 健一郎	秋	水 3
						D	伊藤 健一郎	秋	水 5
						E	中谷 久一	秋	水 4
						F	山口 高領	秋	水 3
G	大月 実	秋				金 5			
H	小泉 朝子	秋				水 3			
I	山口 高領	秋				水 5			
J	原田 明子	秋				水 3			
K	中谷 久一	秋				水 3			
L	小泉 朝子	秋				水 4			
M	前沢 明枝	秋				水 5			
N	原田 明子	秋				水 4			
O	原田 明子	秋				水 5			
P	池田 史彦	秋				月 3			
Q	池田 史彦	秋				月 4			
R	池田 史彦	秋				月 5			
S	島森 尚子	秋				金 4			
T	蜂巣 泉	秋				金 3			
U	島森 尚子	秋				金 5			
V	蜂巣 泉	秋				金 4			
W	大月 実	秋				金 4			
X	小長谷 英代	秋				水 3			
Y	山口 高領	秋				水 4			
Z	山口 高領	秋				金 3			

学科目配当表

IV. 学科目配当表

必修英語

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限
2年～	1	英語2-2 (コミュニケーション) (春学期)《基礎》 英語2-2 (コミュニケーション) (春学期) /リスニング	A	市賀 弘之	春	金 3
			B	光野 昭雄	春	月 3
			C	光野 昭雄	春	月 4
			D	光野 昭雄	春	月 5
			E	市賀 弘之	春	金 4
			F	市賀 弘之	春	金 5
			G	千葉 敦	春	月 3
			H	高柳 文江	春	水 3
			I	高柳 文江	春	水 4
			J	千葉 敦	春	月 4
		英語2-2 (コミュニケーション) (春学期) /会話	K	前沢 明枝	春	水 3
			L	前沢 明枝	春	水 4
			M	コガントーラス ジョセフ	春	水 3
			N	阿部 敬子	春	金 3
			O	阿部 敬子	春	金 4
			P	川口 エレン	春	金 4
			Q	川口 エレン	春	金 5
			R	花光 里香	春	金 3
		英語2-2 (コミュニケーション) (春学期) /スピーチ	S	山口 高領	春	金 4
			T	須永 美奈子	春	月 3
			U	高島 美穂	春	月 4
			V	島森 尚子	春	金 3
		英語2-2 (コミュニケーション) (春学期) /ライティング	W	長田 宣子	春	水 4
			X	伊波 浩美	春	月 3
			Y	馬場 広信	春	金 4
			Z	馬場 広信	春	金 5
			A	市賀 弘之	秋	金 3
		英語2-2 (コミュニケーション) (秋学期)《基礎》 英語2-2 (コミュニケーション) (秋学期) /リスニング	B	光野 昭雄	秋	月 3
			C	光野 昭雄	秋	月 4
			D	光野 昭雄	秋	月 5
			E	市賀 弘之	秋	金 4
			F	市賀 弘之	秋	金 5
G	千葉 敦		秋	月 3		
H	高柳 文江		秋	水 3		
I	高柳 文江		秋	水 4		
J	千葉 敦		秋	月 4		
K	前沢 明枝		秋	水 3		
英語2-2 (コミュニケーション) (秋学期) /会話	L	前沢 明枝	秋	水 4		
	M	コガントーラス ジョセフ	秋	水 4		
	N	阿部 敬子	秋	金 3		
	O	阿部 敬子	秋	金 4		
	P	川口 エレン	秋	金 4		
	Q	川口 エレン	秋	金 5		
	R	花光 里香	秋	金 3		
	S	山口 高領	秋	金 4		
英語2-2 (コミュニケーション) (秋学期) /スピーチ	T	須永 美奈子	秋	月 3		
	U	高島 美穂	秋	月 4		
	V	島森 尚子	秋	金 3		
	W	長田 宣子	秋	水 4		
英語2-2 (コミュニケーション) (秋学期) /ライティング	X	伊波 浩美	秋	月 3		
	Y	馬場 広信	秋	金 4		
	Z	馬場 広信	秋	金 5		

教養外国語

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限
1年～	1	ドイツ語1基礎	A	千葉 清史	春	水 2
			B	那須 政玄	春	水 3
			C	関口 浩	春	金 1
			D	関口 浩	春	金 2
			E	鈴木 哲	春	月 2
		ドイツ語2基礎	A	小山田 豊	春	月 1
			B	小山田 豊	春	月 2
			C	小柳 美代子	春	金 2
			D	新田 章	春	金 2
			E	新田 章	春	金 3
		ドイツ語1初級	A	千葉 清史	秋	水 2
			B	那須 政玄	秋	水 3
			C	関口 浩	秋	金 1
			D	関口 浩	秋	金 2
			E	鈴木 哲	秋	月 2
		ドイツ語2初級	A	小山田 豊	秋	月 1
			B	小山田 豊	秋	月 2
			C	小柳 美代子	秋	金 2
			D	新田 章	秋	金 2
			E	新田 章	秋	金 3
		フランス語1基礎	A	小澤 真	春	月 2
			B	笠羽 映子	春	月 2
			C	中沢 信一	春	水 2
			D	石川 学	春	水 2
			E	佐藤 朋子	春	金 2
		フランス語2基礎	A	中沢 信一	春	水 3
			B	石川 学	春	水 3
			C	笠羽 映子	春	月 3
			D	佐藤 朋子	春	金 3
			E	小澤 真	春	月 3
		フランス語1初級	A	小澤 真	秋	月 2
			B	笠羽 映子	秋	月 2
			C	中沢 信一	秋	水 2
			D	石川 学	秋	水 2
			E	佐藤 朋子	秋	金 2
		フランス語2初級	A	中沢 信一	秋	水 3
			B	石川 学	秋	水 3
			C	笠羽 映子	秋	月 3
			D	佐藤 朋子	秋	金 3
			E	小澤 真	秋	月 3
		スペイン語1基礎	A	杉守 慶太	春	月 1
			B	杉守 慶太	春	月 2
			C	井垣 昌	春	金 2
			D	井垣 昌	春	金 3
			E	杉山 佳子	春	金 1
			F	杉山 佳子	春	金 2
			H	休講		
		スペイン語2基礎	A	睦月 規子	春	金 2
			B	睦月 規子	春	金 1
			C	山本 昭代	春	月 2
			D	山本 昭代	春	月 1
E	矢田 陽子		春	月 2		
F	倉田 量介		春	月 1		
スペイン語1初級	A	杉守 慶太	秋	月 1		
	B	杉守 慶太	秋	月 2		
	C	井垣 昌	秋	金 2		
	D	井垣 昌	秋	金 3		
	E	杉山 佳子	秋	金 1		
	F	杉山 佳子	秋	金 2		
	H	休講				
スペイン語2初級	A	睦月 規子	秋	金 2		
	B	睦月 規子	秋	金 1		
	C	山本 昭代	秋	月 2		
	D	山本 昭代	秋	月 1		
	E	矢田 陽子	秋	月 2		
	F	倉田 量介	秋	月 1		
2年～	1	スペイン語1基礎	Y	矢田 陽子	春	月 1
		スペイン語2基礎	Y	倉田 量介	春	月 2
		スペイン語1初級	Y	矢田 陽子	秋	月 1
		スペイン語2初級	Y	倉田 量介	秋	月 2

IV. 学科目配当表

学科目配当表

教養外国語

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限	
1年～	1	中国語1基礎	A	花井 みわ	春	水3	
			B	劉 傑	春	水2	
			C	花井 みわ	春	水1	
			D	陳 焯	春	水1	
			E	劉 岸麗	春	金3	
			F	劉 岸麗	春	金2	
			G	王 紅艶	春	金1	
			H	王 紅艶	春	金2	
			I	花井 みわ	春	水2	
			J	休講			
			K	休講			
			中国語2基礎	A	鄭 成	春	水1
				B	筒井 紀美	春	月2
		C		稲葉 明子	春	水2	
		D		稲葉 明子	春	水1	
		E		筒井 紀美	春	月1	
		F		稲葉 明子	春	水3	
		G		江 秀華	春	金3	
		H		山影 統	春	金1	
		I		山影 統	春	金2	
		J		休講			
		K		休講			
		中国語1初級		A	花井 みわ	秋	水3
				B	劉 傑	秋	水2
			C	花井 みわ	秋	水1	
			D	陳 焯	秋	水1	
			E	劉 岸麗	秋	金3	
			F	劉 岸麗	秋	金2	
			G	王 紅艶	秋	金1	
			H	王 紅艶	秋	金2	
			I	花井 みわ	秋	水2	
			J	休講			
			K	休講			
			中国語2初級	A	鄭 成	秋	水1
				B	筒井 紀美	秋	月2
		C		稲葉 明子	秋	水2	
		D		稲葉 明子	秋	水1	
		E		筒井 紀美	秋	月1	
		F		稲葉 明子	秋	水3	
		G		江 秀華	秋	金3	
		H		山影 統	秋	金1	
		I		山影 統	秋	金2	
		J		休講			
		K		休講			
		2年～		1	中国語1基礎	Y	黄 斌
Z	黄 斌					春	月3
中国語2基礎	Y		黄 斌		春	金3	
	Z		黄 斌		春	金2	
中国語1初級	Y		黄 斌		秋	月2	
	Z		黄 斌		秋	月3	
中国語2初級	Y		黄 斌		秋	金3	
	Z		黄 斌		秋	金2	

選択外国語

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限
1年のみ	2	コミュニケーション英語	1	休講		
2年～	1	ドイツ語1《準中級》	A	町田 輝雄	春	木4
			B	鈴木 哲	春	月3
		ドイツ語1《中級》	A	町田 輝雄	秋	木4
			B	鈴木 哲	秋	月3
		ドイツ語2《準中級》	A	那須 政玄	春	水2
			B	小柳 美代子	春	金3
		ドイツ語2《中級》	A	那須 政玄	秋	水2
			B	小柳 美代子	秋	金3
		フランス語1《準中級》	A	マルティネルイ ソロ	春	月4
			B	マルティネルイ ソロ	春	月5
		フランス語1《中級》	A	マルティネルイ ソロ	秋	月4
			B	マルティネルイ ソロ	秋	月5
		フランス語2《準中級》	A	綾部 素幸	春	水1
			B	北村 喜久子	春	木3
		フランス語2《中級》	A	綾部 素幸	秋	水1
			B	北村 喜久子	秋	木3
		中国語1《準中級》	A	鄭 成	春	水2
			B	江 秀華	春	金4
		中国語1《中級》	A	鄭 成	秋	水2
			B	江 秀華	秋	金4
		中国語2《準中級》	A	陳 焯	春	火2
			B	陳 焯	春	火3
		中国語2《中級》	A	陳 焯	秋	火2
			B	陳 焯	秋	火3
		スペイン語1《準中級》	A	石井 登	春	水4
			B	石井 登	春	水5
		スペイン語1《中級》	A	石井 登	秋	水4
			B	石井 登	秋	水5
スペイン語2《準中級》	A	N・ロベス	春	金2		
	B	N・ロベス	春	金3		
スペイン語2《中級》	A	N・ロベス	秋	金2		
	B	N・ロベス	秋	金3		

自由科目

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限
3年～	2	職業指導 1	-	小島 貴子	春	水4
		職業指導 2	-	小島 貴子	秋	火2

現代日本学プログラム (CJSP) 提供科目

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日	時間	オープン科目	
1年～	2	Japan and World War II: Historical Controversies	-	ホートン ウィリアム ブラッドリー	春	月	3		
		Japan in East Asia: Basic Studies	-	多賀 秀敏	秋	金	2		
		Japan in East Asia : Contemporary Social Issues	-	多賀 秀敏 ※	春	金	2		
		Migration and Social Change in East Asia	-	本多 美樹 ※	春	木	5	○	
		On Identity: A Socio-political Analysis	-	隔年休講					
		Development Assistance by Japan: ODA and NGOs	-	隔年休講					
		War and Japan	-	奥迫 元	春	火	2		
		Readings in Japan in the World (Fall)	-	山本 まゆみ	秋	金	3		
		Readings in Japan in the World (Spring)	-	山本 まゆみ	春	金	3		
		Western Images of Japan: Mid 16th Century to Late 19th Century	-	隔年休講					
		History of Modern Japan: From Edo to the Present (Fall)	-	休講					
		Japanese Cultural History: Ancient Times to 1600	-	コーガン トーマス ジョセフ	秋	火	3		
		Women in Modern Japan: Outside Encounters and Early Changes	-	ホートン ウィリアム ブラッドリー	秋	月	3	○	
		Intercultural Communication	-	隔年休講					
		Japanese Patterns of Communication	-	花光 里香 ※	秋	火	5		
		Japanese Literature : Classical	-	コーガン トーマス ジョセフ ※	秋	火	4		
		Western Images of Japan : Early 20th Century to the Present	-	コーガン トーマス ジョセフ ※	春	火	3		
		Japanese Cultural History : 1600 to the Present	-	コーガン トーマス ジョセフ	春	火	4		
		A Cultural History of Tea	-	コーガン トーマス ジョセフ ※	春	月	3		
		Women in Modern Japan : Contemporary Japanese Women	-	ホートン ウィリアム ブラッドリー	春	月	4		
		History of Modern Japan : From Edo to the Present (Spring)	-	休講					
		Japanese Literature: Modern	-	隔年休講					
		Readings in Culture and History (Fall)	-	小長谷 英代	秋	木	2		
		Readings in Culture and History (Spring)	-	重松 優	春	金	3		
		The Japanese of the 20th Century: The Immigrant Experience	-	休講					
		Trans-Pacific Perspectives on Race, Ethnicity, and Migration	-	隔年休講					
		Law in Japanese Society (Fall)	-	小室 輝久	秋	金	3		
		Law in Japanese Society (Spring)	-	休講					
		Politics in Modern Japan	-	本多 美樹	秋	木	5	○	
		Game Theory	-	笠島 洋一	春	木	1		
		The Japanese of the 20th Century : Work, Culture, and Society	-	篠田 徹 ※	春	土	1		
		Trans-Pacific Perspectives on Work, Culture, and Society	-	篠田 徹 ※	春	土	2		
		Economic Development of Modern Japan	-	バイスウェイ サイモン ジェイムス	春	金	5		
		Understanding the Japanese Economy: Macroeconomic Perspectives	-	弦間 正彦	秋	月	3		
		Political Process	01	マツクルウエイン ケネス モリ	春	水	3		
		Microeconomics A	01	ヴェステグ ロベルト フェレンツ	春	月	5		
		Macroeconomics A	01	小枝 淳子	春	水	2		
		Japan in the Age of Globalization	-	本多 美樹	秋	木	3		
		Contemporary Japanese Foreign Policy	-	本多 美樹	春	木	3	○	
		Understanding the Japanese Economy: Microeconomic Perspectives	-	弦間 正彦	春	火	5		
		Social Issues in Modern Japan	-	休講				○	
		Introduction to Economics	-	隔年休講					
		Readings in Society and Politics (Fall)	-	本多 美樹	秋	水	3		
		Readings in Society and Politics (Spring)	-	本多 美樹	春	水	3		
		Media and Society in Modern Japan (Fall)	-	篠田 徹	秋	土	1		
Science and Technology in Japan (Fall)	-	詫間 直樹	秋	木	3				
Media and Society in Modern Japan (Spring)	-	休講							
Media in Japan : History of Japanese Media	-	毛利 嘉孝 ※	秋	水	5				
Media in Japan: Contemporary Japanese Media Studies	-	田総 恵子	春	水	4	○			
Science and Technology in Japan (Spring)	-	詫間 直樹	春	火	3				
Environmental Law in Japan	-	黒川 哲志	秋	金	4				
Readings in Japanese Technology and Environment (Fall)	-	重松 優	秋	金	5				
Readings in Japanese Technology and Environment (Spring)	-	重松 優	春	金	4				
Mathematics for Political Economy	01	クヴァソフ デミトリ	秋	水	4				
					水	5			
2年～	2	Global Food Security : Demand and Supply Challenges	-	弦間 正彦	秋	火	4		
		Global Food Security : Climate Change, Food, and Agriculture	-	弦間 正彦	春	火	4		
		Japanese Trade and East Asian Community	-	トラン ヴァントウ ※	秋	火	4		
		Industrialization in Historical Perspective	-	休講					
4	Public Administration	01	休講						
3年～	2	Contemporary Political Analysis (Japan)	-	チュチエック マイケル トーマス	秋	火	2		
		Public Finance in Japan Today	-	休講					
		Japan and Peacebuilding : UN Policies	-	山田 満 ※	秋	火	5		
		Introduction to Information Science	-	休講					
		Japanese Community Design (Machizukuri)	-	鈴木 俊治	春	水	5		
		Urban History of Tokyo	-	佐藤 洋一	春	金	5		
		Japan and Peacebuilding : Asian Policies	-	隔年休講					
Housing and Community Development	-	休講							

※隔年開講科目

お問い合わせ先

① 科目履修に関するご相談

1 4号館3階 社会科学部事務所（対面・電話）

Tel: 03-3204-8952 Email: socsaca@list.waseda.jp

【開室時間】 授業期間中) 月-金：9～19時、土：9時～17時

授業期間外) 月-金：9時～17時

※日曜・祝日は閉室です。

※電話対応は17時までです。

※平日17時以降、また土曜日は担当者が不在の可能性があります。

② Web 科目登録に関するご質問

IT サービス ヘルプデスク（24時間受付）

【問い合わせ方法】

MyWaseda (my.waseda.jp) 「成績照会・科目登録専用」

→「お問い合わせフォーム」

※質問は24時間受け付けていますが、回答が翌日以降になる場合があります。

※各登録期間終了間際の間合せには回答できない場合があります。

時間に余裕をもって科目登録を行ってください。

③ MyWaseda の ID/PASS に関するご質問

7号館1階 早稲田ポータルオフィス

URL: www.waseda.jp/wpo/

【開室時間】 授業期間中) 月-金：9～20時、土：9時～18時

授業期間外) 月-金：9時～18時

※日曜・祝日は閉室です。

※開室時間が変更する場合があります。URLを参照してください。



SSS

社会科学部

School of
Social Sciences